



越谷自然探訪Ⅲ
いきもの
発見図鑑

越谷自然探訪Ⅲ
いきもの
発見図鑑





越谷自然探訪

いきもの

発見図鑑



発刊にあたって

越谷市は、中央を元荒川が貫流し、東を大落古利根川と中川、西を綾瀬川に挟まれ、その中を用水路が縦横に走る水と緑に恵まれた自然豊かな「水郷こしがや」として人々に親しまれてきました。

田んぼや用水路にはメダカやカエルが泳ぎ、畦道にはイナゴやバッタが跳ね、大空にはシラコバトが舞うなど、人々の暮らしの周りに当たり前のように鳥や魚や虫たちがいました。

しかし、私たちの周りから生き物たちの姿が徐々に少なくなってきました。都市化や温暖化に伴い生き物たちの生息域も変わってきています。

私たちは、残された自然を保護するだけでなく、失われた自然を復元・創造しながら、人と自然のバランスのとれた、「次世代へ自然と生活が調和するまちづくり」に向けて行動していくことが求められています。

本市では、平成10年に市内で見ることができる生き物を紹介した「越谷自然探訪 いきもの発見図鑑」を発行しておりますが、10年後の市制50周年にあたり、市民の皆様から新たに寄せられた情報をもとに、「越谷自然探訪 いきもの発見図鑑」を発刊する運びとなりました。

こしがやに残された自然環境は、かけがえのない資源であり、次世代の子供たちに残していかなければならない貴重な財産です。

この冊子が、こしがやの自然と接するためのガイドブックとして活用され、大切なこしがやの自然を守り、市民と生き物の豊かな関係を取り戻すために役立てていただければ幸いです。

平成20年12月

越谷市長 板川 文夫

C O N T E N T S

目 次

発刊にあたって.....	3
自然との付き合い方.....	6
希少生物.....	14
植物.....	21
・用語解説・双子葉植物（離弁花類、合弁花類）・単子葉植物	
・シダ植物	
鳥.....	71
・用語解説・カイツブリ目・ペリカン目・コウノトリ目・カモ目	
・タカ目・キジ目・ツル目・チドリ目・ハト目・カッコウ目	
・フクロウ目・ブッポウソウ目・キツツキ目・スズメ目	
昆虫.....	89
・用語解説・トンボ目・カマキリ目・バッタ目・ハサミムシ目	
・カメムシ目・コウチュウ目・ハチ目・チョウ目	
その他の生物.....	108
・哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類・甲殻類・貝類	
越谷自然探訪イラストマップ.....	121
索引・資料.....	122

いきもの発見図鑑の使い方

この本では、越谷市内の貴重な動植物生息情報約29,000件の中から野外で目につきやすく、発見しやすいもの約350種を掲載しました。

子どもから大人まで、誰もがわかりやすいように、専門的な用語はできるだけさげ、親しみやすい説明としました。

解説の内容は、越谷市を中心に書かれていますので、データや記述など、ほかの図鑑などにある表現とは異なる場合もあります。

ふるさと越谷の自然に親しみ、越谷に残された貴重な自然を再認識していただくためのガイドブックとして、図鑑等を使う前の入門用としてもご利用いただけます。

グループごとに分けてインデックスを色分けしてあります。それぞれ同じ分類の項目は同じ色になっています。

この名称は、標準和名といわれるもので、日本国内で共通する正式な名前です。

学名 ラテン語で書かれており、世界共通のもです。

07いきもの調査で見られた、おもな場所を示しています。



双子葉植物 合弁花類 キク科

セイヨウタンポポ

Taraxacum officinale

花の時期・色 一年中・黄色

特徴 ヨーロッパ原産の帰化植物で高さ10～30cmの多年草です。太い根の根茎から多数の根生葉を出します。中空の花茎を出し舌状花のみの頭花をつけます。つぼみの時から外側の総苞片が外側に反り返っていることで在来のタンポポと区別することができます。そう果が赤味を帯びる種をアカミタンポポといいいます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。

学名については以下の文献を引用しました

植物
フィールド版 日本の野生植物草本
日本帰化植物写真図鑑
鳥類
日本鳥類目録 改訂第6版
昆虫
埼玉県昆虫誌
哺乳類
世界文化生物大図鑑 動物 哺乳類・爬虫類・両生類
日本動物大百科 哺乳類

爬虫類・両生類
世界文化生物大図鑑 動物 哺乳類・爬虫類・両生類
日本動物大百科 両生類・爬虫類・軟骨魚類
魚類
山溪カラー名鑑 日本の淡水魚
クモ類
原色日本クモ類図鑑
甲殻類
原色甲殻類検索図鑑
貝類
世界文化生物大図鑑 貝類
原色世界貝類図鑑 ()

自然とのつき合い方 ～出かける前に～

出かける前に、いくつかのポイントがあります。
ポイントに注意して、まわりを眺めてみましょう。

【自然観察のユニフォーム】

上 着：虫にさされたり、草木でけがをしったりかぶれたりしないように、長そでのえりのついた服にしましょう。

ズボン：丈夫な生地で、歩きやすく、ポケットがたくさんついているものをはきましょう。

く つ：丈夫ですべらない靴にしましょう。

帽 子：帽子は必ずかぶりましょう。

リュックサック：両手は荷物でふさがず、あけておきましょう。



【リュックサックの中身は？】

持っていきましょう

観察ノート、筆記用具、
ビニール袋、輪ゴム、
雨具、タオル、
救急セット、手袋、水筒



あると便利でしょう

図鑑、虫メガネ・ルーペ、
双眼鏡、ものさし、カメラ等



持ち物は、必要最低限のものにしましょう。

【観察ノートの記録】

観察ノートは後でわかるように記録しましょう。
5W1Hの原則を忘れずに！

記録すること

1. 年月日
2. 観察場所
3. 天候
4. 対象（何を観察したのか）
5. 気づいたこと



このほかにも必要なことは記録しましょう。

自然観察の マナー

1. 採集はやめましょう。...とってよいのは写真だけにしましょう
2. 大きな音や声を立てないようにしましょう。
3. 巣や卵、子づれの家族の観察は静かにしましょう。
4. ごみは全部持ち帰りましょう。
5. 通路をはずれて踏み込まないようにしましょう。

自然とのつき合い方 ~ 気をつけて ~

【花粉症の原因は風媒花】

花を咲かせる植物は種子をつくって仲間をふやします。花粉をめしべに運ぶ為に、いろいろ工夫を凝らしています。花粉を風に運んでもらって受粉する植物を風媒花ふうばいかといいます。受粉が風まかせなので、多数の花粉をとどこかまわすまき散らします。花粉が広い範囲にひろがるために眼や鼻にアレルギー反応を引き起こす原因となっていることがあります。(スギ、ヒノキなどの裸子植物、ブナ科、イネ科、カヤツリグサ科の植物など) 虫媒花の花粉でも、触った手で眼や鼻をこすったり、セイタカアワダチソウなどの群生した中で花粉をあびると花粉症をおこすことがあります。

花粉症原因植物 春：スギ、ヒノキ、カモガヤ、ソメイヨシノ、ケヤキ
夏：スイバ、クリ、ヒメガマ、イネ、オオブタクサ、
秋：オヒシバ、カナムグラ、シロザ、ヨモギ、
冬：ハンノキ、ウメ、ツバキ、イチゴ、キク



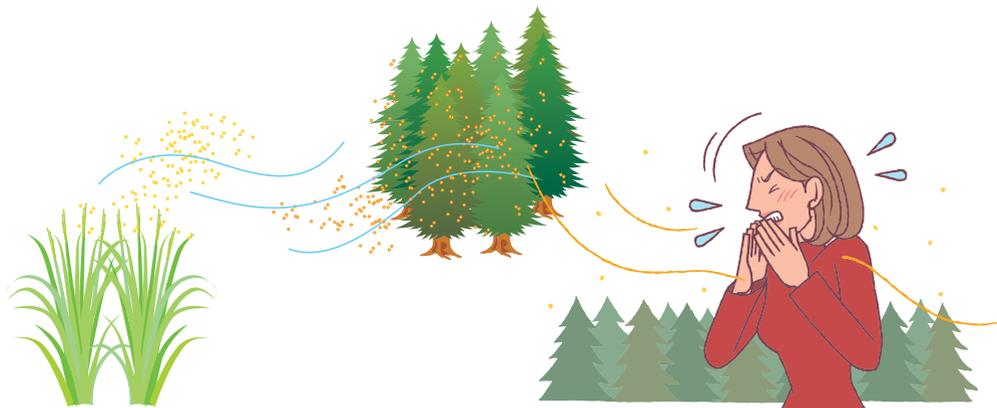
スギ



カナムグラ



オオブタクサ



自然とのつき合い方 ~近づかないで~

カキノキ・サクラ類・クリなどにはイラガ類、ツバキ科のツバキ類・サザンカ・チャノキなどにチャドクガがいることがあります。これらは危険な毒毛虫ですので不用意に近づかないようにしましょう。

昆虫のなかには、幼虫や成虫にふれると激痛がはしるものがあります。

イラガ類（イラガ、ヒロヘリアオイラガ）：植性はカキノキ、サクラ類、クリなど
イラガ類の幼虫のトゲは有毒で触れると激痛がはしります。刺された時は冷水で洗うと痛みが和らぎます。成虫とまゆには毒はありません。イラガのまゆの様子は各々違い本がでていくくらいですので一見の価値があります。



チャドクガ：植性はツバキ類、サザンカ、チャノキ



目に見えない細かな毒針毛が風に運ばれ、近くにいるだけでもかぶれることがあります。卵から成虫までの全段階で毒をもちます。刺されたら患部をこすらずに流水で洗い流して病院に行ったほうがよいでしょう。

オオスズメバチ



秋には大きな集団となり、土中などに大型の巣ができます。巣の近くは大変危険です。刺されれば命にかかわることがありますので不用意に近づかないようにしましょう。



自然とのつき合い方 ~待っています~



野原や道沿いを歩いていたら、ズボンの裾や靴ひも、上着などに植物の実がついていた。それは「ひつつきむし」です。だれかが来てくれるのをじっと待っていたのです。歩くことのできない植物が、実りの季節にたくさんの実をつけて、運んで広げてもらう為に、あなたを待っているのです。

ひつつく仕組みは何通りかあります。



とげがフックのようなかたちの
オオオナモミ、ミズヒキ、キンミズヒキ、
ヤエムグラ、ヌスビトハギなど



オオオナモミ



ミズヒキ



キンミズヒキ



ヤエムグラ



ヌスビトハギ



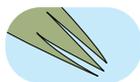
トゲが逆さについている
アメリカセンダングサ、
チカラシバなど



コダングサ



チカラシバ



ヘアピンのようにつく
イノコズチ



イノコズチ



粘液をだしつく
チヂミザサ



チヂミザサ

このほかにもオオバコの実は濡れるとねばり靴底についてひろがるので、人の通る道沿いに広がっています。



自然とのつき合い方 ~待っています~



花を咲かせる植物は種子をつくってなまをふやしますが、花粉を風まかせにしていた風媒花に対し、虫媒花ちゅうばいかといい、花粉を昆虫にはこんでもらって受粉する花があります。昆虫たちのために色あざやかな花びらや甘い香り、ご褒美の蜜や花粉を用意して待っているのです。



やわらかい木の実の小鳥が大好物です。木の実を食べた鳥たちによって移動し、ふんとともに排出されます。そこが木の実にとってあらたな場所となります。





希少生物

越谷に生息する希少動植物として、埼玉県レッドデータブックに掲載された植物5種、鳥7種、合計12種について以下の順序で掲載しました。

植物 アサザ(絶滅危惧 B類) ミゾコウジュ(絶滅危惧 類) キタミソウ(絶滅危惧 A類) ノウルシ(絶滅危惧 類) ミズアオイ(絶滅危惧 B類)

鳥類 ヨシゴイ(絶滅危惧 類) チウサギ(絶滅危惧 類) カリガネ(絶滅) クイナ(絶滅危惧 類) オオバン(絶滅危惧 A類) コアジサシ(絶滅危惧 B類) シラコバト(絶滅危惧 類)

上記以外の希少生物については、植物・鳥・昆虫・その他の生物の各項目に記載しています。

埼玉県レッドデータブック(植物編、動物編)カテゴリー

植物編

- ・絶滅 (EX: すでに絶滅したと考えられる種)
- ・野生絶滅 (EW: 飼育・栽培下でのみ存続している種)
- ・絶滅危惧 類 (CR + EN: 絶滅の危機に瀕している種)
 - A類 (CR: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
 - B類 (EN: A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
- ・絶滅危惧 類 (VU: 絶滅の危険が増大している種)
- ・準絶滅危惧 (NT: 存続基盤が脆弱な種)
- ・情報不足 (DD: 評価するだけの情報が不足している種)
- ・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

動物編

- ・絶滅 (EX: すでに絶滅したと考えられる種)
- ・野生絶滅 (EW: 飼育・栽培下でのみ存続している種)
- ・絶滅危惧 類 (CR + EN: 絶滅の危機に瀕している種)
 - A類 (CR: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
 - B類 (EN: A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
- ・絶滅危惧 類 (VU: 絶滅の危険が増大している種)
- ・準絶滅危惧 (NT: 存続基盤が脆弱な種)
 - NT 1: 環境条件の評価によって、容易に絶滅危惧に移行し得る属性を本来有しているもの。
 - NT 2: 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
- ・情報不足 (DD: 評価するだけの情報が不足している種)
- ・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
- ・地帯別危惧 (RT: 地帯別に見たときに存続基盤が脆弱な種)



双子葉植物 合弁花類 ミツガシワ科

アサザ分布図



アサザ *Nymphoides peltata*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 B類(EN)

花の時期・色 6～8月・黄色
 特徴 本州・四国・九州の池沼に生育する多年生の水草です。花冠の縁に長い毛がある花を咲かせます。葉は卵形または円形で水に浮き、茎は泥の中を横に長くはっています。近年、農薬汚染など生育環境の悪化により減少しています。越谷では、古利根川沿いで見られ、長さ1kmにわたって毎年見られます。07いきもの調査では、古利根川沿い・大吉調整池等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 シソ科

ミゾコウジュ分布図



ミゾコウジュ *Salvia plebeia*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類(VU)

花の時期・色 5～6月・薄い紫色
 特徴 本州・四国・九州の田のあぜや路ばたのやや湿った土地に生える二年草です。高さ30～70cmになり小さな唇形花を多数つけます。花の長さは4～5mmで下唇には、紫色の斑点があります。近年、生育地の開発などにより減少しています。07いきもの調査では、健康福祉村・葛西用水等で見られました。



キタミソウ *Limosella aquatica*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 A類 (CR)

花の時期・色 10月と3月ごろの年2回・白
 特徴 北海道の北見で最初に発見されたのでこの名がつけられたといわれています。北方系の植物で、日本では越谷市やその近隣地域・熊本市で多数生育しています。越谷市では、古利根川と元荒川流域で確認されていますが、最も多く群生して見られるのは、葛西用水尻曾根溜井です。直径2mmほどの可憐な花を咲かせます。

双子葉植物 合弁花類 ゴマノハグサ科

キタミソウ分布図



ノウルシ *Euphorbia adenochlora*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類 (VU)

花の時期・色 4~5月・黄色
 特徴 河川敷の泥地など、湿地に生える高さ30cmほどの多年草です。茎は直立、葉は互生し、細長い楕円形で長さ5~6cm、幅6~7mmです。4~5月に茎の先端に5枚の葉を輪生し、そこから放射状に枝を出して複数の花をつけます。葉や茎を傷つけると漆に似た白い汁が出てかぶれることから野漆のうろしの名がつけました。
 07いきもの調査では、元荒川沿い・大成町等で見られました。

双子葉植物 離弁花類 トウダイグサ科

ノウルシ分布図





単子葉植物

ミズアオイ科

ミズアオイ分布図



ミズアオイ *Monochoria korsakowii*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 B類(EN)

花の時期・色 9～10月・青紫色

特徴 水田や沼・湿地などに生える高さ20～40cmの1年草です。茎や葉の内部はカイメンのようでやわらかく、花の穂は葉よりも高くのびます。6本のおしべのうち1本は大きく、名は水辺に生え、葉の形がアオイに似ていることからつきました。

07いきもの調査では、古利根川沿いで見られました。



鳥類

コウノトリ目

サギ科

ヨシゴイ分布図



ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類 (VU)

鳴き声 オー、オー

特徴 夏鳥 全長36cm。日本で見られるサギの仲間では最も小さく、全体が黄褐色で頭と翼の風切は黒色です。ヨシなどの枯れ葉を集めて皿型の巣を作り、人が近づくとくちばしと首をのばしてじっとしているので、まわりのヨシと見分けがつきにくい。水田・湿地・池沼などに生息しています。

07いきもの調査では、大古調節池で見られました。



鳥類 コウノトリ目 サギ科

チュウサギ分布図



チュウサギ *Egretta intermedia*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類 (VU)

鳴き声 グェー、またはグワァー

特徴 主に夏鳥 全長68cm。コサギより大きく、全体が白色です。夏羽ではくちばしが黒色で、目先が黄色く、胸と背にダイサギに似た飾り羽をもちます。冬羽では飾り羽がなくなり、くちばしは黄色で先が黒くなります。他のサギ類と混じって集団で繁殖し、水田や川・湿地などで魚等を捕らえます。

07いきもの調査では、平方・三野宮・増林・中島等で見られました。



鳥類 カモ目 カモ科

カリガネ分布図



カリガネ *Anser erythropus*
 埼玉県レッドデータ絶滅 (EX)

鳴き声 キーキー、キウキウ

特徴 冬鳥 全長59cm。カルガモより大きく、くちばしは短い淡紅色の鳥です。足は橙黄色で、目の周囲に黄色の輪があり、額の白い部分が頭頂まであります。湖沼や河川・広い水田などで他のガン類の群に混じって見られ、草の葉や実などの植物質を食べます。越谷市では2007年11月に古利根川で幼鳥6羽が確認されました。

07いきもの調査では、古利根川・元荒川で見られました。



鳥類 ツル目 クイナ科

クイナ分布図

クイナ *Rallus aquaticus*

埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類 (VU)

鳴き声 クックッまたはクリウクリウ

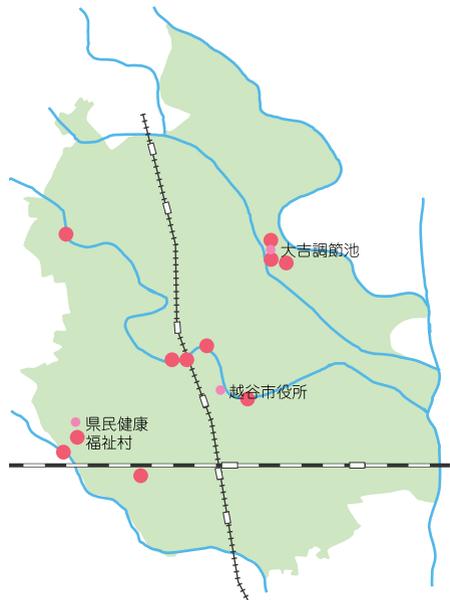
特徴 冬鳥 全長29cm。ハトより小さくて尾が短く、体の割りには足の大きな鳥です。頭から首の後方・背・尾・翼の上面などは暗褐色で、はっきりした黒色の縦斑があります。顔から胸は青灰色で、くちばしは長く、下くちばしは赤色です。水田や湿地にすみ、ミミズや魚等を食べます。草の中にいるので、姿は見つけにくい鳥です。

07いきもの調査では、大吉調節池等で見られました。



鳥類 ツル目 クイナ科

オオバン分布図

オオバン *Fulica atra*

埼玉県レッドデータ絶滅危惧 A類 (CR)

鳴き声 キョンキョン

特徴 留鳥 全長39cm。ハトより大きくて、体は黒く、くちばしと額が白い鳥です。足は長く、指には木の葉のようなひれがついています。水上生活が主で、地上を歩くことはまれです。湖沼やゆるやかな河川等、草の繁茂した水辺に生息し、水草や昆虫・魚等を食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村等で見られました。



コアジサシ *Sterna albifrons*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 B類 (EN)

鳴き声 キリッ、キリッ

特徴 夏鳥 全長28cm。小型のアジサシで、背と翼の上面は淡青灰色をしています。夏羽は額が白く頭上から後頭が黒色、くちばしは黄色で先端が黒く、足は褐色です。冬羽は、額と頭頂が白く後頭は黒色で、くちばしは黒く、足は褐色です。水面上空を飛び回り、ホバリングやダイビングをして魚を捕食します。オスはメスに求愛給餌やディスプレイ・フライトをします。

07いきもの調査では、葛西用水(市役所付近)・健康福祉村等で見られました。

鳥類 チドリ目 カモメ科

コアジサシ分布図



シラコバト *Streptopelia decaocto*
 埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類 (VU)

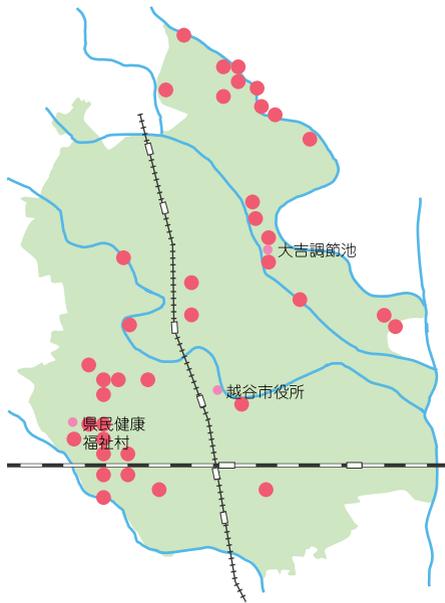
鳴き声 ポポーポ、ポッポロロー

特徴 留鳥 全長32cm。埼玉県「県民の鳥」、越谷市「市の鳥」に指定されています。一時は越谷市の宮内庁埼玉鴨場周辺に20数羽しかいなくなり、絶滅寸前でしたが、現在では埼玉県の東部を中心に千葉県・茨城県・栃木県・群馬県・東京都などの一部にも分布しています。1956年1月14日、国の天然記念物に指定されました。

07いきもの調査では、平方・増林・健康福祉村周辺等で見られました。

鳥類 ハト目 ハト科

シラコバト分布図





植物

植物編は、越谷市内に多く見られる植物を中心に52科172種について、以下の分類、順序で掲載しました。

裸子植物（胚珠が子房に包まれず直接受粉する。）

イチョウ科、スギ科

被子植物（種子の子房で完全に包まれている。）

双子葉植物（種子から芽が出たときに双葉を広げる。葉には網状脈がある。）

・離弁花類（花びらの一枚ずつが離れて独立していることが多い。）

カバノキ科、ブナ科、ニレ科、クワ科、タデ科、ヤマゴボウ科、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、クスノキ科、キンボウゲ科、アケビ科、ドクダミ科、ケシ科、アブラナ科、ユキノシタ科、ベンケイソウ科、バラ科、マメ科、カタバミ科、フウロソウ科、トウダイグサ科、ブドウ科、スミレ科、ウリ科、アカバナ科、セリ科

・合弁花類（花びらの全部または一部が合着して、丸くなっている。）

アカネ科、ヒルガオ科、ムラサキ科、シソ科、ナス科、ゴマノハグサ科、オオバコ科、スイカズラ科、キク科

単子葉植物（種子から芽が出たときに子葉を一枚しか出さない。葉は細長く、単葉で葉脈が平行している。）

オモダカ科、ユリ科、ヒガンバナ科、ヤマノイモ科、アヤメ科、イグサ科、ツククサ科、イネ科、ウキクサ科、ガマ科、カヤツリグサ科、ラン科

シダ植物（胞子によって殖える。）

トクサ科

植物用語解説

一年草

種子が発芽・成長しその年のうちに開花・結実して枯れ、種子で冬を越す。

越年草

種子が発芽・成長しその年の内に開花せず、翌年に開花・結実する一年草。

二年草

種子が発芽・成長し開花・結実して枯れるまで2~3年にわたる植物。

多年草

冬に地上茎部は枯れるが地下部や根は生残り、翌春に芽を出し成長を続ける植物。

羽状複葉(うじょうふくよう)...小葉が鳥の羽のように並んで1枚の葉のように見える。

液果(えきか)...成熟すると果皮に多量の水分を含み、やわらかくなる果実。

花冠(かかん)...花弁の集まったもの。

花糸(かし)...葯を付ける細い柄の部分。

果実(かじつ)...子房が受粉後発育したもので、内に種子を入れる。

花序(かじょ)...花の集まり。

花柱(かちゅう)...雌しべの柱頭と子房の間の部分。

花被(かひ)...がくと花冠の総称。がく片を外花被片、花冠を内花被片とよぶ。

花粉(かふん)...雄しべの葯の中に作られる雄性の細胞。

花柄(かへい)...花序の花をつける小さい枝。

花弁(かべん)...花びらのこと。

帰化植物(きかしょくぶつ)...外国の植物が、人間や荷物などについて日本に渡り、繁殖し、野生化したもの。

距(きょ)...スミレの花のように、花びらの一部が袋状に突き出した部分。

鋸歯(きょし)...葉の縁の、のこぎり状に切れ込んだギザギザのこと。

剛毛(ごうもう)...茎などにあるかたい毛。

根生葉(こんせいよう)...根元(根ではない)から出ている葉。根出葉とも言う。

歯牙(しが)...葉の縁のぎざぎざのこと。ぎざぎざが

山形になっているものをいう。(ぎざぎざが葉の先に向いているのが鋸歯、ないものを全縁という)

子房(しぼう)...雌しべの下部のふくらんだ部分で、発育して果実となる。

雌雄異株(しゆういしゅ)...同一種で、雌花と雄花がそれぞれ別の株につくもの。

舌状花(ぜつじょうか)...5枚の花びらが合着し、一方に集まって舌状になった形。キク科の花の一つ。

腺毛(せんもう)...葉や茎の表面に付属し、粘液を分泌する毛。

総苞(そうほう)...花序の基部にある小型の葉、もしくはその集合。

束生(そくせい)...茎が株だち状になること。

托葉(たくよう)...葉柄の基部にある葉片。

托葉鞘(たくようしょう)...托葉が変形し茎を巻く鞘状になっているもの。

地下茎(ちかかけい)...地中に出来る茎。形で根茎、球茎、塊茎、鱗茎などと言う。

虫媒花(ちゅうばいか)...花粉が虫によって運ばれて、受粉する花。

筒状花(とうじょうか)...一つの花の全部の花びらがつながり、管状となったもの。

芒(のぎ)...イネ科植物で果実の外側の先から出る細長い硬い毛のようなもの。

風媒花(ふうばいか)...花粉が風によって運ばれ、受粉する花。

閉鎖花(へいさか)...花が開かないまま、つぼみの中で自家受粉して結実する花。

苞葉(ほうよう)...花序の中の部分にある小型の葉。

葡萄枝(ほぶくし)...地表を長く伸びて這う茎で、節から根や葉を出し、ランナーとも言う。

葯(やく)...雄しべの先についていて、花粉をつくる袋。

葉腋(ようえき)...葉の付け根のこと。

葉鞘(ようしょう)...葉の基部が茎を取り囲んで鞘状になったもの。

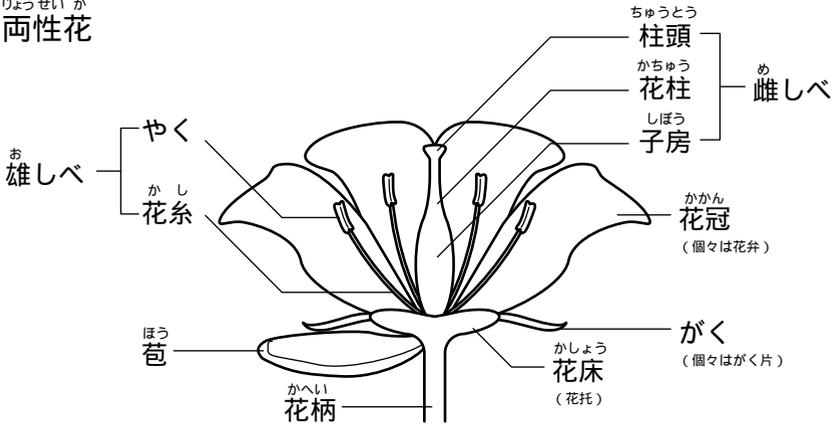
葉柄(ようへい)...葉身と茎の間の部分。

稜(りょう)...実や茎などにある、出っ張った筋を言う。

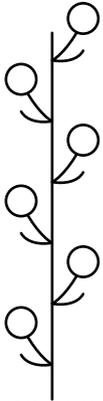
ロゼット...根本から出た葉が地表に放射状にひろがった形。

珠芽(むかご)...葉腋に出た芽に養分が蓄えられて肥大し、かたまりになったもの。

りょうせい か
両性花



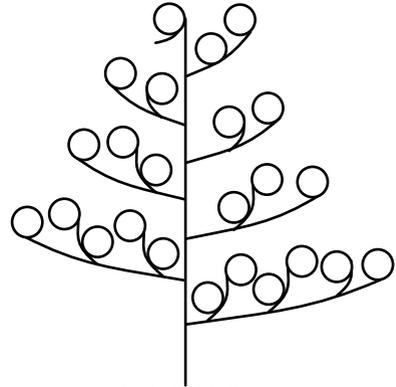
か じょ
花のつき方 (花序)



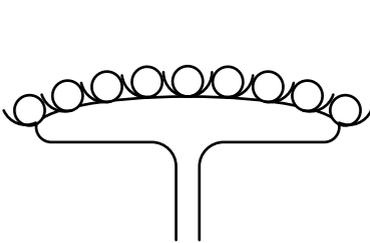
そうじょうか じょ
総状花序



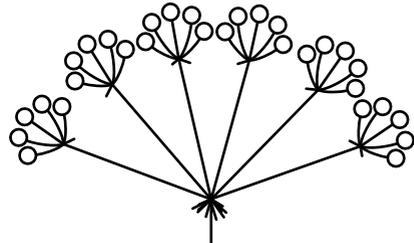
すいじょうか じょ
穂状花序



えんすいじょうか じょ
円錐状花序



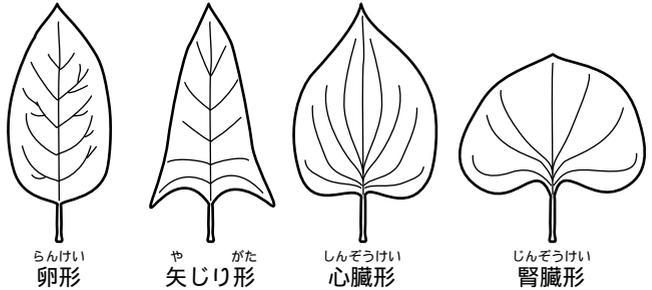
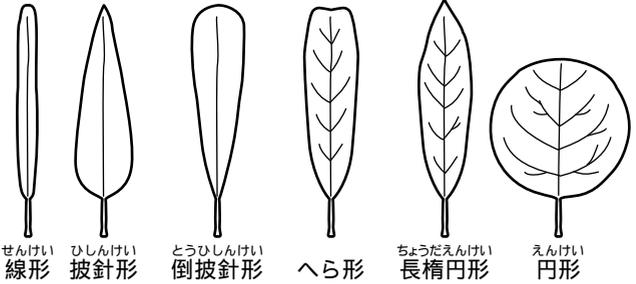
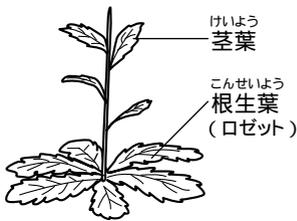
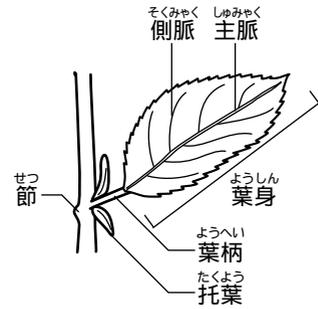
とうじょうか じょ
頭状花序
とうか
(頭花)



さんけい か じょ
散形花序
ふくさんけい か じょ
(復散形花序)

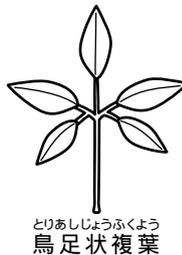
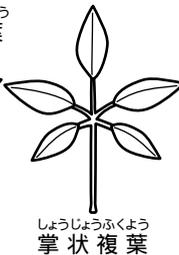
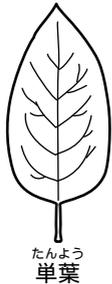
葉の形とつき方

葉の形

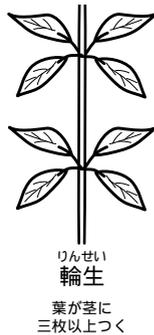
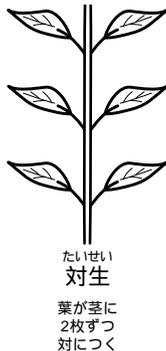


単葉と複葉

複葉: 複数の小さな葉(小葉)が集まって1枚の葉を形成する葉のこと。



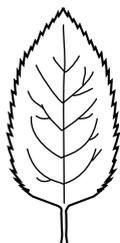
葉のつき方



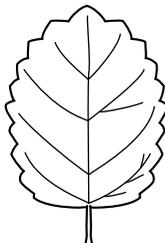
ようえん
葉縁の形



ぜんえん
全縁

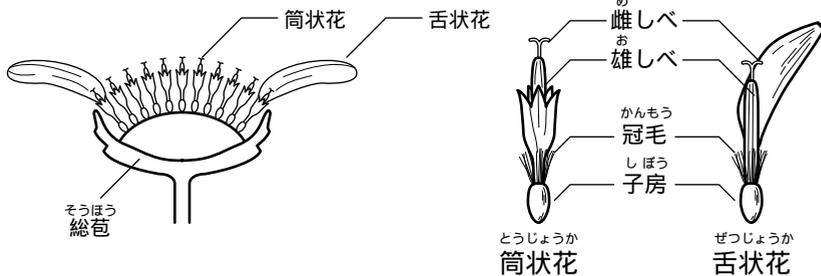


きょし
鋸歯



しが
歯牙

菊科の頭花



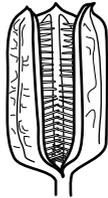
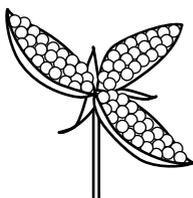
とうじょうか
筒状花

ぜつじょうか
舌状花

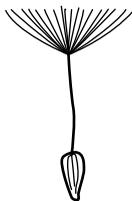
果実のいろいろ

さくか
蒴果

タチツボスミレ オオウバユリ



そうか
蒴果 キク科

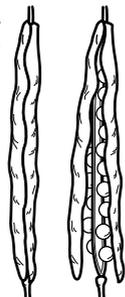


とうか
豆果

エンドウ
フジ

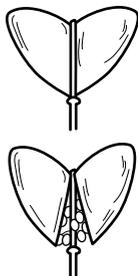


ちょうかくか
長角果



アブラナ科

たんかくか
短角果 ナズナ



えきか
液果 トマト
カキ
ブドウ



けんか
堅果

コナラ
シラカシ
クヌギ



裸子植物

イチヨウ科

イチヨウ

Ginkgo biloba

花の時期・色 4～5月・新葉とともに開花 雄花は穂状で淡黄色、雌花は緑色で長い柄の先が二つに分かれそれぞれ1個の胚珠がつく

特徴 雌雄異株の落葉高木、葉は扇形で秋に美しく黄葉します。葉の形がカモの足に似ていることから中国では鴨脚樹(ヤアチャオ)といいそれがなまって日本語のイチヨウといわれます。雄の古木にはチチといわれる大きな気根が垂れることがあります。葉をしおりに使うと植物に含まれるピロボールやイチヨウ酸のため、シミ(紙魚)がわかないといわれています。種子の外皮は黄色で悪臭、白くかたい内種皮がギンナンで食用になります。



裸子植物

スギ科

スギ

Cryptomeria japonica

花の時期・色 4月・雄花は淡黄色、楕円形で多数、雌花は緑色、球状で1個

特徴 日本特産で、各地に最も多く植林されている常緑高木です。葉は小型の鎌状針形でらせん状につきます。2～4月頃大量に飛散する花粉は、スギ花粉症の原因とされ、近年問題となっています。



双子葉植物

離弁花類

カバノキ科

ハンノキ

Alnus japonica

花の時期・色 2～3月・雄花序は黒褐色、雌花序は紅紫色

特徴 低地の湿ったところに生える落葉高木です。葉は互生し長楕円状卵形で基部は広くさび形、縁に浅い鋸歯。雄花序には柄があります。前年の秋に枝の先端に雄花の花穂ができ下部に雌花が形成され3月には葉に先立って開花し雌花は成熟すると長さ2cmほどの木質の果穂となり、翌年の春まで残ります。昔は田のあぜや土手に植えて稲かけの支柱にしました。ミドリシジミの幼虫はこの葉を食べます。





双子葉植物

離弁花類

ブナ科

クヌギ

Quercus acutissima

花の時期・色 4～5月・雄花序黄褐色、本年枝の下部から7～8cmの雄花序をたらし上部の葉腋に雌花序をつける。

特徴 山地に生え落葉高木、秋に葉が枯れても離層ができず春芽ばえるまで葉をつけています。葉は互生し、長楕円状披針形で縁には針状の鋸歯、堅果は翌年の秋に成熟し、直径約2cmほぼ球形で半分は碗形の殻斗に包まれます。材はかたく、しいたけの原木、木炭に利用されます。



双子葉植物

離弁花類

ブナ科

スダジ

Castanopsis cuspidata v. sieboldii

花の時期・色 5～6月・淡黄色で長さ8～12cmの雄花序が本年枝から雌花序は6～10cmで本年枝の葉腋からでる

特徴 暖地に生える、庭や公園に良く植えられている常緑高木です。葉は互生し広楕円形上半分に波状の鋸歯があります。堅果は翌年の秋に成熟し食べられます。殻斗が果実全体を包んでいますが成熟すると3裂します。



双子葉植物

離弁花類

ニレ科

ケヤキ

Zelkova serrata

花の時期・色 4～5月・雄花は淡黄緑色、雌花は退化した雄しべと1個の雌しべ

特徴 広葉樹の落葉高木で山野に自生するほか庭木、公園樹、街路樹として植えられています。葉は互生し卵形、先はとがり基部は円形でふちには鋭い鋸歯があります。材はかたく、木目もきれいなので、建材や家具材として利用されます。関東地方に多く、寿命の長い木なので大木になり、天然記念物に指定されているものもあります。



双子葉植物 離弁花類 タラコ科

カナムグラ

Humulus japonicus

花の時期・色 9～10月・雄花は淡緑色、雌花は淡褐色

特徴 道端や荒地などに生えるつる性の一年草です。和名は「^{かた}鉄ムグラ」で茎が強いことから、また「ムグラ」は生い茂るという意味でつけられました。地面や他の植物をおおい、茎は緑色で長く伸び、ざらつくとげが多く、葉は掌状です。雄雌異株、雄花穂は枝先に円錐状につき雌花穂は短く、球果状で垂れ下がります。

07いきもの調査では、葛西用水・大吉調節池・三野宮・平方等各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

スイバ

Rumex acetosa

花の時期・色 5～8月・淡緑色・橙褐色

特徴 野原や田畑のあぜに自生する雌雄異株の、高さ30～80cmの多年草です。花や葉が橙褐色を帯びます。雌株は赤味が強く果実を飛ばした後まで枯れません。葉は互生、根生葉の葉柄は長く茎葉の葉柄は短く、茎と葉に酸味があります。別名「スカンポ」茎および葉にシュウ酸を含み酸味があることから「酸い葉」の名がついたといわれます。酸性土壌の指標生物（他にミズゴケ、ツツジ類）です。食べられますが、多食注意です。

07いきもの調査では、平方・新方川橋周辺・健康福祉村・越谷鴨場周辺などで見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

アレチギシギシ

Rumex conglomeratus

花の時期・色 6～7月・赤褐色

特徴 道端や荒地に見られるヨーロッパ原産の高さ0.5～1.2mの多年草です。全体に無毛で、根生葉は長い柄があり、基部は浅い心臟形で茎上の葉は短～無柄です。茎や葉脈は通常紫紅色を帯びます。他のギシギシ類と比べて花の集まった段と段が離れています。果実の翼は長卵形で鋸歯はなく、小型でまばらに着きます。

07いきもの調査では、西新井・南荻島・文教大学運動場周辺・平方等各地で見られました。



双子葉植物

離弁花類

タデ科

ギシギシ

Rumex japonicus

花の時期・色 5～8月・淡緑色

特徴 田畑のあぜや湿地など、やや湿り気の多いところに生える高さ0.6～1mの多年草です。茎は全体に明るい緑色で、葉は20cm内外、縁は波打っています。葉先はあまりとがらず、両性花で、小さい花は長い穂の節ごとに輪生します。果実は密に着き、初め緑色で後に白っぽくなります。和名は、葉を擦り合わせると、ギシギシと音がするからだろうといわれています。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物

離弁花類

タデ科

ナガバギシギシ

Rumex crispus

花の時期・色 5～9月・緑色

特徴 荒地や空き地、道端などに生育するヨーロッパ原産の高さ1～1.5mの多年草です。太い根を下ろし、根生葉の密生したロゼットを作ります。葉は長楕円形で縁は縮んでいます。果実の翼は広卵形で鋸歯がなく、密に着き、緑色で後に赤くなることが多いです。

07いきもの調査では、元荒川周辺・健康福祉村・埼玉県立大学周辺等で見られました。



双子葉植物

離弁花類

タデ科

コガネギシギシ

Rumex maritimus

花の時期・色 7～8月・緑色

特徴 ユーラシアの温帯や亜寒帯の海岸や内陸の砂地に生え、日本では本州北部と北海道の海岸に多く生える高さ15～60cmの一年草または越年草です。キタミソウ同様なぜか越谷にもあります。上部で枝分かかれし、全体に毛がありません。花は節に密に輪生してつき、上部は総状花序となります。

07いきもの調査では、葛西用水周辺で見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

ミズヒキ

Antenoron filiforme

花の時期・色 8～10月・上部は赤色、下部は白色
 特徴 林や藪の縁に生える高さ50～80cmの多年草です。節はふくらんで、長さ5～15cmの葉で、葉の中央に黒い斑紋ができることもあります。花序は長さ20～40cmで、上から見ると赤く、下からは白く見える花を穂状につけます。お祝いの紅白の水引に似ているのでこの名前がついたといわれています。

07いきもの調査では、平方・久伊豆神社・葛西用水・新方川等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

イシミカワ

Persicaria perfoliata

花の時期・色 7～10月・淡緑色
 特徴 道端や田のあぜ、水辺などに生えるつる性の一年草です。茎は下向きの鋭いとげで他の草や木にからみついて、さかんににはびこります。花は枝先に長めにかたまってつきますが、淡緑色なので、あまりめだちません。果実は青紫色の水分の多いがくに包まれています。おぼんのような托葉に小さなだんごをもったように見えます。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・新川2丁目・増林等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

ママコノシリヌグイ

Persicaria senticosa

花の時期・色 7～10月・花先は赤色、下部は白色
 特徴 やや湿った草原や道端、林縁などに生える高さ1～2mの一年草です。茎はつるをひっかけて長くのび、葉は互生し、長さ3～8cmの三角形で枝先に多数の花をひらきます。茎に下向きの鋭いとげがあることから、それを継母が継子の尻をふく草という悪名高い和名がついています。

07いきもの調査では、富士中学校周辺・七左町1丁目等で見られました。



双子葉植物

離弁花類

タデ科

ミゾソバ

Persicaria thunbergii

花の時期・色 7～10月・花先は紅紫色、下部は白色
 特徴 田のあぜや水辺など、やや湿ったところに群生する一年草です。茎は地面を這い、上部は立ち上がって下向きのとげがありますが、さわっても痛くありません。葉は互生し、ほこ形で長さ3～12cm、枝先に頭状の花穂をつけ、10個ほどの小花がつきます。溝に生え、葉や花がソバに似ていることからこの名前がつきました。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・健康福祉村・出羽堀周辺・元荒川周辺・平方・七左町等で見られました。



双子葉植物

離弁花類

タデ科

オオケタデ(オオベニタデ)

Persicaria pilosa

花の時期・色 8～10月・淡紅色か紅色
 特徴 アジア原産の帰化植物で、栽培されていたものが逸出して道端や荒地に野生化した高さ1～2mの一年草です。茎は太くて丈夫で、全体に毛が多いことから名付けられました(大毛蓼)。葉は他のタデと違って幅が広く、基部はハ・ト型にへこみ、長い柄があります。花穂は10～12cmで先は垂れ下がります。

07いきもの調査では、大吉・千間台西・葛西用水周辺・谷中町等で見られました。



双子葉植物

離弁花類

タデ科

イヌタデ

Persicaria longiseta

花の時期・色 6～10月・淡紅色
 特徴 道端や畑、荒地などに生える高さ20～40cmの一年草です。各地で古くからアカマンマの呼び名で親しまれ、子供のままごと遊びに使われました。茎は斜めに立ち上がり、托葉鞘の縁には長い毛があり、葉の表面には毛がありません。花序は長さ1～5cmで、淡紅色の小さな花をたくさんつけます。和名の犬蓼は食用のマタデ(ヤナギタデ)に比べ辛味がなく、似ていぬ(似て否なり)、役にたかないの意味です。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

オオイヌタデ

Persicaria lapathifolia

花の時期・色 6～10月・淡紅色、白色
 特徴 市街地の荒地や、道端に生える高さ0.7～1mの一年草です。茎はよく分枝して節は膨らんでいます。葉は長さ15～25cmの披針形で先は長くとがっていて、托葉鞘は筒状で縁には毛がありません。花序は3～10cmと長くて先は垂れ下がります。

07いきもの調査では、平方・葛西用水周辺・西方小
 周辺・大成町3丁目等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 タデ科

イタドリ

Reynoutria japonica

花の時期・色 7～10月・白色
 特徴 道端や、荒地などに生える高さ1mくらいの多年草です。根茎を横に伸ばしながら根を出し、芽を出します。葉は互生し、広卵形で長さ5～15cm、葉のつけ根に花穂を出し多数の小花を密につけます。雌雄異株で、花の色や毛の多少など変化があります。若芽は酸味があり食用になりますがタデ科の植物はシュウ酸を含有することが多いので味覚を楽しむ程度にとどめたほうが無難です。

07いきもの調査では、出津橋付近や文教大学前の元
 荒川・くすのき荘周辺・梅林公園等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ヤマゴボウ科

ヨウシュヤマゴボウ

Phytolacca americana

花の時期・色 6～9月・白色
 特徴 林の縁や、藪のなか、荒地の草むらなどに生える北アメリカ原産の帰化植物で高さ1～2mの多年草です。茎は太く枝分かれし大きな株になります。茎や葉柄、花序は紅紫色を帯び、果穂は下向きに垂れます。果実は熟すと黒紫になり赤紫色の汁がでて、衣類に着くと染まります。全草と果実には有毒物質が含まれていて、毒性がかなり強いので内用できません。山菜でヤマゴボウという名で市販されている漬物は全く違ったモリアザミの根です。

07いきもの調査では、平方・弥栄小学校周辺・神明
 町・北越谷等で見られました。



双子葉植物

離弁花類

スベリヒコ科

スベリヒコ

Portulaca oleracea

花の時期・色 7~9月・黄色

特徴 日当たりのよい道端や畑、庭などに生える多肉質の一年草です。茎は赤紫色を帯び、地面を這って広がります。葉の長さは1~2.5cmの長楕円形です。花は枝先に小さな花をつけ、日が当たると開き、暗くなると閉じます。全体に肉質で毛もなく、なめらかであることからついた名です。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物

離弁花類

ナデシコ科

ハコベ(コハコベ)

Stellaria media

花の時期・色 3~9月・白色

特徴 いたる所に生える高さ10~30cmの一年草または越年草です。全体にやわらかく、分枝しています。茎には片側に1列に並んで毛が生えていて、葉は対生し、長さ1~3cmの卵形です。春の七草としても知られ、小鳥のえさとしてもおなじみです。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物

離弁花類

ナデシコ科

ノミノフスマ

Stellaria alsine v. undulata

花の時期・色 4~10月・白色

特徴 畑や水田の縁、荒地などに生える高さ5~30cmの一年草または越年草です。全体に無毛で、茎は株状で枝を分け、斜めに立ち上がります。葉は対生し柄がなく、長さ1~2cmの長楕円形、淡緑色です。茎の先に小花を咲かせます。衾ひすまとは古い言葉でふとんを指し、小さい葉を蚤ひすまのふとんにたとえた和名です。

07いきもの調査では、総合体育館周辺・神明町・西新井・砂原等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ナデシコ科

ウシハコベ

Myosoton aquaticum

花の時期・色 4～10月・白色

特徴 山野、河原や溝などやや湿ったところに生える高さ5～50cmの越年草または多年草です。ハコベに比べて全体に大きいのを牛にたとえました。茎は斜めに立ち上がり、節の部分は黒紫色になります。葉は対生し、長さ2～7cmの卵形で上部のものは茎を抱き、花柱が5個あるのが特徴です（ハコベの花柱は3個）。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ナデシコ科

オランダミミナグサ

Cerastium glomeratum

花の時期・色 4～5月・白色

特徴 道端や草地などどこにも生える高さ10～60cmの越年草です。帰化植物で名前のオランダは「外国の」と言う意味で使われ、^{ミミナグサ}耳菜草は葉がネズミの耳に似ているということからです。在来のミミナグサに比べて全体に軟毛と腺毛が多く、茎は黒紫色を帯びません。花は花柄が短く、花は密集してつきます。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ナデシコ科

ツメクサ

Sagina japonica

花の時期・色 3～7月・白色

特徴 庭や畑地に普通に生える高さ2～20cmの一年草または越年草です。茎は根元で分岐し株になります。葉は線形で対生5～20mm、深緑色で先がとがっています。春に茎先に花柄を伸ばし先に5弁花をつけ、果実は卵形、熟すと先が5つに裂けます。和名は葉の形が鳥の爪に似ていることによりです。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アカザ科

シロザ

Chenopodium album

花の時期・色 8～10月・黄緑色

特徴 道端、荒れ地などに生える高さ0.5～1.5mの一年草です。茎には稜があり、葉の裏や芽の部分には白い粉がついていて、特に若いときはめだちます。花は小さく穂状に集まっています。若芽は苦みがあって食用となりますが、食べた後日光で過敏性皮膚炎をおこすことがありますので注意が必要です。また、生葉もんで、汁を虫さされにつけたりします。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アカザ科

アカザ

Chenopodium album v. *centrorubrum*

花の時期・色 8~9月・黄緑色

特徴 畑や道端、荒地などに生える高さ0.5~1.5mの一年草です。春先、若葉の表面は赤い粉をまぶしたようになります。葉はシロザより薄くて大きく、鋭い歯牙があります。実は赤色になります。茎が直径3cmぐらいになったものは、芭蕉の句に詠まれた延命長寿の軽くて丈夫な杖が作れます。「宿りせむあかざの杖になる日まで」

07いきもの調査では、大泊・平方・東越谷・大成町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ヒコ科

イヌビコ

Amaranthus lividus

花の時期・色 6~11月・緑色

特徴 畑や道端に生える高さ30cmぐらいの一年草です。茎はしばしば紫褐色を帯び、斜めに立つか地面を這い、たくさん枝分かれます。葉は互生し、長さ1~5cmの菱状卵形で葉先にくぼみがあります。茎の先や葉腋に緑色の穂先をつけます。果実は熟しても果被は硬化せず、緑色を保ちます。

07いきもの調査では、平方・元荒川周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ヒコ科

イノコズチ (ヒカゲイノコズチ)

Achyranthes bidentata v. *japonica*

花の時期・色 8~9月・緑色

特徴 山野の木陰や、竹藪など、あまり日の当たらない所に生える高さ0.5~1.5mの多年草です。茎は四角形で、節がふくらみ、葉は対生し、長さ5~15cmの長楕円形で薄く、先はとがっています。枝先に細い穂状花序をつけ、小花をつけます。実は長楕円形米粒大で、秋から冬に藪のなかを歩くと衣服にたくさんついてきます。漢方薬の牛膝は根の部分で、茎にはところどころに節のようなふくらみがあり、その節が牛の膝の関節に似ているところからきています。

07いきもの調査では、砂原・小曾川・七左町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ヒコ科

クスノキ

Cinnamomum canphora

花の時期・色 5~6月・初め白く後に黄緑色 10~11月に黒紫色球形の実

特徴 暖地性の常緑高木で関東以西に自生または植栽されています。寿命の長い虫のつきにくい樹なので大木が多く残っています。葉は互生、つやがあり卵形、先端はとがり、三つの脈があり主脈の分岐点は小さくふくらんでいます。前年の葉は4~5月にすべて新しい葉と入れ替わり、茎・葉・材とも樟腦のにおいがします。アオスジアゲハの幼虫はこの葉を食べます。



双子葉植物 離弁花類 キンボウゲ科

タガラシ

Ranunculus sceleratus

花の時期・色 4~5月・黄色

特徴 水田や溝などに生える高さ40~50cmの越年草です。有毒成分を含み、かむと苦みがあることから「田辛し」の名前があります。茎は直立し、3深裂し、裂片はさらに細かく裂けます。花は黄色の5弁の花を咲かせます。花後、小型の瘦果せうこが集まって、8~12mmの楕円形となります。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・増林・元荒川周辺などで見られました。



双子葉植物 離弁花類 キンボウゲ科

キツネノボタン

Ranunculus silerifolius

花の時期・色 4~7月・黄色

特徴 田のあぜや溝など湿った所に生える高さ30~60cmの多年草です。葉には深い切れ込みがあり、その基は鞘のようになっています。花は黄色でつやがあります。果実は球形で先がかぎ状に曲がり、多数集まってコンペイ糖状になります。葉の形がボタンの葉に似ているのでこの名前がつけました。

07いきもの調査では、平方・大吉調節池・葛西用水周辺・西新井・健康福祉村・総合体育館周辺などで見られました。



双子葉植物 離弁花類 キンボウゲ科

ケキツネノボタン

Ranunculus cantoniensis

花の時期・色 4~7月・黄色

特徴 田のあぜや溝など湿った所に生える高さ40~60cmの多年草です。茎はよく枝分かれし、立った毛が生えています。葉には深い切れ込みがあり両面にねた毛がたくさん生えていて、花は黄色でつやがあります。またキツネノボタンは果実の先がかぎ状に曲がるのに対し、ほとんど曲がりません。和名は毛が多いことによります。

07いきもの調査では、平方・千間台西・西新井・神明町などで見られました。



双子葉植物 離弁花類 アケビ科

アケビ

Akebia quinata

花の時期・色 4~5月・淡紫色

特徴 藪や林内に生える落葉性のつるになる木です。右巻きに木の幹や枝にからみ、葉は長い葉柄のある掌状複葉で小葉は5個あります。葉の間から総状花序を出し、淡紫色の花を咲かせます。花には花弁はなく、3個のがく片があります。果実は熟すと割れて、白くて甘い果肉につつまれた黒い種子が出てきます。

07いきもの調査では、七左町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ドクダミ科

ドクダミ

Houttuynia cordata

花の時期・色 6~7月・白色

特徴 半日陰地に群生する高さ30~50cmの多年草です。草全体に独特の悪臭がありますが、この臭気は熱や乾燥によって簡単に分解してしまいます。白い根茎でふえ、葉は心臓形で光沢のない暗緑色です。茎の上部に花穂をだして、花弁のない小さな花を多数つけます。白い花弁のように見えるのは総苞片で4枚あります。和名は毒や痛みに効くということから「毒痛み」が転じたものといわれています。民間薬としてよく知られています。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ケシ科

ムラサキケマン

Corydalis incisa

花の時期・色 4~6月・紅紫色

特徴 やや湿った林縁や道端など、土のやわらかな半日陰に生える20~50cmの越年草です。茎はやわらかく無毛で、切ると臭いにおいのする水液がでます。葉は羽状で切れ込みが多く長い柄があります。花は筒状唇形で、4~20個集まって総状花序になります。ケマンとは、寺院で飾る装飾具のことです。

07いきもの調査では、平方・神明町・梅林公園等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ケシ科

ナガミヒナゲシ

Papaver dubium

花の時期・色 4~5月・橙色

特徴 道端や市街地に帰化している地中海地方原産の越年草です。根生葉は口ゼットで茎生葉は細深裂して無柄、互生します。茎の上部に長い花茎を出し直径2~5cmの花をつけます。果実は直径8mm長さ2cmほどの円柱形で、果実が細長いことからの名がついています。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アブラナ科

ナズナ

Capsella bursa-pastoris

花の時期・色 3~6月・白色

特徴 畑や道端、空き地や庭などに生える高さ15~50cmの越年草です。根生葉はかたまって四方に広がり、切れ込みが深くて柄があります。茎は春早くまっすぐに立ち、柄のない葉と、白い花をたくさんつけます。果実の形が三味線のパチに似ていることからペンペン草の別名があります。また、春の七草の一つでもあります。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 離弁花類 アブラナ科

タネツケバナ

Cardamine flexuosa

花の時期・色 3~5月・白色

特徴 湿り気の多い春の田んぼに生える高さ20~30cmの越年草です。茎はまっすぐに立ち、枝分かれしています。葉は互生し、茎の下部では7~11小葉からなる複葉で、頂の葉はほかより大型です。枝先に総状花序を出し、小さな花を次々と咲かせます。春、イネの種もみを水につけるころ、花が咲くのでこの名前がつきました。

07いきもの調査では、平方・神明町・元荒川周辺・総合体育館周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アブラナ科

コイヌガラシ

Rorippa cantoniensis

花の時期・色 3~5月・黄色

特徴 水田や道端の湿地に生える高さ20~40cmの一年草または越年草です。茎はまっすぐに立ち、枝分かれしています。葉は羽状に裂け、切れ込みが深く、花は葉のもとに1個ずつ咲きます。花後の果実は、細長い円柱状で湾曲しています。

07いきもの調査では、大泊・南荻島・三野宮等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アブラナ科

イヌガラシ

Rorippa indica

花の時期・色 4~9月・黄色

特徴 道端や草地に生える高さ20~30cmの多年草です。根生葉は束生して羽状に裂けますが、茎上部の葉は羽裂していません。花は柄があり、総状花序について、下から上へ咲いてゆきます。果実は細長い円柱状で湾曲しています。和名は芥子菜かいらし菜に似ているが食用にならないとして、犬芥子といわれます。

07いきもの調査では、平方・西新井・小曾川・神明町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アブラナ科

スカシタゴボウ

Rorippa islandica

花の時期・色 4~10月・黄色

特徴 水田や道端の湿地に生える高さ30~50cmの越年草です。根生葉は柄があり、多数が束生し深く羽状に裂けています。茎につく葉はほとんど柄がなく、上部のものは分裂せず披針形となります。花は、枝先の総状花序に有柄の小さな十文字花を咲かせます。果実は短くて、長楕円形になり果柄は後に下に向かいます。

07いきもの調査では、新方川橋周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アブラナ科

カラシナ (セイヨウカラシナ)

Brassica juncea

花の時期・色 4~5月・黄色

特徴 旧ソ連で栽培していたものがヨ・ロッパかアメリカから入って来たものと考えられています。セイヨウアブラナによく似ていますが、花はやや小さく、葉の基部は茎を抱きません。在来のカラシナよりやせた感じがします。辛みのある葉を食用としたり、種子からは香辛料のカラシをつくるため、世界各地で栽培されています。

07いきもの調査では、元荒川・葛西用水の平和橋周辺・総合体育館周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ベンケイソウ科

コモチマンネングサ

Sedum bulbiferum

花の時期・色 4~6月・黄色

特徴 街中の空き地や道端、畑の周りに生育する越年草です。茎は根ぎわから多く分かれ、下部は地を這い上部は立ち上がります。上部の葉は互生し、下部の葉は対生します。全体が多肉質で長持ちしそうに見えて‘万年草’、葉腋にむかごをつくるので‘子持ち’といわれます。種子ができませんのでむかごで越冬し繁殖しますが、親株の近くでは成長しにくい植物です。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ユキノシタ科

ユキノシタ

Saxifraga stolonifera

花の時期・色 5~7月・白色

特徴 各地の湿った岩の上などに群生する高さ20~50cmの半常緑の多年草です。庭園にも良く栽培されます。葉や茎には褐色の毛が生えていて、糸状で紅紫色のランナーでふえ、葉は腎臓形です。和名は、白花を雪に例えたものとか、雪の下にあって葉が青々しているからとか、葉の白斑からとかいわれています。

07いきもの調査では、平方南町・大泊・七左町・元荒川周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 バラ科

ヘビイチゴ

Duchesnea chrysantha

花の時期・色 4~6月・黄色

特徴 水田のあぜや道端などの、やや湿り気のあるところに生える多年草です。葉は3小葉です。果実は赤く、一面に小さな突起があり、よく有毒だといわれますが、毒性はありません。ただし、食べてもおいしくありません。果実は球形で直径1~1.5cmです。

07いきもの調査では、大吉・元荒川・葛西用水周辺・児童館コスモス等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 バラ科

コバナキジムシロ

Potentilla amurensis

花の時期・色 5～6月・黄色

特徴 北東アジア原産の一年草または越年草で、高さ10cm、直径20cm程の株をつくります。ヘビイチゴに似ていますが、ヘビイチゴより小さな直径0.7cm程の花を株から伸びた茎の先に咲かせます。北方系の植物で日本国内での生息確認は少ないようです。

07いきもの調査では、砂原・北後谷・元荒川北越谷周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 バラ科

ノイバラ

Rosa multiflora

花の時期・色 5～6月・白色

特徴 山野や、河原に生える高さ2mくらいの落葉低木です。枝には鋭いとげがあり、葉は互生しています。小葉は3～4対あり、卵形または長楕円形をしています。表面は光沢がなく、裏面と葉軸に短毛が生えます。枝先の円錐花序に芳香のある白い花をたくさん咲かせます。果実は球形で赤く熟し、果実酒などにします。

07いきもの調査では、平方・蒲生旭町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 バラ科

ナガボノシロワレモコウ

Sanguisorba tenuifolia v. alba

花の時期・色 8～9月・白色

特徴 やや湿ったところに生える高さ0.6～1mの多年草です。分岐した枝先に穂状花序をつけ、花穂は長さ8～9cmの円筒状になります。近年個体数が少なくなっています。

07いきもの調査では、埼玉鶴岡周辺で見られました。



双子葉植物 離弁花類 バラ科

ワレモコウ

Sanguisorba officinalis

花の時期・色 9～11月・暗赤色

特徴 山野の日当たりのよい草地に生える高さ0.7～1mの多年草です。葉は奇数羽状複葉、小葉は長楕円形で縁が粗く、鋸歯状になります。枝先に円頭状の直立した果穂をつけます。花弁はなく、がく片と雄しべはそれぞれ4つしかありません。

07いきもの調査では、埼玉鶴岡周辺で見られました。



双子葉植物 離弁花類 バラ科

キンミズヒキ

Agrimonia pilosa v. japonica

花の時期・色 7～10月・黄色

特徴 道端や原野、山麓などに多い高さ40～90cmの多年草です。葉は互生し、奇数羽状複葉です。茎や葉には毛が生えており、夏から秋にかけて茎の先から枝を伸ばし、多数の黄色い5弁の花を穂状に咲かせます。この黄色い花穂を、祝儀袋等を包む水引に見立てて名がつけられました。実にはかぎ形のとげがあり、他物に付着します。

07いきもの調査では、健康福祉村等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科

ゲンゲ（レンゲソウ）

Astragalus sinicus

花の時期・色 4～6月・紅紫色

特徴 水田地帯を中心に野生化した中国原産の帰化植物で高さ10～20cmの越年草です。根に根粒菌がついて空気中の窒素を固定できるため、もともとは緑肥として利用されてきました。葉は4～5対の小葉からなる羽状複葉です。10～20cmの花柄の先に7～11個の蝶形花を輪状につけます。

07いきもの調査では、増林・増森・西新井・総合体育館周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科

ムラサキツメクサ

Trifolium pratense

花の時期・色 5～8月・赤紫色

特徴 日当たりの良い乾いた場所に多く、道端や荒地などでよく見られる高さ50cmの多年草です。このように横に広がるシロツメクサに対して、本種は立ち上がります。小葉に淡い斑紋が見られ、茎には毛があります。原産はヨーロッパで、比較的寒冷地を好むようですが、現在では各地で野生化しています。

07いきもの調査では、大泊・大吉調節池周辺や健康福祉村・元荒川周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科

シロツメクサ

Trifolium repens

花の時期・色 5～10月・白色

特徴 ヨーロッパ原産の多年草で、牧草として世界中に広がっています。葉はふつう3小葉からなり、まれに4枚のものがあり、四つ葉のクローバーとして喜ばれています。原産はヨーロッパで、江戸時代に帰化しました。オランダからガラス器を送るときのパッキング材と一緒に持ち込まれたため、「詰め草」の名がついたといわれています。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科
カラスノエンドウ (ヤハズエンドウ)

Vicia angustifolia

花の時期・色 3~6月・紅紫色

特徴 人里近くに生える高さ1mくらいの越年草です。葉の先端は3つに分かれ、巻きひげとなってからみつきます。豆果は3~5cmの広線形で黒く熟します。乾燥するとねじれるように裂けて5~10個の種子を跳ね飛ばします。カラスの名は、この種子が黒いところからついたといわれています。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科
スズメノエンドウ

Vicia hirsuta

花の時期・色 4~6月・白紫色

特徴 人里近くに多い高さ30~60cmの越年草です。葉は6~7対の小葉からなる羽状複葉で小葉は長さ10~17mm。葉の先にある巻きひげで草木にからみついで立ち上がります。カラスノエンドウと比べて小型であることからスズメの名がついたといわれています。豆果は長さ8mmほどの長楕円形で、なかに2個の種子があります。

07いきもの調査では、大吉・神明町・砂原・総合体育館周辺・流通団地周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科
ヌスビトハギ

Desmodium podocarpum ssp. oxyphyllum

花の時期・色 8~9月・淡紅色

特徴 山野に多い高さ60~90cmの多年草です。葉は3出複葉で互生し、小葉は卵形で細かな毛が生えています。夏、葉のわきから枝を伸ばして、マメ科特有のかわいらしい蝶形をした花をまばらに咲かせます。和名「ぬすびとはぎ盗人萩」は、豆果の形が盗人の忍び足に似ていることからとか、また この実がいつの間にか服につくからとかいわれます。

07いきもの調査では、平方等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 マメ科
クズ

Pueraria lobata

花の時期・色 8~9月・紫赤色

特徴 山野に見られるツル性の多年生植物で、秋の七草の一つです。葉は3小葉からなり、長い豆果は褐色毛に覆われています。林の縁や土手を一面に覆いつくし、根からとるデンプンが葛粉で、大和(奈良県)の国栖くさ地方の名産であったことからこの名がついたといわれています。

07いきもの調査では、平方・西新井・小曾川・登戸等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 カタバミ科

カタバミ

Oxalis corniculata

花の時期・色 5～9月・黄色

特徴 道端や畑など、人里で見られる多年草です。ハート形の小葉を3枚連ねた葉が目印で、花も小型ながらよく目立ちます。茎や葉にシュウ酸を含み、かむとかなりの酸味があります。花は日の出とともに咲き、その日のうちに閉じてしまいます。葉の一方が欠けて見えることからこの名がついたといわれています。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 離弁花類 カタバミ科

イモカタバミ

Oxalis articulata

花の時期・色 4～9月・紅紫色で濃い脈がある

特徴 南アメリカ原産で観賞用にも栽培されている高さ10～30cmの多年草です。葉はハート形の3小葉で短い毛があります。花の色が濃く葯の色が黄色（ムラサキカタバミは白）掘ると根の上部に小型の芋状の根茎を多数着けて大きな株となり、耕したときなどに分散して増えます。根元に塊茎があることからついた名です。

07いきもの調査では、平方南町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 カタバミ科

ムラサキカタバミ

Oxalis corymbosa

花の時期・色 5～7月・赤紫色

特徴 関東地方以西の人里に多く見られる南アフリカ原産の帰化植物で、高さ10～30cmの多年草です。葉はすべて根生し、葉柄は5～15cm、小葉は倒心臟形で幅2cmあり、上面は無毛です。5～7月に葉よりも高くぬき出て高さ30cmほどの花茎を出し、先端に花をつけます。種子を作らず、鱗茎によって繁殖します。

07いきもの調査では、健康福祉村・葛西用水周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 フウロソウ科

アメリカカフウロ

Geranium carolinianum

花の時期・色 4～8月・淡紅白色

特徴 昭和初期に渡来し、市街地周辺を中心に本州以南に広く見られるようになりました。北アメリカ原産の帰化植物で、高さ10～40cmの一年草です。茎は若いうちは直立、のちに斜上し、細かい毛を密生します。葉は長い柄を持ち、掌状に基部近くまで5～7深裂し、裂片はさらに裂けます。花弁は5枚でがくとほぼ同じ長さです。

07いきもの調査では、平方・大吉・西新井・健康福祉村・葛西用水周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 トウダイグサ科

アカメガシワ

Mallotus japonicus

花の時期・色 7月ごろ・雄花は淡黄色、雌花の3個の花柱は紅色でそりかえる

特徴 北海道を除く山野に自生する落葉高木で、雌雄異株ですが、枝葉での区別は難しく花で区別します。成長が早く発芽したとみられる小さな幼木があちこちで見られます。春先に出る新芽は赤色をした毛でおおわれ名前の通り（赤芽櫛）で美しいのですが、成長とともにほとんどの毛が落ちてしまいます。胃腸機能薬として使われています。



双子葉植物 離弁花類 トウダイグサ科

コニシキソウ

Euphorbia supina

花の時期・色 6~9月・汚れたような淡紅紫色

特徴 畑、庭、道端でよく見られる北アメリカ原産の帰化植物で、長さ10~20cmの1年草です。明治中期に渡来しました。地面を這って広がります。葉は対生し、長さ7~10mmの長楕円形で表面の暗紫色の斑紋がよく目立ちます。さく果の表面は白色の伏毛が密生します。茎を切ると白い液がでます。

07いきもの調査では、大泊・西方等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 トウダイグサ科

ニシキソウ

Euphorbia humifusa v. pseudochamaesyce

花の時期・色 7~10月・淡赤紫色

特徴 畑や庭、空き地に生える長さ10~25cmの一年草です。茎は、よく分枝して地面を這います。葉は対生し、長さ4~10mmの長楕円形で表面にふつう斑紋は見られません。7~10月に枝の上部の葉腋に杯状花序をまばらにつけます。緑色の葉と赤い茎を「錦織物」に例えてこの名がつけました。さく果は直径1.8mmの卵球形で、表面は無毛です。

07いきもの調査では、七左町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ブドウ科

ノブドウ

Ampelopsis brevipedunculata

花の時期・色 7~8月・淡緑色

特徴 山地や野原に生える落葉つる性です。葉と対生して二又に分かれた巻きひげがあります。葉は互生し、直径4~13cmの円形で3~5裂、基部は心形で縁には鋸歯があります。葉に対生して集散花序を出し小さな花を開きます。果実は淡緑色から紫色、碧色になりますが食べられません。

07いきもの調査では、平方・西新井・三野宮・神明町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ブドウ科

ヤブガラシ

Cayratia japonica

花の時期・色 6~8月・オレンジ色

特徴 人里近くの藪や林縁に多いつる性の多年草です。地下茎を長く伸ばして繁殖し、葉は5小葉からなる鳥足状の複葉で、頂小葉は長さ4~8cmの狭卵形です。花弁は緑色で4枚あり、藪を枯らすほど繁茂するということからこの名がつけました。別名はピンボウカズラといひます。果実は黒く熟します。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 離弁花類 スミレ科

スミレ

Viola mandshurica

花の時期・色 4~5月・濃紫色

特徴 畑や道端の日当たりの良い所に生える高さ7~11cm多年草です。スミレ類には多くの種類がありますが、その本家ともいえるのが本種です。根は茶色、茎はごく短くて、葉は長円形で根元にかたまっつきます。3つに分かれる果実をつけ、熟すとはじけて種子を四方に飛び散らします。和名は大工道具の「墨入れ」に花が似ているからといわれます。

07いきもの調査では、増林・七左町・健康福祉村・大成町等各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 スミレ科

タチツボスミレ

Viola grypoceras

花の時期・色 3~5月・淡紫色

特徴 山野に多く見られる高さ5~15cmの多年草です。花の後は30cmくらいに伸びます。茎は枝分かれして株をつくります。葉は心臟形で長さ1~4cm、托葉は櫛の歯状に深く分裂します。花弁は長さ12~15mm、やや幅が広く、側弁は無毛です。

07いきもの調査では、七左町等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 スミレ科

ツボスミレ

Viola verecunda

花の時期・色 4~5月・白色

特徴 原野や庭の片隅の湿り気のあるところに好んで生える多年草です。全株無毛で、葉は扇心形で幅2~3.5cm、托葉は披針形です。花は横に広がった形をしており、唇弁に紫の筋が走っています。名前の頭につくツボ(坪)とは、庭のことです。ニョイスミレの別名があり、葉の形が仏具の一種である如意を連想させるからといわれています。

07いきもの調査では、健康福祉村等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ウリ科

カラスウリ

Trichosanthes cucumeroides

花の時期・色 8~9月・白色

特徴 林の縁などに見られるつる性の多年草です。巻きひげで他の草木などからみつきます。葉は掌状に3~5浅裂します。花冠は5裂し、裂片は縁がレース状に細かく裂けます。古人は種子を結び文に見立てて「玉草」と呼びました。果実は楕円形で5~7cmに赤く熟します。

07いきもの調査では、平方・南萩島・越ヶ谷・御殿町・北越谷等各地で見られました。



双子葉植物 離弁花類 ウリ科

アレチウリ

Sicyos angulatus

花の時期・色 8~9月・黄白色

特徴 河原や荒地に生える北アメリカ原産の帰化植物で、つる性の一年草です。戦後、日本に入り込んだものが急速に広がったようです。茎は長く這い、2~3本に分かれたバネのような巻きひげで他の物へ巻つきます。葉のわきに雌雄別の花序を出し直径1cmくらいの花をつけます。その後、表面に1cmほどのとげのある果実が集まってつきます。

07いきもの調査では、平方・大泊・埼玉鴨場・文教大学周辺等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アカバナ科

オオマツヨイグサ

Oenothera erythrosepala

花の時期・色 7~9月・黄色

特徴 海辺や河原などに生える高さ0.8~1.5mの越年草です。北アメリカ原産のものをもとにヨーロッパで作り出された園芸植物で、日本には明治初期に渡来し、野生化しました。7~9月の夜に直径8cmほどの黄色の花を開きます。一般に月見草とも呼ばれ、太宰治の「富士には月見草がよく似合う」という一文も本種を指していると思われます。最近あまり見られなくなりました。

07いきもの調査では、平方・大泊等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 アカバナ科

ユウゲショウ(アカバナユウゲショウ)

Oenothera rosea

花の時期・色 5~9月・淡紅色

特徴 熱帯アメリカ原産で、観賞用に栽培されていたものが野生化している多年生草本です。根生葉は倒披針形で不規則に中裂し、茎葉は披針形で波状の鋸歯があり、短い柄があり互生します。花は夕方に開きます。

07いきもの調査では、神明町・大沢・北越谷等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 セリ科

チドメグサ

Hydrocotyle sibthorpioides

花の時期・色 5～10月・白色または帯緑色

特徴 道端や人家の庭、芝生などに生える多年草です。茎は地面を這って広がり節から葉と根を出して伸びていきます。葉柄は長く、葉は互生します。葉身は円心形で幅1～1.5cm、掌状に浅く切れ込んでいます。この草の汁を傷口につけると血が止まるということから、「血止草」の名がつけました。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 離弁花類 セリ科

ヤブジラミ

Torilis japonica

花の時期・色 5～7月・白色

特徴 道端や草地など山野で多く生える越年草です。葉は2～3回羽状複葉、小葉は卵状又は披針状で細かく切れ込んでいます。枝先に小型の複散形花序を出し、花を多数つけます。果実には先端がかぎ状に曲がったとげが密集し、このとげで動物や人にくっついて移動します。シラミのように人に取り付くことからこの名がつけられました。

07いきもの調査では、砂原等で見られました。



双子葉植物 離弁花類 セリ科

セリ

Oenanthe javanica

花の時期・色 7～8月・白色

特徴 湿地や水田などに生える高さ20～80cmの多年草です。春の七草の一つで食用とされています。葉は1～2回3出複葉で、小葉は卵形、あらい鋸歯があります。7～8月に枝先に5弁の小花をたくさんつけます。

07いきもの調査では、平方・三野宮・砂原等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 アカネ科

ヘクソカズラ(ヤイトバナ)

Paederia scandens

花の時期・色 8～9月・灰色で内側は紅紫色

特徴 日当たりの良い藪や草地、土手などに生えるつる性の多年草です。葉や茎、花、実を揉んで匂いを嗅ぐといやな匂いがすることからこの名があります。花の中央が赤く、お灸(やいと)の後に似ていることからヤイトバナの別名もあります。果実は直径5mm程の球形で、熟すと黄褐色になり、つやがあります。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 アカネ科

ヤエムグラ

Galium spurium v. *echinospermon*

花の時期・色 5～7月・黄緑色

特徴 人里近くの藪や草地などで群生している一年草または越年草です。葉は長さ1～3cmの線形で、6～8枚が輪生の形になります。茎には下向きの小さなとげが密生し、足にからみついてきます。折り重なるようにして茂ることからこの名がつけました。実は2mmほどの球形で、かぎ形の毛があります。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 ヒルガオ科

コヒルガオ

Calystegia hederacea

花の時期・色 6～8月・淡紅色

特徴 道端や荒地など日当たりのよい場所に生えるつる性の多年草です。ヒルガオに比べて葉や花が小さいことからこの名がつけました。葉は三角状ほこ形で、ヒルガオに比べ側裂片がよく発達して著しく横に開出し、先がふつう2裂します。花は漏斗形で、直径3～4cmとやや小さく、花柄は長さ2～3cmで、上部に縮れた狭い翼があります。

07いきもの調査では、平方・新方川周辺・神明町・南荻島・元荒川周辺等各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ヒルガオ科

ヒルガオ

Calystegia japonica

花の時期・色 7～8月・淡紅色

特徴 野原や道端に見られるつる性の多年草です。白っぽい地下茎は切れやすく、この切れた茎からも増えてゆきます。葉はほこ形または矢じり形で長さ5～10cm、花は直径約5cmで葉のわきにつきます。アサガオに対して日中に咲くことからこの名がつけました。万葉集で読まれている容花（かおばな）とは、本種であるといわれています。

07いきもの調査では、平方・神明町・南荻島・三野宮・元荒川周辺等各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ムラサキ科

キュウリグサ

Trigonotis peduncularis

花の時期・色 3～5月・淡青紫色

特徴 畑や道端などに生える高さ15～30cmの多年草です。茎は根元で枝分かれし、根元の葉はかたまってつき長い柄があります。枝は伸びて花の穂になり、先はサソリの尾のように丸まっつぽみをつけます。花が開くにつれてまっすぐになります。また、葉を揉むとキュウリの匂いがすることからこの名がつけました。

07いきもの調査では、平方・南荻島・新川町・大沢等各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 シソ科

ジュウニヒトエ

Ajuga nipponensis

花の時期・色 4~5月・淡紫色

特徴 やや明るい林の中や道端などに生える高さ10~25cmの多年草です。茎の先端に重なるようにして咲く花の様子を、宮中の女官が着た十二単にたとえたのが名の由来です。全体が白い毛で覆われており、やや灰色がかって見えます。穂状についた花が下から咲き上がっていきます。また、シソ科特有の唇形をしていきます。

07いきもの調査では、袋山・健康福祉村等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 シソ科

カキドオシ

Glechoma hederacea ssp. grandis

花の時期・色 4~5月・淡紫色

特徴 道端や空き地でよく見られるつる性の高さ10~25cmの多年草です。茎は花のころまでは直立し、花が終わるところから地面を這い、節から根を出して繁殖します。夏には茎が1m以上にも成長して、葉は対生し、長い柄のある腎円形です。つるが垣根を越えて隣地まで長く伸びるということからこの名がつけました。

07いきもの調査では、平方・南荻島・三野宮・北越谷などで見られました。



双子葉植物 合弁花類 シソ科

ホトケノザ

Lamium amplexicaule

花の時期・色 3~6月・紅紫色

特徴 人里によく見られる高さ10~30cmの越年草です。葉は対生し、長さ1~2cmの扇状円形です。上部の葉のわきに唇形の花を開きます。対生する葉を蓮座に見立ててこの名がつけました。春の七草の一つに数えられる「ホトケノザ」は本種ではなく、キク科のコオニタビラコのことです。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 シソ科

ヒメオドリコソウ

Lamium purpureum

花の時期・色 4~5月・暗紅色

特徴 肥えた土地を好み、休耕の畑などでよく見られるヨーロッパ・小アジア原産の帰化植物で、高さ10~25cmの越年草です。明治中期に渡来ました。葉は対生し、卵円形で上部の葉は暗紅色を帯びる特徴があります。上部の葉のわきに暗紅色の小さな唇形花を輪状につけます。

07いきもの調査では、平方公園・梅林公園・大吉調節池周辺・総合体育館周辺等各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ナス科

ヒヨドリジョウゴ

Solanum lyratum

花の時期・色 8～9月・白色

特徴 野原や丘陵に生えるつる状の多年草です。葉柄で他物にからまります。葉は卵形で長さ3～10cm、下部の葉は深く1～2裂します。茎や葉には柔らかい毛が密集していて、集散花序に直径1cmほどの花をつけます。和名は赤い実をヒヨドリが好んで食べることからこの名がつけました。ただし、この実は有毒です。

07いきもの調査では、梅林公園・健康福祉村・久伊豆神社周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ナス科

アメリカイヌホウズキ

Solanum americanum

花の時期・色 7～9月・淡い紫色または白色

特徴 北アメリカ原産の帰化植物で、高さ約20～60cmの一年草です。枝は細くほとんど無毛で、しばしば枝を分けて広がります。葉はやや狭くなりがちで、質が薄く、鋸歯がないことが多いです。花序は細く、2～5個の花は中軸が伸びずほぼ散形に着きます。液果は光沢のある黒色に熟します。

07いきもの調査では、越ヶ谷で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ナス科

イヌホウズキ

Solanum nigrum

花の時期・色 8～10月・白色

特徴 畑や道端などに普通に生える高さ20～60cmの一年草です。茎は直立し、枝分かれています。葉は広卵形、先は鈍頭形で短くとがり、基部は円形または広くさび形で1～5cmの翼のある柄があり、全縁か波状のゆるい鋸歯があります。液果は直径6～7mmで黒く熟します。

07いきもの調査では、平方・大泊・三野宮・七左町・神明町・南荻島・砂原など各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ナス科

クコ

Lycium chinense

花の時期・色 8～11月・淡紫色

特徴 土手・川の縁などの日当たりの良いところに生える高さ1～2mの落葉低木です。葉は互生し倒披針形でやわらかく無毛です。茎は根元から束生し、枝は弓状に曲がり垂れ下がります。果実は長さ1.5～2cmの楕円形の液果で赤色に熟し食べられます。

07いきもの調査では、平方・船渡・南荻島・越ヶ谷等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ゴマノハグサ科

トキワハゼ

Mazus pumilus

花の時期・色 4~11月・淡紅紫色

特徴 畑や道端、庭などに生える高さ5~20cmの一年草です。ムラサキサギゴケに似ていますが茎は真すぐに立ち、這う枝を出しません。また、花や葉が小さいことも特徴です。本種は4~11月と長く咲き、そのためトキワ（常盤）の名があります。

07いきもの調査では、葛西用水市役所東側・しらこぼと橋上流周辺・東越谷1丁目周辺で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ゴマノハグサ科

ムラサキサギゴケ（サギゴケ）

Mazus miquellii

花の時期・色 4~5月・紅紫色（サギゴケは白色）

特徴 田のあぜなど、少し湿ったところによく見られる多年草です。高さ10~15cmで這う枝を出して地上にひろがり繁殖します。花は唇形で下唇には黄褐色の隆起した斑紋があり、こん棒状の毛が生えています。柱頭に触れると上下に分かれて花柱の先が閉じ、しばらくするとまた開きます（柱頭運動と呼ばれます）。

07いきもの調査では、新方川周辺・大吉調節池周辺・西新井・元荒川周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 ゴマノハグサ科

タチイヌノフグリ

Veronica arvensis

花の時期・色 2~6月・るり色

特徴 各地の畑や道端に普通にみられるヨーロッパ原産の帰化植物で高さ15~25cmの越年草です。茎は下部で枝分かれして直立し、茎や葉に細かな毛が生えています。葉は下部のものは対生し、上部は互生、ほとんど無柄、卵円形で少数の先のにぶい鋸歯をもっています。果実はハート形、円板状の多数の種子が入っています。

07いきもの調査では、大吉調整池や元荒川土手で多く見られました。



双子葉植物 合弁花類 ゴマノハグサ科

オオイヌノフグリ

Veronica persica

花の時期・色 2~5月・るり色

特徴 日当たりの良い道端に普通にみられるヨーロッパ原産の帰化植物で高さ15~30cmの越年草です。明治初期に日本に came。茎は下部で枝分かれして地上を横に這い、大きな株になります。茎や葉に細かな毛が生えています。花は日が当たると開き、陰ると閉じておちる一日花です。果実は平たいハート形で、熟すと2裂します。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 オオバコ科

オオバコ

Plantago asiatica

花の時期・色 4～9月・白色

特徴 人が踏み付けやすい道端に多い高さ10～20cmの多年草です。葉はすべて根生し、葉身は卵形でやや平行の脈があります。和名は葉が大きいことから「大葉子」といわれます。漢名は「車前草」と呼ばれ、これは車の通る道によく生えていることからつけられており、漢方薬にも用いられています。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 オオバコ科

ヘラオオバコ

Plantago lanceolata

花の時期・色 4～8月・白色

特徴 土手や荒れ地などに生えるヨーロッパ原産の帰化植物で、高さ30～80cmの一年草です。幕末に渡来しました。葉は10～30cmの細長いへら形で、すべて根生します。花茎の先に、長さ2～8cm、幅1～1.7cmの円柱形の花穂をつけます。和名はへら形の葉の形によるものです。

07いきもの調査では、北越谷第5公園や健康福祉村など市内で数箇所見られました。



双子葉植物 合弁花類 スイカズラ科

スイカズラ

Lonicera japonica

花の時期・色 6～7月・白色から淡黄色

特徴 藪の縁に生えるつる性の常緑低木です。右巻きにゆるく物に巻きつきます。対生した葉の間から出る花は甘い香りがあり、初め白くて、後にだんだん淡黄色になるので金銀花と呼ばれます。花筒に蜜を多く含む蜜を吸って遊んだことから「吸い蔓すかずら」と呼ばれます。果実は黒く熟します。枝先の葉が冬でも枯れないので、忍冬(ニトウ)とも言います。金銀花と呼んで薬用にしたたり、蜜があるので、果実酒にしたります。

07いきもの調査では、埼玉駒場周辺・下間久里で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

オオオナモミ

Xanthium occidentale

花の時期・色 8～11月・黄緑色

特徴 道端や荒れ地に生える北アメリカ原産の帰化植物で高さ0.5～2m以上にもなる一年草です。葉は互生し、ふちに低い鋸歯があります。茎は全体に短毛がありざらつき褐紫色になります。雄花と雌花の頭花は別々で、雌花の頭花がとげのある果苞実になります。イガグリを楕円形にしたような形で人や動物に着いて広がります。

07いきもの調査では、中央市民会館裏の葛西用水・文教大学前の元荒川両岸で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ブタクサ

Ambrosia artemisiaefolia v. *elator*

花の時期・色 7～10月・緑色

特徴 道端や荒地に生える北アメリカ原産の帰化植物で、高さ1mほどになる一年草です。明治時代に入って来たと言われています。葉には細かい切れ込みがあり、若い頃はヨモギに似ています。穂状の花を咲かせ、風媒花で花粉症の原因のひとつとして嫌われています。豚草は英名の「hog weed」を訳したものです。

07いきもの調査では、平方・大吉調節池・北川崎等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ヨモギ

Artemisia princeps

花の時期・色 9～10月・淡褐色

特徴 野原などに生える高さ0.5～1mになる多年草です。茎はたくさん枝分かれして、白い毛が生えています。葉は羽状に深く切れ込み、裏には白い毛が多いので真っ白にみえます。若芽は草餅の材料とするため、モチグサと呼ばれることもあります。また、葉の裏面の綿毛からお灸の「もぐさ」を作ります。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

タカサブロウ (モトタカサブロウ)

Eclipta thermalis

花の時期・色 8～9月・白色

特徴 やや湿り気のある道端や、水田の畦などに生える高さ20～70cmの一年草です。横に倒れて広がり、葉は対生し鋸歯があり、葉や茎にはザラザラした剛毛があり1cm程の花をつけます。わが国にはかなり古い時代に入り込んだと考えられています。人の名前を持つ野草は珍しいですが由来は定かではありません。

07いきもの調査では、平方・下間久里・大吉調節池・梅林公園・七左町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ハキダメギク

Galinsoga quadriradiata

花の時期・色 6～11月・白色

特徴 窒素分の多いごみ捨て場や畑のわきなどに生える北アメリカ原産の帰化植物で、高さ15～60cmの1年草です。卵形をした葉は対生し、葉と茎に細かい毛があります。5つの花弁からなるかわいらしい花をさかせます。名前の由来も「掃き溜め」で最初に見つかったからだとそうで、牧野富太郎博士の命名です。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

キクイモ

Helianthus tuberosus

花の時期・色 8～10月・黄色

特徴 野原に生える高さ1.5～3mの北アメリカ原産の多年草です。葉は長楕円形で粗い鋸歯を有し茎の下部では対生、上部は互生します。花が菊に似ていて、地中に大きな塊茎をつくることからこの名前がつけました。明治以降に食用やアルコール製造などのため各地で栽培されたものが、全国的に野生化しました。

07いきもの調査では、平方・千間台西・健康福祉村等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

コセングサ

Bidens pilosa

花の時期・色 9～11月・黄色

特徴 関東地方以西の荒地や河原にしばしば群生している帰化植物で、高さ1mほどの一年草です。茎や葉には毛が密生しています。上部の枝先に頭花をつけるが筒状花ばかりで花びら（舌状花）がないため、つぼみのようにみえます。葉の形が樹木のセンダンに似ていることからこの名がつけられました。

07いきもの調査では、大泊・葛西用水・元荒川周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

セングサ

Bidens biternata

花の時期・色 9～10月・黄色

特徴 やや湿り気のある道端や河原などに生える高さ0.3～1.5mの一年草です。葉は羽状に深く切れ込み、茎にも葉にも毛が生えています。花は舌状花とたくさんの筒状花からなります。果実は細長くて角張り、その先に3～4本のとげがあります。最近では、コセングサに圧倒されつつあります。

07いきもの調査では、谷中町・宮本町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

アメリカセングサ

Bidens frondosa

花の時期・色 9～10月・黄色

特徴 やや湿り気のある空き地や道端に生える北アメリカ原産の帰化植物で高さ0.5～1.5mの一年草です。茎が赤みを帯びるのが特徴で、さかんに枝分かれます。茎や葉には毛は生えませんが、枝の先に黄色い花をつけ、花びら（舌状花）がなく葉状の総苞片が花を囲むようになっています。そう果の先には2つのとげがあり、人や動物について運ばれます。

07いきもの調査では、平方・大泊・大沢・南荻島・神明町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ノボロギク

Senecio vulgaris

花の時期・色 1年中・黄色

特徴 道端やビルの片隅などに生えるヨーロッパ原産の帰化植物で高さ30cmの一年草または越年草です。葉は互生し不揃いの羽状をしています。花は春に咲くものが多いですが、暖かい所ではほぼ1年中咲いています。頭花は黄色で、ふつう筒状花だけの集まりです。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

オオアレチノギク

Conyza sumatrensis

花の時期・色 8~10月・白色

特徴 道端や荒地に生える南アメリカ原産の帰化植物で、高さ1.5m以上にもなる越年草です。全体に淡緑色をしています。茎の上部の大きな円錐花序に、多数の3mmほどの頭花をつけます。寒さに弱く、東北や北海道ではほとんど見られません。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

カントウヨメナ

Kalimeris pseudoyomena

花の時期・色 9~10月・淡青紫色

特徴 田の畦や川辺のやや湿ったところに生える高さ0.5~1mの多年草です。地下茎を伸ばして増えます。葉は披針形で縁に荒い鋸歯があります。ヨメナとユウガギクの雑種との考えもあり、この仲間は区別がむずかしいが、葉の厚さはユウガギクより厚く、ヨメナより薄いのが特徴です。春に出る若芽は、天ぷらやあえものにするるとおいしいといわれています。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ハルジオン

Erigeron philadelphicus

花の時期・色 5~7月・淡紅色

特徴 畑や荒地に生える北アメリカ原産の帰化植物で、高さ30~80cmの多年草です。大正時代に鑑賞用として輸入されたものが野生化しました。茎は白毛が密生し、中空で根元の葉には柄がなく、茎上の葉の基部は茎を抱込んでいます。花序はつぼみのときは、茎とともにうなだれていますが、開花時には上向きになります。ヒメジョオンより早く咲きます。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ヒメムカシヨモギ

Erigeron canadensis

花の時期・色 8～10月・白色

特徴 道端や荒地に生える北アメリカ原産の帰化植物で高さ0.8～1.8mの越年草です。明治時代に入り込んだとされ、短期間に全国に広がりました。全体に緑色で茎や葉に毛があります。茎はまっすぐに伸び、上部で枝分かれしてたくさんの頭花をつけます。同じような場所で一緒に繁殖しているオオアレチノギクに良く似ていますが、頭花は小さいです。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ヒメジョオン

Stenactis annuus

花の時期・色 6～10月・白色か帯紫色

特徴 畑や荒地に生える北アメリカ原産の帰化植物で高さ30～130cmの一年草または越年草です。明治時代に観賞用に導入されたものが野生化しています。後から入ってきたハルジオンに勢力を奪われつつあります。両種ともに良く似ていますが、判別のポイントは茎にあり、ハルジオンが中空なのに対しヒメジョオンは中に白い髓があります。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・健康福祉村等各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

セイタカアワダチソウ

Solidago altissima

花の時期・色 10～11月・黄色

特徴 鉄道沿い、休耕田、河原などに生える北アメリカ原産の帰化植物で、高さ2.5mにもなる多年草です。茎と葉に短毛が密生し、ざらつきます。地下茎が地中を横に走り、他の植物の成長を妨げるような物質を出し、自分の生育範囲を広げて行く繁殖力の強い植物です。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ハハコグサ

Gnaphalium affine

花の時期・色 4～10月・黄色

特徴 荒地や道端など人里に生える高さ20～40cmの越年草です。葉は互生し、両面にびっしりと綿毛が生え、全体に白っぽく見えます。根生葉は初め車輪状に地表を這いますが花のころは枯れます。茎の上端に頭花を多数つけます。春の七草の一つで「御形おぎよう」の呼び名もあります。モチグサという名前はヨモギの別名になっていますが、かつては草餅を作るときに色を増すために用いられることもありました。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

チチコグサ

Gnaphalium japonicum

花の時期・色 5～6月・茶褐色

特徴 山野の道端や荒地に生える高さ8～20cmの多年草です。名はハハコグサに対してつけられました。葉は細長く、葉の裏に毛が多いので灰色を帯びて見えます。また、花期になってもロゼット状の根性葉が残ります。花も小さく、他の野草と一緒に生えているとあまり目立ちません。

07いきもの調査では、平方・袋山・七左町・北越谷等見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ウラジロチチコグサ

Gnaphalium spicatum

花の時期・色 4～7月・淡褐色

特徴 空き地、道端などに多く見られる帰化植物で、高さ10～30cmの一年草または越年草です。茎上部の葉腋に頭花が付き、全体が穂のようになります。発芽後地面に密着したロゼットをつくるので、踏み付けや草刈から逃れています。葉の裏が特に白いのでついた名です。

07いきもの調査では、南荻島・北後谷・大沢・神明町・北越谷等各地で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

フジバカマ

Eupatorium fortunei

花の時期・色 8～9月・淡ピンク色

特徴 関東以西の本州、四国、九州の川の土手などに野生する高さ1～1.5mの多年草です。近年、河川改修などの影響で自生地が減っています。花は茎の上部に散房状に多数つきます。

07いきもの調査では、元荒川埼玉鴨場周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ノアザミ

Cirsium japonicum

花の時期・色 5～8月・紅紫色

特徴 日当たりの良い草地や、山野に生える高さ0.5～1mの多年草です。アザミの仲間はわが国だけでもおよそ60種が数えられますが、春に咲くアザミは本種だけなので見分け方は簡単です。葉は茎を抱くように互生し、深い切れ込みがあります。葉の縁は鋭くとげ状となり、触れると痛いです。アザミの仲間は山菜としても知られています。

07いきもの調査では、平方・大吉・宮本町・七左町・北越谷等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

アメリカオニアザミ

Cirsium vulgare

花の時期・色 7~9月・紅紫色

特徴 道端や荒地に生えるヨーロッパ原産の帰化植物で、高さ1.5mほどになります。茎は全体に綿毛があり、全長に著しい翼があり鋭いとげがあります。頭状花は枝上に1~3個つき直径3~4cm、総苞は長卵形、総苞片は線形で、先は鋭いとげになっています。

07いきもの調査では、越谷レイクタウン周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

オニタビラコ

Youngia japonica

花の時期・色 4~5月・黄色

特徴 道端や庭などに生える高さ0.2~1mの一年草または越年草です。茎はまっすぐに伸びます。茎、葉には毛が多く、茎は上の方で細かく枝分かれして、小さな頭花をたくさんつけます。花には冠毛があり、そう果は細長いです。

07いきもの調査では、平方・三野宮・南荻島・七左町・神明町・大沢等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ノゲシ(ハルノノゲシ)

Sonchus oleraceus

花の時期・色 4~7月・黄色

特徴 畑の隅や道端などに生える高さ1mくらいの多年草です。茎は太くて柔らかく、不規則に羽状に切れ込み、ケシの葉を思わせるのでこの名があります。葉の縁にふぞろいの鋸歯があり、先が針状にとがりますが、触れても痛くありません。早春の若葉は苦みが強いのですが食用になります。ハルノノゲシとも呼ばれます。

07いきもの調査では、千間台西・袋山・南荻島・七左町・蒲生茜町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

オニノゲシ

Sonchus asper

花の時期・色 4~10月・黄色

特徴 道端や荒地などに生えるヨーロッパ原産の帰化植物で、高さ1m位になる越年草です。ノゲシに似ていますが、葉の鋸歯の先につく鋭いとげは触れると痛く、ノゲシに比べ、全体に荒々しい感じがするのでこの名前がつけました。また、傷をつけると白い液が出ます。

07いきもの調査では、平方・三野宮・総合体育館周辺・西新井・神明町・蒲生茜町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

アキノノゲシ

Lactuca indica

花の時期・色 8～11月・淡黄色・果実は黒く冠毛は白い

特徴 日当たりの良い荒れ地や草地などに生える高さ0.6～2mの一年草または越年草です。葉は深く切れ込み、ノゲシのように基部が茎を抱くことはありません。葉や茎を切ると白い液が出ます。花は昼間咲いて、夕方しぼみます。春に咲くノゲシに対して、秋に花を咲かせるのでこの名前がつけました。

07いきもの調査では、大泊・三野宮・西新井・南萩島・谷中町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

オオジシバリ

Ixeris debilis

花の時期・色 4～5月・黄色

特徴 やや湿り気のある道端や水田などに生える高さ10～30cmになる多年草です。茎は地を這って長く伸びます。葉はへら状楕円形で、ときに下部が羽状に切れ込むこともあります。花茎は1～3回ほど枝分かれして、3cmくらいの花をつけます。ジシバリより大きいのでこの名前がつけました。

07いきもの調査では、総合体育館周辺・増林・神明町・西方・元荒川・葛西用水周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

ニガナ

Ixeris dentata

花の時期・色 5～7月・黄色

特徴 日当たりの良いやや乾燥した草地に生える高さ30cmほどの多年草です。細い茎を伸ばし、黄色い頭花を数多く咲かせます。根元から生える葉の他に、茎にも葉が見られ、茎は上部で細かく枝分かれして花をつけます。葉や茎から出る乳液が苦いのでこの名がつけられました。ウサギなどは、この苦みを好んで食べるそうです。

07いきもの調査では、平方・大吉・相模町等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

セイヨウタンポゴ

Taraxacum officinale

花の時期・色 一年中・黄色

特徴 ヨ・ロッパ原産の帰化植物で高さ10～30cmの多年草です。太い根の根茎から多数の根生葉を出します。中空の花茎を出し、舌状花のみの頭花をつけます。つぼみの時から外側の総苞片が外側に反り返っていることで在来のタンポゴと区別することができます。そう果が赤味を帯びる種をアカミタンポゴといいます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

シロバナタンポポ

Taraxacum albidum

花の時期・色 3~5月・白色

特徴 関東地方以西の人里に生える高さ30cmほどの多年草です。本種は、花が白いため見分け方も容易です。また、ほかのタンポポの葉と比べると、立った感じがします。タンポポと言うと東日本の人は黄色い花を思い浮かべますが、四国や九州にはシロバナタンポポしかない所もあります。

07いきもの調査では、大吉調整池周辺・健康福祉村・総合体育館周辺等で見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

カントウタンポポ

Taraxacum platycarpum

花の時期・色 3~5月・黄色

特徴 野原や道端などに生える高さ20~30cmの多年草です。セイヨウタンポポに圧倒され、市街地では見ることが少なくなりました。見分け方は、セイヨウタンポポの総苞片が反り返るように下向きなのに対し、カントウタンポポは反り返らず上向きで、上部に小角がつかます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



双子葉植物 合弁花類 キク科

コオニタピラコ

Lapsana apogonoides

花の時期・色 3~5月・黄色

特徴 早春の田など、湿った所に生える高さ10cmくらいの越年草です。根生葉をロゼット状に広げ、タンポポを小さくしたような花を咲かせます。春の七草の「ホトケノザ」は本種です。地面に張り付くように輪になって広がる葉の様子が「仏の座」のように見えるところが、名の起りこりといわれています。

07いきもの調査では、平方・大吉調整池周辺・七左町・神明町等で見られました。



単子葉植物 オモダカ科

オモダカ

Sagittaria trifolia

花の時期・色 8~10月・白色

特徴 水田や沼地に生える高さ20~80cmの多年草です。秋、地下茎の先にイモをつくり繁殖します。花茎は30~60cmで下方の2段くらいに雌花、上方の数段には雄花が付き、花の直径はおよそ2cm、黄色の部分がおしべの集まりです。別名ハナグワイ。おせち料理につきもののクワイはオモダカの変種です。

07いきもの調査では、健康福祉村・七左町・新川町等で見られました。



単子葉植物 ユリ科

ヤブラン

Liriope platyphylla

花の時期・色 8～10月・淡紫色

特徴 林の中の日陰に生える高さ30～50cmの多年草です。根茎は太くて短く、ひげ根は細長くときおり先にふくれた部分があります。葉は深緑色をしています。花は多数の小花をつけます。種子は直径6～7mmで紫黒色に熟します。和名は、藪に生え、葉がランを思わせることによります。

07いきもの調査では、袋山で見られました。



単子葉植物 ユリ科

ノカンゾウ

Hemerocallis fulva v. longituba

花の時期・色 7～8月・橙赤色

特徴 田のあぜや溝の縁など、やや湿ったところに生える高さ70～90cmの多年草です。ヤブカンゾウよりひとまわり小型で、葉は幅1.5cmと細いです。70cmほどの花茎を立て、その先を二分させて各枝に上向きにつぼみをつけ、下から順に花を咲かせます。一日花で、日中だけ開花します。若葉は食用になります。

07いきもの調査では、平方・葛西用水・元荒川周辺・登戸等で見られました。



単子葉植物 ユリ科

ヤブカンゾウ

Hemerocallis fulva v. kwanso

花の時期・色 7～8月・橙赤色

特徴 道端や土手、林の縁などに生える高さ1～1.5mの多年草です。ノカンゾウに似ていますが葉が幅2.5～4cmと広線形をしています。花が咲かないと完全には区別ができません。花は八重咲で、おしべとめしべが花弁状になっています。花後も結実しません。

07いきもの調査では、平方公園・大間野町等で見られました。



単子葉植物 ユリ科

ノビル

Allium gray

花の時期・色 5～6月・淡紅紫色

特徴 畑や道端、土手などに生える高さ50～80cmの多年草です。地下茎は球状になっていて葉のもとはやになっていて茎を包み、ネギのにおいがします。花茎の先に散形状に花をつけます。つぼみの時は薄い総苞に包まれています。若葉と球状の地下茎は食べられません。

07いきもの調査では、平方・大吉調節池周辺・元荒川周辺・新川町・蒲生茜町等で見られました。



単子葉植物 ヒガンバナ科

ヒガンバナ

Lycoris radiata

花の時期・色 9月・赤色

特徴 人里近くの土手や田畑の縁、墓地などに群生する高さ30～60cmの多年草です。9月に、地中の鱗茎から50～70cmの花茎を立て、みごとな花を輪状につけます。花後、線形の葉を翌年の春まで広げます。別名、マンジュシャゲは曼珠沙華と書き「法華経」に出てくる“赤い花”のことだそうです。彼岸のころ花が咲くのでこの名があります

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・葛西用水・元荒川周辺・新川町・赤山町等で見られました。



単子葉植物 ヤマノイモ科

ヤマノイモ

Dioscorea japonica

花の時期・色 7～8月・白色

特徴 山野に生えるつる性の多年草です。地中に長い大きな円柱形の多肉根ができて、食用になります。葉は対生し、長い柄があり、長卵形です。雄雌異株。穂状花序に白花をつけます。葉のわきにむかごができて、これも食用になります。和名は山の芋で、サトイモに対して山に生えるイモの意味です。別名ジネンジョウです。

07いきもの調査では、平方・北越谷等で見られました。



単子葉植物 アヤメ科

ニワゼキショウ

Sisyrinchium atlanticum

花の時期・色 5～6月・淡紫色

特徴 日当たりの良い道端や芝地などに生える北アメリカ原産の帰化植物で高さ10～20cmの多年草です。葉は剣状、茎の先端にある苞の間から2～5個の小花柄を次々に出して花をつけます。一日花で、和名の「庭石菖」は、葉がセキショウを思わせることによります。

07いきもの調査では、平方南町・南荻島・健康福祉村・相模町等で見られました。



単子葉植物 イグサ科

イ(イグサ)

Juncus effusus v. decipiens

花の時期・色 6～9月・黄緑色

特徴 野山の湿地に生える高さ0.7～1mの多年草です。地下茎があり大きな株になります。茎は丸く、地下茎からまっすぐ立ち、そのもとにうろこ状の葉があります。小さい花のかたまりは茎の上方につきますが、花の穂から上の緑色の部分は苞です。たみみの原料になるのはコヒゲといってイグサの栽培品種です。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺で見られました。



単子葉植物 イグサ科

クサイ

Juncus tenuis

花の時期・色 6～9月・緑色で縁は白色

特徴 田畑の周りや湿った空き地に生育する多年草です。オオバコと同じように種子は濡れると粘液を出し付着しやすく、人の足について広まるので踏みつけのある路上や広場に広がり、群生します。長い苞葉がありわきから枝を出し花序をつけ、葉は茎の下部につき細い線形で下は葉鞘です。イの仲間で細い葉が目立つことから「草蘭」といいます。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺等で見られました。



単子葉植物 ツユクサ科

ツユクサ

Commelina communis

花の時期・色 6～9月・青色

特徴 道端や草地に生える高さ30～50cmの一年草です。葉は卵状披針形で互生します。茎の下部は地を這ってよく分枝し、節から根を出して増えます。花は苞にはさまれ、3枚の小さながく片と3枚の花弁、6本の雄しべと1本の雌しべがあります。和名は「露を帯びた草」の意味です。

07いきもの調査では、赤山町・南荻島・新川町等で見られました。



単子葉植物 イネ科

ジュズダマ

Coix lacryma-jobi

花の時期・色 9～10月・淡緑色

特徴 水辺に生え大きな株になる、高さ1～2mの多年草です。果実は骨のように固い苞につつまれています。これをつないで数珠にします。葉は長さ50cm、幅1.5～4cmで中脈は白色です。雄花の穂は苞の上のびて、花を開きますが、雌花は苞の中であって、雌しべだけ外に出ます。

07いきもの調査では、桜井南小学校周辺・文教大学周辺・相模町等で見られました。



単子葉植物 イネ科

チガヤ

Imperata cylindrica

花の時期・色 5～6月・銀白色

特徴 山野のいたるところに生える高さ30～80cmの多年草です。葉は長さ20～50cm、幅0.7～1.2cmの線形で、縁はざらつきます。花序は長さ10～20cmの円柱状です。若い花の穂はツバナといって、噛むとかすかに甘さがあります。根茎は漢方では茅根ぼうこんと呼び、利尿、止血に用いられます。群がって生えることから、「千のカヤ」の意味といわれています。

07いきもの調査では、千間台東・総合体育館周辺で見られました。



単子葉植物 イネ科

オギ

Miscanthus sacchariflorus

花の時期・色 9～10月・白銀色

特徴 水辺など湿地に生える高さ1～2.5mの大型の多年草です。ススキのように株をつくらず、根茎が長く横にのび、しばしば大きな群落をつくります。葉は長大で幅25cm平滑、下部は長いさやとなり茎を包みます。秋、茎の頂に、多数の穂状様総状花穂を出します。ススキとの違いは、葉の幅が広く、花期には下の葉が枯れ落ちないことと、小穂に芒がないことです。

07いきもの調査では、船渡・千間台西・健康福祉村周辺等で見られました。



単子葉植物 イネ科

ススキ

Miscanthus sinensis

花の時期・色 8～10月・黄褐色

特徴 山野のやや乾燥した草地に生える高さ1～2mの大型の多年草です。根茎は短く分枝し、硬質で節があり円柱形です。葉は互生し細長く線形で、茎の頂に黄褐色か紫褐色の大きい花穂をつけます。秋の七草の一つで、「オバナ」といいます。ススキを刈とり屋根材にしたことから「刈屋根」の名がでて、後に「り」と「ね」が省略されカヤとなったといわれ、漢字で「芒」と書きカヤと呼ぶところもあります。

07いきもの調査では、平方・船渡・西方等で見られました。



単子葉植物 イネ科

イヌビエ

Echinochloa crus-galli v. *caudata*

花の時期・色 8～10月・緑色

特徴 道端、草地、畑、水田、溝の縁などに生える一年草です。茎はかたまて生え、基部で分枝します。葉は長さ30～50cm、幅1～2cmの線形でざらつきます。花序は短い枝を多数出し、緑色の小穂を密につけます。和名は食用にならないヒエという意味です。

07いきもの調査では、平方小学校周辺・千間台西・西方小学校周辺で見られました。



単子葉植物 イネ科

チヂミザサ (ケチヂミザサ)

Oplismenus undulatifolius

花の時期・色 8～10月・緑色

特徴 山野の林の中や道端などに生える高さ10～30cmの多年草です。茎は地面を這って分枝し、斜上します。葉は長さ3～7cm、幅1.5cmの広披針形で、先はとがります。花序は長さ5～15cmで、6～10個の短い枝を総状に出して小穂をつけます。長い芒があり、先は粘って衣服につきます。葉が笹の葉に似て、縁が縮れている特徴があることからこの名があります。

07いきもの調査では、平方公園周辺・赤山町・埼玉鴨場周辺等で見られました。



単子葉植物 イネ科

スズメノヒエ

Paspalum thunbergii

花の時期・色 8～10月・緑色

特徴 日当たりのよい草地に生える高さ40～90cmの多年草です。茎はまっすぐに立ち、葉にはやわらかく長い毛があります。茎の先に長さ5～10cmの花序の枝を3～5個出し、枝の片側に小穂を2列に密生します。

07いきもの調査では、平方で見られました。



単子葉植物 イネ科

メヒシバ

Digitaria ciliaris

花の時期・色 7～11月・淡緑色または紫色を帯びる
特徴 道端や空き地、畑などに生える高さ30～90cmの一年草です。茎の節から根を出して抜きにくい、嫌われものとなっています。葉は長さ8～20cm、幅0.5～1.5cmの広線形で薄くてやわらかく、茎の先に花序の枝を3～8個放射状に広げ、小穂が密生します。

07いきもの調査では、平方小学校周辺・梅林公園周辺・西方小学校周辺で見られました。



単子葉植物 イネ科

エノコログサ

Setaria viridis

花の時期・色 9～11月・緑色

特徴 日当たりの良い平地に多い高さ40～70cmの一年草です。葉は線状披針形で下部には長い葉鞘があります。茎の頂に長さ3～8cmの円柱状の花穂をつけ、花穂の支えはやや一方に傾きます。和名は花穂を小犬のしっぽに見立てたもので、また花穂で猫をじゃらすので、ネコジャラシともいいます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



単子葉植物 イネ科

キンエノコロ

Setaria glauca

花の時期・色 8～10月・黄金色

特徴 日当たりの良い道端や畑、田のあぜなどに生える高さ30～80cmの一年草です。茎の下部は這わず、花序は長さ4～15cmで、果実の粒は大きく、小穂の基部には黄金色の剛毛が密生します。小穂の基部の剛毛が黄金色であることから名前がつけました。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・東越谷・健康福祉村・元荒川周辺等で見られました。



単子葉植物 イネ科

チカラシバ

Pennisetum alopecuroides

花の時期・色 8～11月・黒紫色

特徴 農道や舗装していない道の、踏まれるような場所に生える高さ30～80cmの多年草です。茎はかたくて丈夫で、束生し、なかなか抜けません。このために力芝といわれています。茎は細長い円柱形、葉鞘で包まれ、秋、葉の間から出る真っすぐな茎の頂に円柱形の花穂を直立します。

07いきもの調査では、大吉調節池付近・健康福祉村・南荻島・元荒川両川岸等各地で見られました。



単子葉植物 イネ科

オシシバ

Eleusine indica

花の時期・色 9～10月・緑色

特徴 日当たりの良い道端や草地などに生える高さ30～60cmの一年草です。ひげ根を出して束生し、茎は直立または斜上して疎に分枝、質は強く、扁平で平滑です。夏に茎の頂に傘形に分枝する花穂を出し、小穂は扁平で4～5個の小花をつけます。和名は茎や葉が丈夫なので、メヒシバに対してつけられたものです。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



単子葉植物 イネ科

カゼグサ

Eragrostis ferruginea

花の時期・色 9～10月・紫色

特徴 日当たりの良い乾いたところに生える高さ50～80cmの多年草です。根は地中深く入るので、なかなか抜きとれません。葉は長さ30～40cm、幅2～6mmで、乾くと内側に巻きます。葉鞘の縁には白い毛があります。花序は長さ25～35cmの円錐状で、紫色を帯びた小穂を多数つけます。

07いきもの調査では、梅林公園周辺・大吉調節池・東大沢等で見られました。



単子葉植物 イネ科

ヨシ(アシ)

Phragmites communis

花の時期・色 8～10月・淡紫色

特徴 日本各地の浅い池沼、河岸に生える高さ2～3mの多年草です。普通大群落をつくります。茎は太くてかたく、節間は長い。葉は互生し、長さ20～50cm、幅2～4cmの線形で先が垂れます。秋に多数の小穂からなる大型の円錐花序を出します。

07いきもの調査では、元荒川中央市民会館周辺・健康福祉村・大吉調節池等で見られました。



単子葉植物 イネ科

スズメノカタビラ

Poa annua

花の時期・色 3～11月

特徴 家の付近や道端などに広く分布する高さ10～25cmの越年草です。葉鞘や葉は平たく、根ざわから多数の茎が出ています。小穂は長さ3～5mmで小花をつけます。和名は小さい小穂をつけた花序をスズメに着せた帷子がたびら(単衣の着物)にたとえたものといえます。

07いきもの調査では、平方・南荻島・北越谷・砂原等で見られました。



単子葉植物 イネ科

イヌムギ

Bromus catharticus

花の時期・色 4～7月・緑色

特徴 道路、河原などに生えるアメリカ大陸原産の帰化植物で高さ0.6～1mの多年草です。茎は3～4本で束生、平滑です。葉は広い線形、幅1cmくらいで、粗く無毛です。小穂は線状皮針形で平たく、両縁は稜をなし、長さ2.5cm内外でやや下に垂れ、5～6花からなります。麦に似ていますが有用でないことから、犬麦といわれます。

07いきもの調査では、千間台西・北越谷・蒲生茜町等で見られました。



単子葉植物 イネ科

カモジグサ

Agropyron tsukushiense v. *transiens*

花の時期・色 5～7月・紫色

特徴 道ばたや畑の縁などに生える高さ0.4～1mの多年草です。葉は長さ15～25cm、幅0.5～1cmの線形です。根ざわで茎が分かれ株となり群生します。花序は長さ15～25cmの穂状で先は垂れ、紫色を帯びた小穂が2列に並びます。カモジとは女の人が髪の毛に添える毛のことで、子供が若草を人形のかもじにして遊んだことによって、この名がつけられました。

07いきもの調査では、大吉調節池・南荻島・南越谷等で見られました。



単子葉植物 イネ科

アオカモジグサ

Agropyron ciliare v. *minus*

花の時期・色 5～7月・白緑色

特徴 土手などに生える高さ0.3～1mの多年草です。葉は線形で平ら、穂は常に緑色で垂れています。小花の内えいは護えいより短い、近種のカモジグサはほぼ同じ長さなので見分けが出来ます。

07いきもの調査では、健康福祉村等で見られました。



単子葉植物 イネ科

クサヨシ

Phalaris arundinacea

花の時期・色 5～6月・白緑色

特徴 水辺や湿地に生える高さ0.7～1.8mの多年草です。地下茎を伸ばして群生します。葉は互生し、幅広い線形、細かい鋸歯があります。初夏に丈の高い茎の頂きに円錐花穂を直立し、白緑色の小穂を多数つけます。名前はヨシに似ていて、全体に草質であることからよります。

07いきもの調査では、平方で見られました。



単子葉植物 イネ科

カラスムギ

Avena fatua

花の時期・色 5～7月・淡緑色

特徴 日本各地の畑や道端、荒地などに生える高さは0.6～1mの越年草です。葉は長さ10～25cm、幅0.7～1.5cmの線形です。花序は長さ15～30cmのまばらな円錐状で、淡緑色の小穂が多数垂れ下がります。和名は食用にならず、カラスが食べる麦の意味です。

07いきもの調査では、平方・大泊・北越谷・赤山町等で見られました。



単子葉植物 イネ科

スズメノテッポウ

Alopecurus aequalis

花の時期・色 4～6月・淡緑色

特徴 春の田起し前の水田などに生える高さ20～40cmの一年草または越年草です。全体に柔らかく緑白色を帯びています。茎は束生し線形、細かい鋸歯、葉鞘があります。春、茎の頂に円柱状の花序を立て、淡緑色で多数の小穂を密着します。細長い円柱形の花序を鉄砲や枕・檜に見立てスズメノテッポウ・スズメノマクラ・ヤリクサといわれます。

07いきもの調査では、平方小学校周辺・砂原・総合体育館周辺等で見られました。



単子葉植物 イネ科

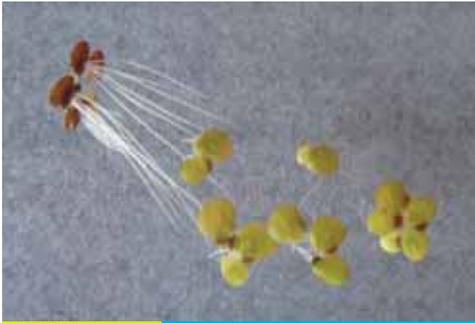
アズマネザサ

Pleioblastus chinensis

花の時期・色 4～5月・淡緑色

特徴 二次林の林床や河原などに群生する高さ0.5～2mの常緑竹です。地下茎は長く横たわって、節から根と地上茎を出します。節から1～5本の枝を出します。葉は長さ5～25cm、幅2cmほどです。花穂は葉腋からでます。

07いきもの調査では、平方自然観察林・平方浅間神社・南荻島等で見られました。



単子葉植物 ウキクサ科

ウキクサ

Spirodela polyrhiza

花の時期・色 5～8月・白色

特徴 水田、池などの水面一面に浮遊する様からかがみぐさ(鏡草)初夏に現れ秋に消えるのでなきものぐさ(無者草)などといわれ、葉は5～6mm、裏面は紫色で根は7～10本束となり垂れ下がります。はかない生活、定着性のない生活の例えとされますが、たくましい生活力で涼しくなると冬芽をつくり水底に沈んで越冬、翌年暖かくなると発芽して浮上します。ウキクサ科にはミジンコウキクサ(根なし)ウキクサ、アオウキクサ(根は1本)の三属があります。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



単子葉植物 ガマ科

コガマ

Typha orientalis

花の時期・色 6～8月・茶色

特徴 川や池の近くや沼地に生える高さ1.5～2mの多年草です。根茎は地中に横たわり、ひげ根があり、茎は直立、滑らかな円柱形です。葉は幅1cmくらい、下部は、さや状で茎を包んでいます。茎の先端に円柱形の花穂を出し、雄花穂は上部に、雌花穂は下部につきます。花粉は単一で密着していません。

07いきもの調査では、平方公園周辺・大吉調節池等で見られました。



単子葉植物 ガマ科

ヒメガマ

Typha angustifolia

花の時期・色 6～8月・茶色

特徴 川や池の縁などに生える高さ1.5～2mの多年草です。上部の雄花穂と下部雄花穂の間が離れて、軸が裸出しているのが特徴です。葉は、ガマよりやや細く、花粉は1個ずつ離れています。

07いきもの調査では、向畑・大吉調節池・健康福祉村周辺等で見られました。



単子葉植物 カヤツリグサ科

アゼナルコ

Carex dimorpholepis

花の時期・色 5～6月

特徴 川原の湿地に生える高さ40～50cmの多年草で大株になります。茎の上部に5～6個の小穂をつけ上部の2～4個は、先端部は雌花、基部は雄花をつけ、下部の小穂は雌花です。田のあぜに生え、小穂が鳴子のように並んで垂れ下がる様子からこの名がつけました。

07いきもの調査では、平方・船渡・大吉調節池等で見られました。



単子葉植物 カヤツリグサ科

ヒメクグ

Cyperus brevifolius v. *leiolepis*

花の時期・色 7～10月・緑色

特徴 水田や池などの日当たりの良い湿地に生える高さ5～20cmの一年草です。根茎は横に這って増えます。茎は葉の間から立ち上がり、先端に3個ほどの長い苞葉を下向きに広げ中央に球形の花序を1個つけ、全草に香気があります。小さいので姫クグ(クグはカヤツリグサ類の古い名)といわれます。

07いきもの調査では、健康福祉村等で見られました。



単子葉植物 カヤツリグサ科

カヤツリグサ

Cyperus microira

花の時期・色 7～8月・黄褐色(穂)

特徴 畑や荒地、道端などにふつうに生える高さ20～60cmの一年草です。茎は三稜形で葉は根元に1～3個つき、茎の先に葉と同形の苞が3～4個つきます。茎と苞の間から5～10個に枝分かかれし、さらに3個分岐します。茎の両端をつまんで裂くと、まんなかに四角形ができることから「蚊帳吊草」の名前があります。

07いきもの調査では、大吉調節池・西方小学校周辺で見られました。



単子葉植物 ラン科

ネジバナ

Spiranthes sinensis v. *amoena*

花の時期・色 5～6月・淡紅色

特徴 日当たりの良い草地や芝生などに生える高さ10～40cmの多年草です。地下には数個の太くて短い白い根があります。葉の長さ5～20cm、幅は0.3～1cmで中央脈はくぼみ、花茎は上部がねじれていて、かわいい花を咲かせます。ねじれは左巻き、右巻の両方があります。

07いきもの調査では、大吉調節池・北越谷・大林等で見られました。



シダ植物 トクサ科

スギナ

Equisetum arvense v. *arvense*

花の時期・色 花は咲かず、胞子で増えます

特徴 畑や空き地、道端などに群生している多年草です。スギナとツクシは同じ植物から出る栄養茎と胞子茎です。地下に長い根茎があつて、そこから早春にツクシが出ます。前年にスギナが貯めた栄養で育ちます。ツクシの頭には多数の胞子嚢がつき胞子が散ります。ツクシは春のうちに枯れてスギナが大きくなります。茎は中空で枝は輪生し、葉はごく小型の鞘状です。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



鳥類

鳥編は、越谷市内で見られる鳥の中から14目30科56種を以下の分類、順序で掲載しました。

カイツブリ目
カイツブリ科

ペリカン目
ウ科

コウノトリ目
サギ科

カモ目
カモ科

タカ目
タカ科、ハヤブサ科

キジ目
キジ科

ツル目
クイナ科

チドリ目
チドリ科、シギ科、カモメ科

ハト目
ハト科

カッコウ目
カッコウ科

フクロウ目
フクロウ科

ブッポウソウ目
カワセミ科

キツツキ目
キツツキ科

スズメ目
ヒバリ科、ツバメ科、セキレイ科、
ヒヨドリ科、モズ科、ツグミ科、
ウグイス科、シジュウカラ科、
メジロ科、ホオジロ科、アトリ科、
ハタオリドリ科、ムクドリ科、
カラス科

鳥類用語解説

全長(ぜんちょう)...くちばしの先から尾の先までを真っすくにした時の長さ。

翼開長(よくかいちょう)...両翼を真っすくに広げた時の翼の先から先までの長さ。

幼鳥(ようちょう)...卵からかえって巣立った時から第1回の換羽までの時期の鳥。

夏羽(なつばね)...繁殖期の羽色。生殖羽・繁殖羽ともいう。多くは春の換羽によって夏羽になるが、コサギ・カモ類などでは1~2月に夏羽になる場合がある。

冬羽(ふゆばね)...非繁殖期の羽色で、非生殖羽・非繁殖羽ともいい、夏羽より地味な色になる。夏羽と冬羽の違いがない種もある。

飾り羽(かざりばね)...繁殖期に、頭部や背にみられる飾りのような美しい羽毛。サギ類などにみられる。

冠羽(かんう)...頭部に生えている飾り羽。上に立ったもの、垂れ下がったものなど様々なものがある。

エクリプス(Eclipses)...カモ類のオスは繁殖期が終わって全身換羽が行われる。この非繁殖期の羽のこと。

横斑(おうはん)...体の軸に対して垂直に交わる斑点やしま模様。

縦斑(じゅうはん)...体の軸に対して平行の斑点やしま模様。

さえずり...主に小鳥類のオスが、繁殖期に縄張りを主張したり、メスを誘ったりするときの鳴き声。

地鳴き(じなき)...仲間への合図や警戒したときに使われる鳴き声。さえずりより単調で短く、繁殖期・越冬期、オス・メス、成鳥・幼鳥の区別なく鳴く。

ソアリング(Soaring)...上昇気流などを利用して、翼を広げたまま、ほとんどはばたかずに飛ぶこと。帆翔ともいう。ワシやタカの仲間に多くみられる。

ホバリング(Hovering)...翼や尾羽を高速にはばたかせ、空中の一点に停止する飛び方。停空飛翔ともいう。コアジサシが餌をねらうときによく行う。

ディスプレイ・フライト(Display flight)...繁殖期に、飛びながら求愛やなわばりを主張すること。大きな波形を描いたり、急降下したりする。

コロニー(Colony)...集団繁殖している鳥の営巣地のこと。サギ類・カモメ類・アジサシ類などでよくみられる。

渡り(わたり)...繁殖地と越冬地の間を季節にともない定期的に往復すること。この移動をする鳥を渡り鳥という。

夏鳥(なつどり)...日本で繁殖するために南の地域から渡来する渡り鳥。春から夏を日本で過ごし、秋に南方へ渡って越冬する。

冬鳥(ふゆどり)...日本で越冬するために北の地域から渡来する渡り鳥。秋から冬を日本で過ごし、春に北方へ渡って繁殖する。カモ類・カモメ類など。

旅鳥(たびどり)...日本より北方で繁殖し、日本の南方で越冬する。その往復の際に日本に立ち寄る渡り鳥。一般的に日本には春と秋に立ち寄る。

留鳥(りゅうちょう)...一年中同じ地域で見られる鳥で、季節的な移動をしない鳥。

漂鳥(ひょうちょう)...日本国内を季節によって移動する鳥。

換羽(かんう)...羽毛が抜けかわること。

托卵(たくらん)...自分では巣を作らないで、他の鳥の巣に卵を産み付け、雛を育てさせること。托卵された鳥を仮親^{ひな}という。日本ではカッコウ科の鳥が知られている。



カイツブリ目 カイツブリ科

カイツブリ

Tachybaptus ruficollis

鳴き声 ケレケレケレ、ピツ、ピリオン

特徴 留鳥 全長26cm。ハトより小さく、日本のカイツブリの仲間では一番小さい鳥です。指には、木の葉のようなひれがついています。夏羽は顔から首の上部は赤褐色、くちばしの根元に黄白色の部分があります。冬羽は上面が褐色で下面は淡色です。池や沼で繁殖し、水にもぐって魚を捕らえ、水面に水草を積み上げて巣を作ります。

07いきもの調査では、大吉調節池・埼玉鴨場・健康福祉村・葛西用水等で見られました。



ペリカン目 ウ科

カワウ

Phalacrocorax carbo

鳴き声 グルルーンまたはグロアア

特徴 留鳥 全長82cm。カラスより大きく、体・首・くちばしとも長く、全体が黒色です。顔は黄色で、その外側は白色、春から秋の繁殖期には頭に白色の羽が出て、腰の両側に白斑ができます。湖や沼、海に近い林に巣を作り、コロニー^{しのぼすのいけ}を作って繁殖します。上野の不忍池のコロニーは有名です。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・元荒川・古利根川等、市内各地で多数見られました。



コウノトリ目 サギ科

ゴイサギ

Nycticorax nycticorax

鳴き声 クワァツ、クワァツ

特徴 留鳥 全長58cm。カラスくらいの大さくで、くちばしは黒く、頭と背が黒ずんだ緑色、繁殖期には2本の飾り羽が出ています。幼鳥は、茶色で白斑の模様があります。昼間は首を縮め、林などで休んでいますが、夕方や夜になると池や川で魚やカエルを捕って食べます。他のサギ類と混じてコロニーを作ります。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・中川・新方川等、市内各地で多数見られました。



夏羽

冬羽

コウノトリ目 サギ科

アマサギ

Bubulcus ibis

鳴き声 グワァッ、グワァッ

特徴 夏鳥（一部温暖地では一年中見られます）
全長50cm。コサギより小さくて、くちばしは短く、冬羽は全体が白色でくちばしは黄色、足は緑褐色です。夏羽は頭から胸が橙色になります。水田や湿地などで見られ、他のサギ類と混じって集団で繁殖します。主に昆虫類を食べます。

07いきもの調査では、健康福祉村・中川・南萩島・増森・東町等、市内各地で見られました。



コウノトリ目 サギ科

ダイサギ

Egretta alba

鳴き声 グァー

特徴 留鳥 全長89cm。全体が白色で首やくちばしの長い大型のサギです。夏はくちばしや足が黒色で目先の裸出部は緑青色、胸と背に長い飾り羽をもっています。冬にはくちばしが黄色になり、飾り羽もなくなります。水田や沼地・干潟などの水辺に生息し、魚などを捕まえて食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・七左町・川柳町・中島等、市内各地で多数見られました。



コウノトリ目 サギ科

コサギ

Egretta garzetta

鳴き声 ゴァーッ、ゴァーッ

特徴 留鳥 全長61cm。全体が白色で、くちばしと足が黒色で指は黄色です。夏羽は頭に長い飾り羽、背にはカールした飾り羽をもちます。水田や池沼・湿地・干潟などで見られ、魚や両生類などを食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・平方・増林・葛西用水沿い等、市内各地で多数見られました。



コウノトリ目 サギ科

アオサギ

Ardea cinerea

鳴き声 グワァー

特徴 留鳥 全長93cm。日本のサギの仲間では最も大きなサギです。体の上面は淡く黒色がかった灰色で、風切は青色がかった黒色です。頭と首は白く、後頭部の黒色は繁殖期に伸びて飾り羽になります。長い首を縮めて飛び、水田や湖沼・干潟などで見られ、魚やカエル・ネズミなども捕まえます。

07いきもの調査では、健康福祉村・川柳町・七左町・元荒川(北越谷)等で多数見られました。



カモ目 カモ科

マガモ

Anas platyrhynchos

鳴き声 グェー、グェー

特徴 冬鳥 全長59cm。大きな淡水ガモで、オスは緑色の頭、黄色のくちばしで、白い首輪があります。メスは茶色の体で橙色のくちばしに黒の模様があります。湖沼・池・河川などで見られます。マガモを人工的に飼育・改良したものがアヒルです。

07いきもの調査では、大吉調節池・古利根川・綾瀬川・葛西用水等で見られました。



カモ目 カモ科

カルガモ

Anas poecilorhyncha

鳴き声 グェッグェツ

特徴 留鳥 全長60cm。大型の淡水ガモで、全体に暗褐色で頭は白っぽく、顔には2本の黒褐色の線があります。くちばしは黒色で先端部が黄色です。冬でもオス・メス同じ色で河川や水田・湿地などに生息し、種子や小草・タニシなども食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・古利根川・元荒川・綾瀬川等で多数見られました。



オス

メス

カモ目 カモ科

コガモ

Anas crecca

鳴き声 ビリッ、ビリッ

特徴 冬鳥 全長37cm。日本に渡来してくるカモの中では、最も小さな淡水ガモです。オスの頭部は、眼のまわりから後頭部にかけて斜めに緑色、ほかは茶色で、体に白い線があります。メスは全体的に茶色で、くちばし・足は黒です。種子や水生昆虫などを食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・古利根川・元荒川等で多数見られました。



カモ目 カモ科

ヒドリガモ

Anas penelope

鳴き声 ビューウ、ビューウ

特徴 冬鳥 全長48cm。中型の淡水ガモで、くちばしも首も短い鳥です。水上では体を高く保っています。オスは頭部から首にかけて赤茶色(緋色)で、額から頭頂^{ひいろ}はクリーム色、体は灰色です。メスは地味な栗色の体で、くちばしはオスと同じ鉛色をしています。種子や水草・海藻を食べます。

07いきもの調査では、古利根川・元荒川・綾瀬川等の河川で多数見られました。



カモ目 カモ科

オナガガモ

Anas acuta

鳴き声 プリッ、プリッ

特徴 冬鳥 全長オス75cm、メス53cm。大型の淡水ガモで、首も尾も長いのが特徴です。オスは体が灰色で、頭はチョコレート色、くちばしは灰色です。メスは全体が褐色で黒褐色の斑紋が全身にあります。オス・メスとも他のカモと比べて尾が長いので簡単に判別できます。群生が強く、逆立ちをして水底の餌を探している姿がよく見られます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・古利根川・新方川等で見られました。



カモ目 カモ科

ハシビロガモ

Anas clypeata

鳴き声 クエツ、クエツ

特徴 冬鳥 全長オス51cm、メス43cm。中型の淡水ガモで、その名のとおり大きくなくちばし
が特徴です。オスは色彩豊かで、頭は光沢のある
緑黒色、胸と脇は白、腹は茶色とよく目立つ
色です。メスは全体的に茶色で地味です。はば
広くちばしを水面につけて藻類やプランク
トン類を食べている姿をよく見かけます

07いきもの調査では、大吉調節池・元荒川・綾瀬
川・出羽公園等で見られました。



カモ目 カモ科

ホシハジロ

Aythya ferina

鳴き声 クルツ、クルツ

特徴 冬鳥 全長オス48cm、メス43cm。中
型の海ガモで、オスは頭が赤褐色、胸は黒褐
色、背・腹は灰褐色で、上下尾筒は黒です。
メスは全体が灰褐色で、くちばしは両方とも
黒です。海ガモですが、主に淡水の湖沼や川
に生息し、もぐって水草をとって食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・
しらこぼと運動公園付近・元荒川等で見られました。



カモ目 カモ科

キンクロハジロ

Aythya fuligula

鳴き声 クツ、クツ、クツ

特徴 冬鳥 全長オス44cm、メス38cm。オス
は後頭に垂れ下がる冠羽があり、目は黄色で
胸・背・腰・上下尾筒・尾は黒く、脇と腹は白
色です。メスは全体が黒褐色で脇と腹は淡色で
す。湖沼や広い川などで見られ、潜水して貝や
魚などをよく食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・
大相模調節池で見られました。



タカ目 タカ科

ツミ

Accipiter gularis

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT2)

鳴き声 ビョーウビョウビョウビョウ

特徴 夏鳥 全長オス27cm、メス30cm。日本に生息する最も小さなタカで、オスの上面は暗青灰色、下面は白色で、脇が橙色を帯びます。メスの下面は白色で褐色の横斑が多数あります。多くは平地から山地の林に生息し、近くに飛んできたスズメやツバメなどの小鳥を捕まえて食べます。

07いきもの調査では、千間台で見られました。



タカ目 ハヤブサ科

チョウゲンボウ

Falco tinnunculus

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT2)

鳴き声 キーキ

特徴 留鳥 全長オス33cm、メス38cm。ハトぐらいの大きさで尾が長く、ほっそりとした鳥です。オスは頭と尾が灰色で背面が栗色の美しい色彩をしています。メスは全身褐色です。ヒラヒラはばたきながら空中の一点にとどまって(ホバリング)獲物を探し、ネズミや小鳥・昆虫などを捕まえます。

07いきもの調査では、大吉調節池・平方・西方・七左町・増林・流通団地等で見られました。



キジ目 キジ科

キジ

Phasianus colchicus

鳴き声 クオー、クオー またはケッケー

特徴 留鳥 全長オス80cm、メス60cm。オスとメスとでは大きさも色も違います。オスは暗緑色の体で、顔はハート型に赤く、長い尾をもったとても美しい鳥です。一方メスは黄褐色がかかり縦斑が目立ち、尾もオスほど長くなく地味な色をしています。地上生活が主で山地の草原・農耕地・河原・雑木林の周辺部などに生息しています。

07いきもの調査では、平方・砂原・総合体育館周辺・東町・大成町等で見られました。



ツル目 クイナ科

バン

Gallinula chloropus

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT2)

鳴き声 クルルーツ

特徴 留鳥 全長32cm。ハトぐらいの大きさで、黒い体に赤いくちばしが美しい鳥です。脇腹に白い線があり、足と指が長くて冬羽はくちばしの赤みがなくなります。水田や池沼・湿地に生息し、種子や水草・昆虫などを食べます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・元荒川・北後谷等で見られました。



チドリ目 チドリ科

コチドリ

Charadrius dubius

鳴き声 ピオピオ

特徴 夏鳥 全長16cm。日本にいるチドリの仲間では最も小さくて、スズメより少し大きな鳥です。目のまわりが黄色で、頭のてっぺんと背は灰褐色で腹側は白色、胸と顔には黒色の帯があってよく目立ちます。水田や川原・池沼などに生息し、昆虫などを食べます。

07いきもの調査では、北越谷・平方・南荻島・大成町等で見られました。



チドリ目 チドリ科

ムナグロ

Pluvialis fulva

鳴き声 キョピョー、キョピョー

特徴 旅鳥（春と秋）全長24cm。背面は黄色と黒の細かいしま模様をしています。冬羽は胸が淡い黄褐色をしていますが、夏羽になるとはっきりした黒色になります。くちばし、足ともに黒色です。水田や川・干潟に生息し、昆虫やミミズなどを食べています。春と秋の2回立ち寄りますがこのような鳥を旅鳥といいます。

07いきもの調査では、健康福祉村周辺・谷中町・平方・北後谷・三野宮等で見られました。



チドリ目 シギ科

イソシギ

Actitis hypoleucos

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT2)

鳴き声 チーリーリー

特徴 留鳥 全長20cm。ムクドリより少し小さいシギで、体の上面は黒みがかった灰色、腹部は白色でよく目立ちます。肩の部分に、胸部の白色が深く入り込んでいる点の特徴です。また飛ぶと翼に白い線が見えます。水田や河川・湿地に生息し、歩いたり餌をとったりするときによく腰を上下にふります。

07いきもの調査では、平方・南荻島・大吉・越ヶ谷・向畑等で見られました。



チドリ目 シギ科

チュウシャクシギ

Numenius phaeopus

鳴き声 ホイビビビビビ

特徴 旅鳥（春と秋） 全長42cm。カラスより小さく、頭に白色と黒色の線の模様があります。体は全体的に茶色で、下に曲がった長いくちばしの特徴です。水田や河原・干潟に多く生息し、カニや魚などを食べます。春と秋に2回渡来します。

07いきもの調査では、平方・恩間新田・増林・七左町・中島で見られました。



チドリ目 シギ科

タシギ

Gallinago gallinago

鳴き声 ジェツジェツ

特徴 冬鳥 全長27cm。ツグミより少し大きなシギです。まっすぐで長いくちばしを持っています。体はためて黒褐色のまだら模様、顔の縦じま模様と背の黄褐色の太い縦じまが目立ちます。水田や湿地・河川などに生息し、長いくちばしを泥の中に差し込んで獲物を捕まえます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・しらこぼと水上公園付近等で見られました。



チドリ目 カモメ科

ユリカモメ

Larus ridibundus

鳴き声 ギューイ、ギューイ

特徴 冬鳥 全長40cm。ハトより少し大きくて、くちばしと足が赤く、全体に白っぽい体をしています。夏は頭がチョコレート色をしています。冬は白くなります。群れを作ることが多く、海岸や川などに生息し、魚や昆虫などを食べます。「都鳥」と言われるのはこの鳥のことで、東京都の鳥としても有名です。

07いきもの調査では、健康福祉村・南荻島・蒲生愛宕町・大成町・東町等で多数見られました。



チドリ目 カモメ科

セグロカモメ

Larus argentatus

鳴き声 ガアハハツまたはキュー

特徴 冬鳥 全長60cm。カラスより少し大きく、背が灰色の大きなカモメで、翼を広げると1.5mぐらいになります。海岸に生息し、鳥の卵や雛・魚や死んだ動物・残飯など何でも食べる雑食性です。

07いきもの調査では、健康福祉村・蒲生・大間野町・新川町・向畑等で見られました。



ハト目 ハト科

キジバト

Streptopelia orientalis

鳴き声 ゼゼッポポー

特徴 留鳥 全長33cm。ドバトより少し小さく、背中が灰褐色、頭から腹にかけては淡い褐色をしています。首の横には灰青色のしま模様があります。低い山地や林に生息していてヤマバトとも呼ばれています。近年は市街地の公園や庭でもよく見かけます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



カッコウ目 カッコウ科

カッコウ

Cuculus canorus

鳴き声 カッコウ、カッコウ

特徴 夏鳥 全長35cm。ハトぐらいの大きさでほっそりした鳥です。飛んでいる姿は小型のタカのように見えます。自分で巣を作らず、モズやオオヨシキリなどの他の鳥の巣に卵を産んで、雛を育てさせます。これを托卵(たくらん)といいます。卵からかえった雛は、その巣の卵や雛を外へ落とし、巣をひとりじめします。

07いきもの調査では、健康福祉村・久伊豆神社・平方・千間台・花田等で見られました。



フクロウ目 フクロウ科

アオバズク

Ninox scutulata

埼玉県レッドデータ地帯別危惧 (RT)

鳴き声 ホッホー、ホッホー

特徴 夏鳥 全長29cm。体の上面は黒褐色で、長い尾羽には黒帯が並びます。耳羽はなく目の虹彩は金色です。4月の終わりごろ日本全国に渡ってきます。県内では山地の森林や低地の市街地の神社などの大木で繁殖が確認されています。巣となるうろのある大木や餌となる昆虫類が減ってきていることから、子育ての場所が少なくなり、固体数の減少が心配されています。

07いきもの調査では、大泊・船渡で見られました。



ブッポウソウ目 カワセミ科

カワセミ

Alcedo atthis

埼玉県レッドデータ絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

鳴き声 チーツ

特徴 留鳥 全長17cm。体に比べて頭が大きく、くちばしが長い鳥です。背はコバルト色で、頭上や翼が金属光沢のある緑色、目の下から腹は橙色です。ホバリングしてから急降下し、ダイビングして魚やエビ・水生昆虫を捕えます。河川周辺の土の崖に巣穴を掘って子育てをします。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・元荒川・綾瀬川・新方川等で見られました。



キツツキ目 キツツキ科

コゲラ

Dendrocopos kizuki

鳴き声 ギーツ、ギーツ

特徴 留鳥 全長15cm。スズメぐらいの大きさで、日本で一番小さなキツツキです。体は褐色で背中と翼に白い横じまがあり、のどから胸にかけては白色で、腹には褐色の縦斑があります。主に山地から平地の森林に生息し、枯れかけた樹に穴をあけて巣を作ります。昆虫や木の実などを食べ、最近では町の中でも見られます。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・梅林公園・総合体育館付近等で見られました。



スズメ目 ヒバリ科

ヒバリ

Alauda arvensis

鳴き声 ビルルツまたはビュルツ

特徴 留鳥 全長17cm。スズメより少し大きく、頭には冠のような羽があります。薄茶色の体でほほは茶色、春から夏の繁殖期には空高く舞い上がり、飛びながらさえずります。農耕地や河原・草原などで繁殖し、昆虫や種子などを食べています。

07いきもの調査では、三野宮・砂原・東越谷・梅林公園周辺等、市内各地で多数見られました。



スズメ目 ツバメ科

ツバメ

Hirundo rustica

鳴き声 ピチュピチュピチュピチュピリリリ

特徴 夏鳥 全長17cm。ツバメほど身近な鳥として可愛がられている野鳥はいません。頭と背中が黒色、額とどは赤褐色、尾は2本に分かれている(燕尾型)のが特徴です。飛んでいる虫を空中で捕まえ、人家の軒下に土と枯れ草でおわん型の巣を作ります。巣立ち後は、河原のヨシ原などで見られます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 セキレイ科

ハクセキレイ

Motacilla alba

鳴き声 チツ、チツ

特徴 留鳥 全長21cm。スズメより大きく、白色と黒色の模様をしていて尾は黒色、外側の尾羽は白色です。またくちばしと足は黒色です。海岸や河口の砂地・川岸・水田など低地の水辺で生息し、地上では腰を上下に振りながら歩き回って昆虫をとりまわります。飛ぶときは波形を描きます。最近では街の中でもよく見かけます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 セキレイ科

セグロセキレイ

Motacilla grandis

鳴き声 ジジジジジ

特徴 留鳥 全長21cm。ハクセキレイと同じ大きさで、体は細くてスマートです。頭と胸、体の上面が黒く下面が白くて、額から目の上にかけての白い眉斑がよく目立ちます。地上では腰を上下に振り、飛ぶときは波形を描きます。内陸の湖沼や河川の溪流沿いに生息し、昆虫などを食べています。日本特産種です。

07いきもの調査では、平方公園周辺・西新井・中央市民会館周辺等で見られました。



スズメ目 セキレイ科

タヒバリ

Anthus spinoletta

鳴き声 ピーっピーっ

特徴 冬鳥 全長16cm。体は細くスマートで、タヒバリという名がついていますが、ヒバリの仲間ではなく、セキレイの仲間です。灰色っぽい茶色の体で、眉は薄くあまり目立ちません。セキレイと同様に地上では腰を上下に振り、飛ぶときは波形を描きます。水田や河原・湿地などに生息しています。

07いきもの調査では、健康福祉村・越谷市役所周辺・向畑・七左町・谷中町等で見られました。



スズメ目 ヒヨドリ科

ヒヨドリ

Hypsipetes amaurotis

鳴き声 ビーヨービーヨー

特徴 留鳥 全長28cm。スズメより大きくて尾は長めです。体は灰色っぽい地味な色で、ほほは茶色、足とくちばしはともに黒色です。平地・丘陵や市街地に生息し、クモや昆虫類・花々の蜜や果実など何でも食べる雑食性です。近年、市街地で繁殖し、数が増えています。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 モズ科

モズ

Lanius bucephalus

鳴き声 キーキーまたはキョンキョン

特徴 留鳥 全長20cm。スズメより大きくて、くちばしや足が黒っぽく、頭が大きくて目を通る黒い帯があります。モズは小さい猛禽といわれ、鋭くカギ型に曲がつたくちばしは、時にはスズメなどの小鳥をも襲います。林や畑に生息し、昆虫やトカゲなどの獲物を木の枝につきさしておく習性があり、これを「モズのはやにえ」といいます。

07いきもの調査では、大吉調節池・埼玉鴨場周辺・西方小学校周辺・谷中町等で見られました。



オス

メス

スズメ目 ツグミ科

ジョウビタキ

Phoenicurus aureus

鳴き声 ヒッヒッまたはクルルッ

特徴 冬鳥 全長15cm。スズメより大きく、オスは灰色の頭で翼に白い点があり、腹は橙色です。メスは茶色っぽく、地味な色をしています。シベリア方面から渡ってくる鳥で、厳冬の田畑や庭などの木の枝に止まって鳴きます。尾を細かく振って頭を下げる動作が特徴で、木の実や昆虫などを食べます。

07いきもの調査では、健康福祉村・梅林公園周辺・弥栄町・東越谷・大間野町等で見られました。



スズメ目 ツグミ科

アカハラ

Turdus chrysolaus

鳴き声 キョロン、キョロン、チリリ

特徴 漂鳥 全長24cm。頭からのど・背・翼・尾は緑褐色で、胸と脇の橙色が目立ちます。目の周囲は黄色で、メスはオスより頭部の黒色が薄く、のどに白斑があります。明るい林で繁殖し、昆虫類やミミズを捕え、冬には木の実も食べます。市街地の公園や庭にも飛来することがあります。

07いきもの調査では、平方・千間台西・埼玉鴨場周辺・大吉調節池周辺で見られました。



スズメ目 ツグミ科

ツグミ

Turdus naumanni

鳴き声 ケツ、ケツ、またはキキキー

特徴 冬鳥 全長24cm。スズメより大きく、クリーム色のまゆ、胸の黒いポツポツ、栗色の翼が特徴です。足をそろえて地上をトントンとはね歩き、胸をそらせた姿勢で立ち止まります。そして、餌をついばみ、また歩くという動作を繰り返します。農耕地や草原・河原など明るい開けたところでよく見られ、ミズズや昆虫を食べます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 ウグイス科

ウグイス

Cettia diphone

埼玉県レッドデータ地帯別危惧 (RT)

鳴き声 ホーホケキョッまたはチャッチャッ

特徴 留鳥 全長オス15.5cm、メス13.5cm。スズメくらい大きさでオリーブがかかった茶色、下面は白っぽく、淡色の眉斑があります。枝に止まっている時は、体を水平にして絶えず動いています。平地から山地までの林やその周辺に生息し、昆虫や木の実などを食べ、早春には、ツバキの花の蜜を吸っている姿を見ることがあります。

07いきもの調査では、富士中学校周辺・埼玉鴨場周辺・花田・蒲生茜町等で見られました。



スズメ目 ウグイス科

オオヨシキリ

Acrocephalus arundinaceus

鳴き声 ギョギョシ、ギョギョシ

特徴 夏鳥 全長18.5cm。スズメより大きく、全身薄茶色で目立ちません。ヨシなどに縦に止まることが多く、くちばしを斜め上に向けて大きな赤い口をあけてさえずります。ヨシの茎を何本かたばねておわん型の巣を地上50cmくらいのところに作ります。ヨシにつく昆虫やクモなどを食べ、カッコウたからんに托卵されることがよくあります。

07いきもの調査では、健康福祉村・恩間新田・小曾川・増林・大成町等で見られました。



スズメ目 ウグイス科

セッカ

Cisticola juncidis

鳴き声 ヒッヒッヒッまたはチャッチャッチャッ

特徴 留鳥 全長12.5cm。スズメより一回り小さく、茶色の体に尾羽の先っぽは白っぽく、日本の野鳥の中で最小級の鳥です。草の葉をクモの糸などでまとめ、丸い形の巣を作ります。飛び方は、浅く遅い羽ばたきで飛び、さえずりのときは、深い上下動を繰り返して飛びます。水辺のヨシ原や草原・高原などで繁殖します。

07いきもの調査では、大吉調節池・平方・三野宮・増林・大成町等で見られました。



スズメ目 シジウカラ科

シジウカラ

Parus major

鳴き声 ツーピーツーピーまたはツーチー、ジュクジュク
 特徴 留鳥 全長14.5cm。スズメぐらいの大きさで、オスとメスが同じ色をしています。ほほのあたりが白く、胸から腹までネクタイ状の黒線がある灰色の鳥です。黒線は、オスは太くはつきりして、メスは細く薄くなっています。庭や公園で見られ、肉の脂身や昆虫・種子を食べ、巣箱などによく巣を作ります。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 メジロ科

メジロ

Zosterops japonica

鳴き声 チーチーまたはチュルチュルチリツルツル
 特徴 留鳥 全長11.5cm。スズメより小さく、黄緑色のちょっと太めの体で、名前のとおり目のまわりが白い鳥です。平地や丘陵・常緑広葉樹林に生息し、春はツバキなどの花の蜜を好んで吸います。甘いものが大好きで、餌台に砂糖水やジュースなどを置いておくと、よくやってきます。

07いきもの調査では、埼玉鴨場・下間久里・赤山町・蒲生・弥栄町等で見られました。



スズメ目 ホオジロ科

ホオジロ

Emberiza cioides

埼玉県レッドデータ地帯別危惧 (RT)

鳴き声 チチッチッチまたはチョッピーチチ、ピツチチリリ
 特徴 留鳥 全長16.5cm。スズメより少し大きく、茶色の体で顔に白と黒の模様があり、胸は明るい茶色の地味な鳥です。こずえや電線などで胸をはった姿勢でさえずり、草の中や低木などに草や細い根などでおわん型の巣を作ります。平地から山地の草地・農耕地などで見られるスズメによく似た鳥です。

07いきもの調査では、出羽公園周辺・梅林公園周辺・大杉・三野宮・北後谷等で見られました。



スズメ目 ホオジロ科

カシラガ

Emberiza rustica

鳴き声 チッチットまたはピーチュクピーチュクビルビルチーチー

特徴 冬鳥 全長15cm。スズメぐらいの大きさで、ホオジロやスズメに似ていますが、オス・メスともに頭に短い冠のような羽(冠羽)があります。シベリア地方から渡ってきて、平地・丘陵の林・水田などに生息します。地上で草の種子などを食べ、興奮したり警戒したりすると、冠羽を逆立てる習性があります。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・平方・谷中町4丁目付近で見られました。



スズメ目 ホオジロ科

アオジ

Emberiza spodocephala

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT1)

鳴き声 チョッピーチョップ、チチクーチリりまたはチッチッ
 特徴 漂鳥 全長16cm。スズメぐらいの大きさで、茶色の体、胸と腹は黄色く、黒いすじがあります。藪の中の暗い所を好みますが、さえずりは木の枝先などの目立つ所で鳴きます。地上近くに枯草でおわん型の巣を作ります。冬は平地の茂みに生息し、種子などを食べ、夏になると山の明るい林に移動し、昆虫などを食べます。

07いきもの調査では、梅林公園周辺、弥栄小学校周辺、三野宮、北川崎等で見られました。



スズメ目 アトリ科

カワラヒワ

Carduelis sinica

鳴き声 キリコロロまたはピンピン

特徴 留鳥 全長14.5cm。スズメぐらいの大きさで、オリーブ色がかった茶色の体、肉色のくちばし、翼には黄色の帯があります。市街地や村落付近の雑木林や公園にもいます。秋から冬にかけては河原や農耕地に群れをつくって生息し、黄色い翼を見せて飛びます。夏には庭のヒマワリの種子を食べに来ます。

07いきもの調査では、健康福祉村・富士中学校周辺・花田・平方・弥栄町等で見られました。



スズメ目 アトリ科

シメ

Coccothraustes coccothraustes

鳴き声 チチッ、キチッ

特徴 冬鳥 全長18cm。スズメより大きくて尾は短く、頭は大きくてずんぐりした体つきの鳥です。クリーム色の体で、大きなくすんだピンク色のくちばしがあります。平地や山地の落葉広葉樹林に生息し、市街地の公園や庭でも見られます。カエデやシデなどの種子を食べ、飛ぶときは大きな波形を描きます。

07いきもの調査では、梅林公園周辺・埼玉鴨場周辺・市役所周辺・大吉調節池等で見られました。



スズメ目 ハタオリドリ科

スズメ

Passer montanus

鳴き声 チュンチュン

特徴 留鳥 全長14cm。頭・背・尾が褐色で、ほほに黒斑があります。小笠原諸島以外の全国でよく見られる鳥です。繁殖期にはつがいで狭い縄張りを持ち、家屋のすき間や枝の茂みなどに、枯れ草で営巣します。秋冬には大木や竹林をめぐらします。主に昆虫や草の実を食べます。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 ムクドリ科

ムクドリ

Sturnus cineraceus

鳴き声 リャーリャーまたはギャーギャー

特徴 留鳥 全長24cm。スズメより大きく、黒っぽい体でくちばしと足が橙色、顔が白く、飛ぶと腰が白い鳥です。樹洞や民家の戸ぶくろに巣を作り、昆虫類の幼虫を好んで食べ、また、エノキ・ムクノキなどの木の実も食べます。秋から冬にかけて大群をつくり、大木のある林や竹藪に生息します。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 カラス科

オナガ

Cyanopica cyana

鳴き声 グェーイグェーイ、ギユイギユイ

特徴 留鳥 全長37cm。体はハトより小さいですが尾が長く、スマートな鳥です。翼を広げて浅い波状にゆっくり飛びます。カラス科の仲間ですが、頭が黒く、青色の羽をもつ美しい鳥です。繁殖期以外は群れで生活し、農家の屋敷林や平野部の林の周辺・市街地でも見られます。美しい外見に似合わない大きな声で鳴き、雑食性です。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 カラス科

ハシボソガラス

Corvus corone

鳴き声 ガーガー

特徴 留鳥 全長50cm。額はでっぴあっておらず、くちばしはハシブトガラスに比べると細いです。鳴く時に腹を膨らませ、頭を上下させます。雑食性で昆虫やネズミ・カエル・残飯などを食べますが、農作物などの植物性のものを採食する比率が高いです。秋から翌春にかけて林の中に集団ねぐらを作ります。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



スズメ目 カラス科

ハシブトガラス

Corvus macrorhynchos

鳴き声 カーカー、アーアー

特徴 留鳥 全長57cm。額がでっぴっており、くちばしは太く、先が曲がっています。雑食性で、昆虫・小鳥・果実・残飯など、あらゆるものを食べ、市街地ではゴミをあさる姿が見られます。林の中の高木の枝に巣を作ります。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



昆虫

昆虫編は、越谷市内で多く目につく昆虫8目30科61種を以下の分類、順序で掲載しました。

トンボ目（トンボの仲間）

アオイトトンボ科、カワトンボ科、
オニヤンマ科、ヤンマ科、トンボ科

カマキリ目（カマキリの仲間）

カマキリ科

バッタ目（バッタ・キリギリスの仲間）

キリギリス科、コオロギ科、ケラ科、
イナゴ科、オンブバッタ科、バッタ科

ハサミムシ目（ハサミムシの仲間）

ハサミムシ科

カメムシ目（カメムシの仲間）

アメンボ科、サシガメ科、セミ科

コウチュウ目

（カブトムシなど甲虫の仲間）
クワガタムシ科、コガネムシ科、
タマムシ科、テントウムシ科、
カミキリムシ科

ハチ目（ハチの仲間）

スズメバチ科、ミツバチ科

チョウ目（チョウ・ガの仲間）

アゲハチョウ科、シロチョウ科、
シジミチョウ科、タテハチョウ科、
セセリチョウ科、スズメガ科、
ドクガ科

昆虫とは、動物分類上、節足動物門昆虫綱に属する小動物の総称です。俗に虫と呼ばれ地球全体で約77万種も確認されています。日本全国では、約2万6千種類の昆虫が知られています。

昆虫用語解説

羽化（うか）...最後の脱皮をしてさなぎまたは幼虫から成虫になること。

捕食（ほしょく）...肉食性の昆虫が、他の昆虫や小動物を捕まえて餌とする行動のこと。

頭部（とうぶ）...体の前端にあり、胸部とつながる部分。一对の触角、複眼と一個の口器をもっている。

胸部（きょうぶ）...頭部と腹部の間にある部分。前胸、中胸、後胸の3つの節からできている。

腹部（ふくぶ）...からだの後端にあり、胸部とつながる部分。多くの腹節よりできている。

翅（はね）.....胸部にある飛ぶための器官。通常中胸に一对、後胸に一对の、計4枚を持つ。それぞれ前翅、後翅とよばれるが、昆虫によっては退化したものもある。甲虫類、ハサミムシ類では前はねは鞘(さや)状となっている。またチョウ、ガでは表面が鱗粉におおわれていて、さまざまな色彩、斑紋をつくる。

昆虫のはねは、鳥のように足が変化したものでないので羽と区別して使う。

触角（しゅっかく）...アンテナともいう。頭部の前端に突き出している一对の感覚器官。内部には、匂い、音、気流などを感じる感覚細胞がある。

脚（あし）.....昆虫のあしは足ではなく脚を使う。胸に3対、6本の脚があるのが昆虫の基本。

齢（れい）.....幼虫の成長段階を示す。卵からかえった幼虫を1齢幼虫といい最後を終齢という。

孵化（ふか）...卵がかえること。

食草（しょくそう）...昆虫がおもに幼虫期に餌として食べる植物のこと。



トンボ目 アオイトトンボ科

アオイトトンボ

Lester sponsa

分布 九州以北

見られる時期 7～10月

特徴 体長40mm。金緑色のスリムな体をした、たいへん美しいトンボです。このトンボはどちらかという日陰を好みます。一般に水生植物の多い池や沼で見られます。オオアオイトトンボに似ていますが、オスは成熟すると胸部や腹部の一部に白い粉をふくという違いがあります。

07いきもの調査では、大吉調節池・東越谷で見られました。



トンボ目 カワトンボ科

ハグロトンボ

Calopteryx atrata

分布 本州から屋久島

見られる時期 5～10月

特徴 体長40～52mm（翅の長さ75～92mm）半日陰の用水の流れの近くや沼の周辺などをゆっくり飛んでいる真っ黒いトンボです。体全体に黒緑色の金属光沢があり、輝いて見えます。似ているアオハダトンボよりも翅が細長いことで見分けます。

07いきもの調査では、平方・梅林公園周辺・大吉調節池周辺・健康福祉村等で見られました。



トンボ目 オニヤンマ科

オニヤンマ

Anotogaster sieboldii

分布 日本全土

見られる時期 6～10月

特徴 体長95～100mm（翅の長さ110～135mm）日本最大の大きさ、黒地に黄色のしま模様で、成熟すると複眼は光沢のある緑色となり美しいトンボです。メスが単独で川底に生殖弁を突き立てて産卵します。幼虫は流れの砂泥底に潜って生活し、5年後に羽化します。

07いきもの調査では、葛西用水周辺で見られました。



トンボ目 ヤンマ科

ギンヤンマ

Anax parthenope julius

分布 日本全土

見られる時期 5～11月

特徴 体長70mm。ヤンマの仲間では代表的なトンボです。胸部は明るい緑色、オスの腹は美しい青色をしています。成熟したオスは池や水路で縄張りをつくり、パトロール飛行をし、素早く飛んだり、空中でとまってホバリングしたりします。産卵は、オスとメスが連結して水生植物の茎に卵を生みます。オスの第2, 3腹節と腹部第3節下縁が銀白色なのでこの名があります。

07いきもの調査では、しらこばと運動公園周辺・大吉調節池・鷲後小学校周辺等で見られました。



トンボ目 トンボ科

シオカラトンボ

Orthetrum albistylum speciosum

分布 日本全土

見られる時期 4～10月

特徴 体長50～55mm。みんなが親しんできたトンボです。羽化したばかりの時は黄色、成熟するとオスは黒化し、白い粉をふいて「シオカラトンボ」になります。一方メスは黄緑っぽくなり、「ムギワラトンボ」と呼ばれています。水田や水路、池、ゆるやかな流れの川岸などに生息します。メスは水面を連続的に打つようにして産卵（打水産卵）します。

07いきもの調査では、平方・新方川周辺・元荒川周辺等で見られました。

オス

メス



トンボ目 トンボ科

アキアカネ

Sympetrum frequens

分布 九州以北

見られる時期 6～11月

特徴 体長40mm。最も代表的な赤トンボです。羽化するのは6月頃で、夏のうちはまだ成熟していないので、地味な色をしています。秋になるとオスは成熟して腹部が赤くなります。暑い夏の間は山中に入り、涼しい高原で過ごし、秋になると再び水辺へ戻り、オスとメスが連結して打水産卵をします。

07いきもの調査では、大吉調節池・新方川周辺・元荒川周辺等で見られました。



トンボ目 トンボ科

ナツアカネ

Sympetrum darwinianum

分布 九州以北

見られる時期 6～11月

特徴 体長37～40mm(翅の長さ55～60mm)アキアカネとともにアカトンボの代表です。アキアカネのように群れになって移動しないので、あまり目立たませんが、秋になって成熟するとオスは複眼や胸部、腹部も真っ赤になります。メスも腹部・背面があざやかに赤くなります。産卵は普通、オス・メスが連結して池の近くの草などの上で、飛びながら卵を振り落とす打空産卵を行います。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・流通団地等で見られました。



トンボ目 トンボ科

ノシメトンボ

Sympetrum infuscatum

分布 九州以北

見られる時期 6～10月

特徴 体長45mm。翅の先が黒いアカトンボの間では一番大きなトンボです。平地や丘陵地の池や沼に生息します。夏の間は森や林の中で暮らし、小枝の先などにとまっている姿をよく見かけます。秋になると水辺に戻り、オスとメスが連結して飛びながら、メスの腹先で水を打つようにして卵を生みます。

07いきもの調査では、大吉調節池・梅林公園・平方公園周辺・久伊豆神社周辺等で見られました。



トンボ目 トンボ科

コシアキトンボ

Pseudothemis zonata

分布 本州以南

見られる時期 6～9月

特徴 体長40～45mm。黒色の体で腰のあたりに白く帯がついていて、目立ちます。未熟なものはオス、メスともに腰の色はクリーム色、成熟するとオスは白、メスは黄色に黒い線が入り区別ができます。少し水が汚れていても生息できるトンボで、どちらかという木陰のある環境を好みます。メスは水面の浮遊物に打水産卵を繰り返します。

07いきもの調査では、平方公園周辺・流通団地・総合体育館周辺等で見られました。



カマキリ目 カマキリ科

ハラビロカマキリ

Hierodula patellifera

分布 本州から九州

見られる時期 8~11月

特徴 体長50~70mm。体は中型で名前の通り腹部の幅が広くてずんぐりしています。前翅のなかほどに白い紋があるので、他のカマキリと区別ができます。緑色をしています。個体によっては、茶色のものもあります。森林性のカマキリで、主に樹上で生活し、セミなどを捕らえます。卵のうは円筒形に近く卵で越冬します。

07いきもの調査では、埼玉鴨場周辺・越谷保健所周辺・蒲生小学校周辺等で見られました。



カマキリ目 カマキリ科

コカマキリ

Statilia maculata

分布 本州以南

見られる時期 8~11月

特徴 体長45~65mm。小形のカマキリで、畑や草地など身近な場所によく見つかります。体は茶色かやや薄い灰褐色が普通ですが、まれに緑色したものもあります。前脚の内側に白黒の斑紋があるのが特徴です。生け垣や花壇の下草の間を生活圏とし、地上性の昆虫や茂みを隠れ場所としているガなどを食べています。卵のうは細長く、卵で越冬します。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・埼玉鴨場周辺・北越谷1丁目・七左町8丁目で見られました。



カマキリ目 カマキリ科

オオカマキリ

Tenodera aridifolia

分布 本州以南

見られる時期 8~11月

特徴 体長70~90mm。カマキリの中でも大型で、メスは特に大きく太っていて、緑色で薄茶色を帯びることもあります。生け垣、公園の樹木などで見かけ、冬には枝などに球形の“殻”のような卵のうをつくりその中に多数の卵を産みます。肉食性で、低い草や木の茎、葉に止まっていて、やってくる獲物を捕まえます。卵で越冬し春に孵化します。

07いきもの調査では、平方・袋山・大吉調節池周辺・相模町・大間野町等で見られました。



バッタ目 キリギリス科

ウマオイ

Hexacentrus japonicus

分布 本州以南

見られる時期 8～11月

特徴 体長28～36mm。淡い緑色の体で、頭から胸へ背中側に濃い茶色の太いすじがあります。8月半ばから畑や草原、道端に多くいます。高い声で鳴き、鳴き声から「スイッチョ」と呼ばれ、馬追いの掛け声に似ているのでついた名前です。体の割には翅が大きく、よく飛びます。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺で見られました。



バッタ目 キリギリス科

クビキリギス

Euconocephalus thunbergi

分布 本州（関東地方）以南

見られる時期 10～翌年6月

特徴 体長57～65mm。体は緑色や薄茶色、やや赤みがかったものもいます。頭の先が突き出した形で、水田の土手や草原、川原の堤防などに生息しています。5月頃の蒸し暑い夜、草の上で「ジーン」と鳴き続けます。成虫で越冬し、落葉の間にじっとして春から鳴き出します。橙色のあごでかみつく力が強く、無理に引き離すと首がちぎれることがあることから「クビキリ」ギスといわれます。

07いきもの調査では、平方・小曾川・袋山・梅林公園周辺・大吉調節池周辺・蒲生で見られました。



バッタ目 コオロギ科

エンマコオロギ

Teleogryllus emma

分布 日本全土

見られる時期 8～11月

特徴 体長20～23mm。全体につやのある黒色、頭部も丸くつやがあります。わが国で最も大きなコオロギの一種で、畑や草原の地面にくぼみを掘り入っていますが夕方から出てきます。8月頃から「コロコロリー」とたいへん美しい声で鳴きますが、産卵管のあるメスは鳴きません。跳ぶ力が強く、雑食性で草原や畑に生息しています。卵で越冬します。

07いきもの調査では、埼玉鴨場周辺・大吉調節池・東越谷等で見られました。



バッタ目 コオロギ科

アオマツムシ

Trujalia hibinonis

分布 本州（東京、名古屋、神奈川、神戸）

見られる時期 8～9月

特徴 体長15～24mm。中国原産の帰化昆虫で、一見マツムシに体型が似ていますが、色が鮮やかな緑なのでアオマツムシと名づけられました。しかし鳴き方は全然違って「リーリー」と鳴きます。サクラ・モモ・ウメなどの葉の広い木に生息し、アブラムシを好んで食べます。卵を枝の組織内に産み、卵で越冬し初夏に孵化し、樹上ですごします。

07いきもの調査では、文教大学・千間台西で見られました。



バッタ目 ケラ科

ケラ

Gryllotalpa orientalis

分布 日本全土

見られる時期 一年中（土の中）

特徴 体長30mm。茶褐色の体、ピロードのような表面で全身に微毛があり、水の上を上手に泳ぐことができます。土の中にトンネルを掘って生息し、前足は短くて平たく、掘るのに都合のよいモグラのような形になっています。春から秋の夕暮れ土の中で雄の「ジー」という鳴き声、昔の人は“ミミズが鳴く”と考えていました。雑食性で農作物に害を与えることもあります。

07いきもの調査では、七左町で見られました。



バッタ目 イナゴ科

コバネイナゴ

Oxya yezoensis

分布 本州以南

見られる時期 8～11月

特徴 体長28～40mm。背面と前翅臀部は淡褐色、側面は緑色です。湿った草地や田んぼにすみ、イネを食べる害虫です。農薬を使用した駆除で一時激減しましたが、最近農薬の使用規制で増えています。オスとメスとではメスの方が大きく、成虫は8月頃から見られます。食用にされるイナゴの佃煮はこのイナゴです。

07いきもの調査では、平方公園周辺・文教大学周辺・増林・宮本小学校周辺で見られました。



バッタ目 オンブバッタ科

オンブバッタ

Atractomorpha lata

分布 日本全土

見られる時期 7～10月

特徴 体長オス25mm、メス42mm。草原や畑の周りでみられ、体は緑色で、ときには薄茶色のものもあります。頭部先端のどがつた体をしています。大きなメスに小さなオスがしがみついていることが多くこの名前がつけられました。他のバッタはススキやイネなど、細い葉が好きですが、このバッタは、シソやコマツナなどの葉の広い草を好んで食べます。

07いきもの調査では、平方・千間台西・北陽中学校北側・綾瀬川で見られました。



バッタ目 バッタ科

ショウリヨウバッタ

Acrida cinerea

分布 本州以南

見られる時期 7月～10月

特徴 体長オス45mm、メス75mm。オスとメスの大きさが著しく違って、体は緑色や薄茶色のものもあります。日本最大のバッタで後脚は非常に長く、乾燥した草原や荒れ地を好みエノコログサやメヒシバ等が生えた草深いところに生息します。オスが飛ぶときに「キチキチ」と翅を打合せて音を出すので、「キチキチバッタ」という別名があります。

07いきもの調査では、平方公園周辺・向畑・大吉調節池周辺・健康福祉村周辺で見られました。



ハサミムシ目 ハサミムシ科

ハサミムシ

Anisolabis maritima

分布 日本全土

見られる時期 春から秋

特徴 体長20～35mm。体は光沢のある黒色で、脚は茶色をしています。腹部の先端にハサミがついていて、敵から身を守るためにも使いますが、一般的には餌をつかむ時に使います。草地・畑・人家の庭などに生息し、昼間は石の下などに隠れていて、夜活動します。

07いきもの調査では、袋山で見られました。



カメムシ目 アメンボ科

アメンボ

Gerris paludum

分布 日本全土

見られる時期 3~11月

特徴 体長11~16mm。体は細長く黒色で腹面は銀白色です。池沼・河川や水たまりなど、流れのゆるやかな水面なら、どこでも見かけられます。水面の表面張力を利用して浮かび、餌となる昆虫が落ちたときに起こる波を感じて近づき、針のような口で体液を吸います。卵は水面に浮く植物などに産み、成虫は晩秋に陸に上がって冬を越します。

07いきもの調査では、平方公園・総合体育館周辺・大吉調節池等で見られました。



カメムシ目 サシガメ科

ヨコズナサシガメ

Agriosphodrus dohrni

分布 本州・四国・九州

見られる時期 4~10月

特徴 体長16~24mm。終齢幼虫は腹部と脚の基部が赤色で美しく、ソメイヨシノ・エノキなどの大木の樹幹の地上1mくらいのくぼみに群がって越冬します。4~5月羽化して梢に上がります。コケガの幼虫などを捕食し6月ころ樹幹のくぼみに卵塊を産み付けます。

07いきもの調査では、向畑・梅林公園周辺・健康福祉村等で見られました。



カメムシ目 セミ科

アブラゼミ

Graptopsaltria nigrofuscata

分布 日本全土

見られる時期 7~9月

特徴 体長36~38mm(翅の端まで60mm)。油にぬれたような翅の茶色が特徴です。「ジージー」と濁った声で鳴き続けます。木の幹や電柱などに産卵し、翌年の6月頃孵化します。幼虫は地中に入り木の根から樹液を吸い、一年毎脱皮を繰り返し成長し、産卵して5~6年で終齢となり地上に出て羽化します。梨の樹液や果汁を吸うという悪さもします。

07いきもの調査では、赤山町・御殿町・相模町・健康福祉村等で見られました。



カメムシ目 セミ科

ニイニゼミ

Platypleura kaempferi

分布 日本全土

見られる時期 6~9月

特徴 体長20~24mm(翅の端まで35mm)。翅は灰色のしまでおおわれ保護色となり目立ちません。市街地で見られるセミの中で最も小さく、サクラ・エノキなどに集まります。梅雨明けの頃、「チーチー」と尻上がりのかん高い声で鳴き、脱皮殻に泥がついています。最近市街地では少なくなっています。卵は1~2ヶ月で孵化し、幼虫は4年くらいで地上に出て羽化します。「閑さや岩にしみ入る蝉の声」の芭蕉の句のセミだろうといわれています。

07いきもの調査では、北越谷第5公園・久伊豆神社等で見られました。



カメムシ目 セミ科

クマゼミ

Cryptotympana facialis

分布 関東以西

見られる時期 7~9月

特徴 体長40~48mm(翅の端まで60~65mm)。全体が黒い大型のセミで、翅はミンミンゼミのように透明ですが上半分の脈には緑色が混じり、体には褐色の細かい毛が生えています。午前中だけシャーシャーという機械のような大きな声で鳴きます。西日本に多く生息しますが、近年関東地方でも目撃情報が増えつつあり、ヒートアイランド現象や温暖化との関係係が取りざたされています。

07いきもの調査では北川崎・大竹・西方・大成町等で見られました。



カメムシ目 セミ科

ヒグラシ

Tanna japonensis

分布 北海道南部~奄美大島

見られる時期 7~9月

特徴 体長21~38mm(翅の端まで45~62mm)。透明な翅に緑と薄茶色の模様が美しい中型のセミです。「カナカナ」と鳴くので別名「カナカナゼミ」と呼ばれています。杉などの混じる薄暗い林で見られ、明け方や夕方の気温の低い時間帯に鳴きます。市街地ではめっきり少なくなりました。

07いきもの調査では、桜井南小学校周辺・弥栄小学校周辺・久伊豆神社周辺等で見られました。



カメムシ目 セミ科

ツクツクボウシ

Meimuna opalifera

分布 日本全土

見られる時期 8~9月

特徴 体長29~31mm(翅の端まで43~46mm)。やや小型のスマートなセミで、黒地に緑の模様があり翅は透明です。「オーシンツクツク」と鳴き、主に夏の終わりから9月のなかば頃まで鳴きます。やや薄暗い環境を好み緑の多い住宅地で見つかりますが、近づく素早く逃げます。卵は1年で孵化して土に潜り比較的成長の早いセミです。

07いきもの調査では、大沢・西方等で見られました。



カメムシ目 セミ科

ミンミンゼミ

Oncotympana maculaticollis

分布 北海道南部から九州

見られる時期 7~8月

特徴 体長33~36mm(翅の端まで62mm)。頭胸部とも黒と緑のまだら模様で翅は透明です。「ミンミン」と高く大きな声で鳴きます。鳴き声で見分けますが、鳴くのはオスだけです。鳴かないメスは見つけるのがむずかしいセミです。一ヶ所ですと鳴かず、一鳴きするとすぐ別の場所へ飛んで行ってしまいます。

07いきもの調査では、梅林公園周辺・南越谷等で見られました。



コウチュウ目 クワガタムシ科

コクワガタ

Macrodorcas rectus

分布 日本全土

見られる時期 6~9月

特徴 体長20~45mm。体色は黒褐色から暗褐色で、カブトムシとともに子ども達の人気を二分しています。オスは立派な角(大アゴ)をもっています。雑木林に多く見られ、クヌギ・コナラなどの樹液を吸っています。幼虫はそれらの朽木で育ち成虫で越冬します。夜行性なので、昼間は木のくぼみや根元にひそんでいます。また、街灯にも飛んできます。

07いきもの調査では、平方・大泊・弥栄町・長島・七左町等で見られました。



コウチュウ目 クワガタムシ科

ノコギリクワガタ

Prosopocoilus inclinator

分布 日本全土

見られる時期 6~9月

特徴 体長オス40~50mm、メス25~30mm。体の色は黒から茶色までいて、特にオスのアゴは大きく曲がっています。アゴの内側の小さな突起を歯とよびますが、のこぎりのように沢山ついています。クヌギやナラなどの樹液に集まり、街灯に飛来することもあります。幼虫は朽木を食べて育ち、成虫になるまで2年以上かかります。

07いきもの調査では、小曾川・健康福祉村で見られました。



コウチュウ目 コガネムシ科

カブトムシ

Allomyrina dichotomus

分布 本州以南

見られる時期 6月~8月

特徴 体長30~55mm。大型の甲虫で、オスの頭部についた立派な角は子ども達にとっては人気の的です。メスは光沢がなく短い軟毛が生えています。幼虫は腐った葉を食べて育ち、その年に2回脱皮をして幼虫のまま越冬し、翌年の7月頃体長10mmほどになると羽化します。成虫は夜行性で、クヌギやナラの樹液を吸って生きています。

07いきもの調査では、平方・小曾川・西新井・健康福祉村等で見られました。



コウチュウ目 コガネムシ科

カナブン

Rhomborrhina japonica

分布 本州から屋久島

見られる時期 7月~8月

特徴 体長23~29mm。体は光沢のある茶色が普通ですが、緑色がかった個体もいます。すき間に潜り込む力が強く、頭は四角形でそりかえっています。丘陵や山地の雑木林に多く見られ、クヌギなどの樹液に集まるほか果物などにつくこともあります。幼虫は朽ち木の中の腐植質を食べて育ちます。

07いきもの調査では、平方・北越谷・七左町・蒲生・西方等で見られました。



コウチュウ目 タマムシ科

タマムシ (ヤマトタマムシ)

Chrysochroa fulgissima

分布 本州から屋久島

見られる時期 6~8月

特徴 体長30~41mm。金属光沢がある、大変きれいな体をしている夏の虫です。成虫はサクラ・ケヤキ・エノキなどの葉を食べ、幼虫はそれらの内部を食べて羽化まで約3年かかります。昔の人は着物が増えるように桐の小箱にタマムシを入れてタンスの中に入れ縁起を担ぎました。

07いきもの調査では、平方で見られました。



コウチュウ目 テントウムシ科

ナナホシテントウ

Coccinella septempunctata

分布 日本全土

見られる時期 3~11月

特徴 体長8mm。草原など日当たりのよい場所に多く、オレンジの体に黒い七つの星があります。テントウムシの仲間にはナスやトマトの葉を食い荒らす種類もありますが、ナナホシテントウムシは、幼虫の時も成虫になっても肉食で、草花や農作物につく害虫のアブラムシを食べる益虫です。成虫で越冬し暖かい地方では冬でも活動し逆に盛夏は草の根元で休んでいます。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・総合体育館周辺・健康福祉村等で見られました。



コウチュウ目 テントウムシ科

ナミテントウ (テントウムシ)

Harmonia axyridis

分布 日本全土

見られる時期 3~11月

特徴 体長8mm。背の色や模様はいろいろに変化し、ホシが沢山あるものからないもの、黒いものや赤味のあるものと、変化にとみます。ナミテントウムシは樹皮下など暖かい所で集団で越冬し、幼虫のときも成虫になっても草花や農作物につくアブラムシを食べる益虫です。捕まえると嫌な臭いのする黄色い汁を出します。

07いきもの調査では、大杉・大吉調節池周辺・東越谷・相模町等で見られました。



コウチュウ目 カミキリムシ科

ゴマダラカミキリ

Anoplophora malasiaca

分布 日本全土

見られる時期 5~8月

特徴 体長25~35mm。体は光沢のある黒で青味がかり触角は白黒のまだらで上翅に白い点紋が散在します。オスの触角は体長の2倍ほどあって、捕まえると翅の付け根の胸のところで、キキキと音をたてます。クワ、イチジク、ミカン類などに多く、成虫は生木の皮を食べ昼間も活動し、幼虫はそれらの材を食べて成長する害虫です。街灯にも集まってきます。

07いきもの調査では、平方自然観察林・大吉調節池周辺・健康福祉村周辺等で見られました。



ハチ目 スズメバチ科

オオスズメバチ

Vespa mandarina japonica

分布 日本全土

見られる時期 4月～10月

特徴 体長25～40mm。越冬した女王は4月から活動を開始しますが働きバチが誕生してクヌギなどの樹液で多く姿を見かけるのは6月以降です。秋には大きな集団となり、土中などに大型の巣ができます。巣の近くは大変危険です。日本のハチの中で最も大きく、強い毒性を持っています。刺されれば命にかかわることがあるので、不用意に近づかないように注意が必要です。

07いきもの調査では、小曽川・宮本町・東越谷・相模町・西方等で見られました。



ハチ目 ミツバチ科

セイヨウオオマルハナバチ

Bombus terrestris

見られる時期 4～10月

特徴 体長10～25mm。ヨーロッパに広く分布するマルハナバチの仲間で、特徴はおしりの先の方が白いことです。農作物を受粉させるために日本でも大量に輸入されています。しかし、花の横に穴を開け花粉を運ばないで蜜だけを盗む盗蜜行動が頻繁にみうけられ、野生植物の受粉を妨げている可能性が指摘されています。

07いきもの調査では、恩間新田・平方・増林・大成町等で見られました。



ハチ目 ミツバチ科

ミツバチ

Apis mellifera

分布 日本全土

見られる時期 3～11月

特徴 体長13mm。ミツバチには女王バチ、働きバチ、雄バチの三つの階級があり、巣の外に出てくるのは働きバチだけです。花粉を集めるために後脚は扁平で、周囲に毛が生えていて中の花粉を包み込むようになっています。蜜は飲み込んで運びます。ニホンミツバチは全体的にはずんぐりして、腹部に白帯部が少ない為腹部が全体的に黒っぽく見えます。

07いきもの調査では、キャンベルタウン公園・越谷市役所周辺・健康福祉村等で見られました。



チョウ目 アゲハチョウ科

アオスジアゲハ

Grphium sarpedon nipponum

分布 本州(秋田・岩手)以南

見られる時期 4～9月

特徴 前翅長32～45mm。アゲハの仲間としてはやや小ぶり、成虫は年3～4回発生します。市街地でも多く見られ、素早く飛んでヤブカラシの花などの蜜を吸いに来ます。幼虫はクスノキ・タブノキ・ヤブニツケイなどの葉を食べ、蛹で越冬します。幼虫の食草であるクスノキが街路樹などで増加しているのでそれとともに増加しています。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



チョウ目 アゲハチョウ科

キアゲハ

Papilio machaon hippocrates

分布 日本全土

見られる時期 4～10月

特徴 前翅長36～70mm。ナミアゲハと似た模様ですが、黄色がより濃くきれいな青い斑があります。セリ科のセリ・ニンジン・ミツバ・パセリなどの葉を食べ、ニンジン畑には多く見られます。

07いきもの調査では、平方・赤山町・出羽公園周辺・新川町等で見られました。



チョウ目 アゲハチョウ科

アゲハ (ナミアゲハ)

Papilio xuthus

分布 日本全土

見られる時期 3～10月

特徴 前翅長35～60mm。モンシロチョウとともに春の到来を告げるチョウです。成虫は年4回くらい発生し、市街地でも見られます。春季はツツジ類、夏以降はアザミ類・ヤブカラシ・ヒガンバナなどの花の蜜を吸います。幼虫はミカン類の葉を食べます。最近これらの木を植える家庭が増えたため数が増えています。幼虫はクロアゲハに似ていますが、刺激したときに出す角がアゲハは黄色であるのに対し、クロアゲハは赤色の違いがあります。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



チョウ目 アゲハチョウ科

クロアゲハ

Papilio protenor

分布 本州（秋田・岩手）以南

見られる時期 4～10月

特徴 前翅長45～70mm。まっ黒で後翅の裏側に沿って赤い斑紋があります。平地から山地にかけて生息し、成虫は年3回程度発生し、公園や緑地にある樹林やその周辺の日だまりで見られます。主にツツジ類・オニユリなどの花の蜜を吸います。幼虫はアゲハと同様にミカン類の葉をよく食べます。蛹で越冬します。

07いきもの調査では、大竹・北越谷・越谷市役所周辺で見られました。



チョウ目 アゲハチョウ科

ナガサキアゲハ

Papilio memnon thunbergii

分布 関西以南

見られる時期 4～10月

特徴 前翅長60～80mm。ウンシュウミカンやユズなどの葉が食草です。日本産のアゲハチョウはみな尾状突起がありますが、ナガサキアゲハにはありません。長崎で発見したのでこの名があるという南方系の蝶で、温暖化の影響がミカン科の樹とともに生育域を広げています。

07いきもの調査では、大林・埼玉鴨場周辺・健康福祉村等で見られました。



チョウ目 シロチョウ科

モンキチョウ

Colias erate poliglyps

分布 日本全土

見られる時期 3～10月

特徴 前翅長22～23mm。平地から山地にかけて生息しています。成虫は年3～5回発生し、河川敷や草原・人家周辺などの開けた環境に見られます。オスはすべて黄色ですが、メスの中には白色と黄色の2種類がいます。幼虫はミヤコグサ、シロツメクサなどのマメ科の植物を食べます。そのためダイズ・アズキなどを食害することがあります。年に5～6回発生し蛹で越冬します。

07いきもの調査では梅林公園周辺・南荻島・増林・瓦首根等で見られました。



チョウ目 シロチョウ科

ツマキチョウ

Anthocharis scolymus

分布 屋久島以北

見られる時期 4～6月

特徴 前翅長20～30mm。春先だけ成虫が一回発生するチョウのひとつで林縁や耕作地周辺に多く、最近では市街地でも見ることができます。オスはとがった翅の先がオレンジ色をして、メスは白い色をしています。幼虫はタネツケバナ・ナズナなどアブラ科の植物の花や実を食べます。蛹で越冬します。

07いきもの調査では、梅林公園周辺・総合体育館周辺・健康福祉村等で見られました。



チョウ目 シロチョウ科

モンシロチョウ

Pieris rapae crucivora

分布 日本全土

見られる時期 3～11月

特徴 前翅長20～30mm。もっとも各地でよく見られ、身近なチョウです。主として日当たりのよい耕作地周辺に見られます。幼虫は、青虫と呼ばれ、キャベツや大根などのアブラナ科植物を食べます。翅の黒いスジがあまり目立たないのがモンシロチョウの特徴です。年5～6回発生します。前翅に左右2対の黒い紋があるのがメス、オスは1対で下のほうの紋は不明瞭です。

07いきもの調査では、市内各地で多数見られました。



チョウ目 シロチョウ科

スジグロシロチョウ

Pieris melete

分布 日本全土

見られる時期 4～10月

特徴 前翅長24～35mm。モンシロチョウとよく似ていて区別がむずかしいのですが、よく見るとひとまわり大きく、翅に黒いすじ模様が放射状に走っています。幼虫は畑の野菜ではなく、同じアブラナ科の野草のイヌガラシ・タネツケバナなどを食べます。年4～5回発生し蛹で越冬し、モンシロチョウより遅れて発生します。

07いきもの調査では、平方・埼玉農場周辺・花田・健康福祉村等で見られました。



チョウ目 シジミチョウ科

ミドリシジミ

Neozephyrus japonicus

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT)

分布 北海道から九州まで

見られる時期 6~8月

特徴 前翅長37~38mm。オスの翅表は濃緑色に輝き黒い縁取り、雌は地色暗褐色で斑を持つものもあります。裏面はオスメス同じで茶褐色です。埼玉県の「県の蝶」に指定されています。幼虫の食草がハンノキであることから田んぼの周辺や湿地にあるハンノキ林や山地のミヤマハンノキ・ヤマハンノキに生息します。

07いきもの調査では、平方・越谷西養護学校西側で見られました。



チョウ目 シジミチョウ科

ベニシジミ

Lycaena phlaeas daimio

分布 九州以北

見られる時期 3~11月

特徴 前翅長13~19mm。前翅の表は名前のとおり紅色で黒い斑点があり縁は黒色です。平地から山地まで広い範囲に生息します。成虫は地上低くすばやく飛び、タンポポやヒメジョオンなどの花の蜜を吸います。幼虫はタデ科のスイバやギシキシなどを食べ、幼虫で越冬します。

07いきもの調査では、平方・梅林公園周辺・増林・健康福祉村等で見られました。



チョウ目 シジミチョウ科

ヤマトシジミ

Pseudozizeeria maha

分布 本州以北

見られる時期 4~11月

特徴 前翅長9~16mm。モンシロチョウより小さく、色彩は地味ですが、よく観察するとオスは水色、メスはこげ茶色したかわいいチョウです。成虫は人家周辺でも見られカタバミの花の蜜を吸い、幼虫は葉、茎や実を食べて大きくなります。食草のカタバミは高温や乾燥に強く市街地にも多く見られますが、このチョウは小さいのであまり目立ちません。幼虫で越冬します。

07いきもの調査では、恩間新田・埼玉梅場周辺・増林・西方等で見られました。



チョウ目 シジミチョウ科

ルリシジミ

Celastrina argiolus ladonides

分布 日本全土

見られる時期 4~11月

特徴 モンシロチョウの約半分の大きさでオスの翅の表面は全面青紫色ですが、メスは翅の周囲が黒く縁取られています。この小さなチョウは、春もっとも早く現れます。鮮やかな翅のルリ色は春を呼ぶ色に見えます。ルリシジミの名は、この翅の色に由来します。成虫は年に4~5回発生し、幼虫はバラ科・マメ科・ミカン科などの花やつぼみを食べます。蛹で越冬します。

07いきもの調査では、しらこばと運動公園・西新井・大吉調節池等で見られました。



チョウ目 タテハチョウ科

ツマグロヒョウモン

Argyreus hyperbius

分布 関東南部以南

見られる時期 5～10月

特徴 前翅長27～36mm。もともと南方系で関東地方に定着したのは最近です。幼虫はスミレ類のパンジーやピオラなどの園芸品を食し、増加しました。若い幼虫は葉裏にいますが、成長すると葉から下り歩くので成虫をみかけたら、近くのスミレ類をさがすと幼虫がいるかも知れません。ヒョウモンチョウ類はヒョウの毛並みに似た斑紋をもつ一群でそこにメスの翅の端黒(つまぐる)があるのが名の由来ですが、オスにはありません。

07いきもの調査では、市内各地で見られました。



チョウ目 タテハチョウ科

キタテハ

Polygonia c-aureum

分布 北海道西南部から種子島

見られる時期 6～10月(成虫越冬)

特徴 前翅長22～34mm。タテハチョウの仲間ではよく見られ、翅のヘリがギザギザで、閉じると地味でガのように見えます。平地から低山地の樹林周辺や河川付近の荒れ地などで多く見られ、特に市街地でも荒れ地は幼虫の食草であるクワ科のカナムグラが多く、彼らの天下となっています。年4回発生します。成虫で越冬するので、早春にも見ることができます。

07いきもの調査では、梅林公園周辺・南荻島・出羽公園周辺等で見られました。



チョウ目 タテハチョウ科

ヒメアカタテハ

Cynthia cardui

分布 日本全土

見られる時期 4～10月

特徴 前翅長50～55mm。河川敷や草原の明るい環境を好む傾向があります。後翅にオレンジ色の部分が多く見られます。幼虫はハハコグサやヨモギの葉を食べます。成虫で越冬といわれていましたが幼虫でも越冬します。海外では集団で移住することで知られています。

07いきもの調査では、大吉調節池・健康福祉村・七左町等で見られました。



チョウ目 タテハチョウ科

コムラサキ

Apatura metis substituta

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT)

分布 九州以北

見られる時期 5～8月

特徴 オオムラサキより小ぶりで、オスの翅には光の角度によって青紫に輝く鱗粉があり、たいへん美しい蝶です。メスにはありません。幼虫がエノキを食べるオオムラサキに対し、コムラサキの幼虫はヤナギを食べます。低地から山地にかけて河川に沿ったヤナギの生えている場所に多く生息しています。年2回発生し、幼虫は樹木の樹皮で越冬します。

07いきもの調査では、平方公園・赤山町・健康福祉村等で見られました。



チョウ目 タテハチョウ科

ゴマダラチョウ

Hestina persimilis japonica

分布 北海道西南部～九州

見られる時期 5～10月

特徴 前翅長35～50mm。国蝶オオムラサキに近い仲間で、同じ食樹なため、同地域に見られますが、市内では本種のみが生息しています。翅の色は白と黒の単純な色彩です。幼虫はエノキなどの葉を食べ、12月ごろになると食樹の根際までおり、付近の落ち葉の下に潜り越冬し4月頃になると枝先まで上ってきます。

07いきもの調査では、北越谷・出羽公園・健康福祉村周辺で見られました。



チョウ目 セセリチョウ科

イチモンジセセリ

Parnaro guttata

分布 北海道南部以南

見られる時期 4～10月

特徴 前翅長15～21mm。幼虫はイネ、ススキ、エノコログサなどイネ科の植物を食べイネの害虫として有名です。イネの葉を数枚つづり合わせ、その中に入って食べるので、「ツトムシ」と呼ばれています。初夏から盛夏に見られますが、8月末頃から急激に増加し、花壇などに群がり吸蜜します。幼虫で越冬します。

07いきもの調査では、平方公園・梅林公園周辺・西新井等で見られました。



チョウ目 スズメガ科

オオスカシバ

Cephonodes hylas

分布 本州以南

見られる時期 6～9月

特徴 前翅長26～31mm。成虫の体は薄い緑色、翅は透明で日中に活動します。高速で飛ぶ姿はハチのように見えます。幼虫はクチナシの葉の裏側や若い茎にいることが多いので、糞が散らばっているときに、下から見て探すとみつけられます。お尻に1本の突起(尾角・スズメガ類の幼虫の特徴)があり、ほぼ緑色のものと模様のあるものがあり、主に夜間に摂食します。

07いきもの調査では、北越谷・健康福祉村・蒲生で見られました。



チョウ目 ドクガ科

チャドクガ

Euproctis pseudoconspersa

分布 本州から九州

見られる時期 6～9月

特徴 前翅長12～18mm。ツバキ・サザンカ・チャノキ等につく危険な毒毛虫なので不用意に近づかないよう注意が必要です。幼虫の細かい毒針毛が風に運ばれかぶれることがあります。若齢幼虫期は集団をつくり、樹の下には多くの糞が散らばります。卵から成虫まで毒をもつので、刺されたら患部をこすらずに、流水で洗い流し、病院へかかったほうが無難です。

07いきもの調査では、健康福祉村で見られました。



そ の 他 の 生 物

その他の生物として、哺乳類、爬虫類、両生類、魚類、クモ類、甲殻類、貝類の中から、越谷市内で確認例の多い19目33科48種を以下の分類、順序で掲載しました。

哺乳類

- モグラ目 モグラ科
- コウモリ目 ヒナコウモリ科
- ネコ目 イヌ科、ジャコウネコ科

爬虫類

- カメ目 イシガメ科、ヌマガメ科
- トカゲ目 ナミヘビ科、トカゲ科、カナヘビ科、ヤモリ科

両生類

- カエル目 アマガエル科、アカガエル科

魚類

- ウナギ目 ウナギ科
- サケ目 アユ科
- コイ目 コイ科、ドジョウ科
- ナマズ目 ナマズ科
- ダツ目 メダカ科
- カダヤシ目 カダヤシ科

- スズキ目 ボラ科、タイワンドジョウ科、サンフィッシュ科、ハゼ科

クモ類

- クモ目 コガネグモ科

甲殻類

- 十脚目 ヌマエビ科、テナガエビ科、ザリガニ科、イワガニ科
- 背甲目 カブトエビ科
- 無甲目 ホウネンエビ科

貝類

- ニナ目 タニシ科、カワニナ科
- モノアラガイ目 モノアラガイ科



哺乳類 モグラ目 モグラ科

アズマモグラ

Mogera minor

体の大きさ 12~16cm 尾長 1.5~2.2cm

体重 48~130g 体の色 褐色

特徴 低地の草原から山地の森林にまで生息しますが、湿潤で土壌の深い場所で生息密度が高いようです。地下生活に最も適応した動物で、発達した強固で大きな手がついていて、効率よく土を掘ります。昆虫類やミミズ類・ジムカデ類・ヒル類・植物種子などを食べます。春から初夏に1回繁殖し、2~6頭の子を産みます。

07いきもの調査では、平方自然観察林・南荻島・健康福祉村等で見られました。



哺乳類 コウモリ目 ヒナコウモリ科

アブラコウモリ

Pipistrellus abramus

体の大きさ 4~6cm 尾長 3~5cm

体重 5~10g 体の色 黒褐色、暗灰褐色系の体毛

特徴 家屋をすみかとし、数頭から多いものになると100頭が集団をつくります。飛翔している昆虫類を捕食します。山間部や森林内には生息しないので、私たちが最も目にするコウモリです。気温が15以下になると冬眠に入ります。初夏に1~3匹の子を産み、約30日で親と同じ大きさになります。

07いきもの調査では、千間台西・袋山・増森等で見られました。



哺乳類 ネコ目 イヌ科

ホンダタヌキ

Nyctereutes procyonoides viverrinus

埼玉県レッドデータ地帯別危惧(RT)

体の大きさ 50~60cm 尾長 15cm

体重 3~5kg 体の色 黄褐色に黒い刺毛、肢体と目のまわりは黒色

特徴 耳は小さく丸い形で、太く短い尾をもち、ずんぐりと丸い体型です。夜行性で藪の中や屋敷林、湿地などに生息します。雑食性でネズミ・昆虫・果実類などを採食し、一定の場所に糞をする“ため糞”の習性をもちます。市街地が広がるにつれて、すみ場所が限られ数が減っています。

07いきもの調査では、船渡・埼玉鴨場周辺・花田苑等で見られました。



哺乳類 ネコ目 ジャコウネコ科

ハクビシン

Paguma larvata

体の大きさ 50~70cm 尾長 40cm

体重 3~5kg 体の色 灰褐色か黒褐色で、鼻すじに白線

特徴 夜行性で平地の市街地から山地に生息します。雑食性で昆虫や爬虫類・残飯も食べますが、特に果実類を好みます。哺乳動物である可能性が高く、分布域を拡大しています。春から秋に2~4頭を産みます。市街地では人間の生活に依存し、人家の天井裏や縁の下で産みます。

07いきもの調査では、恩間・北越谷・東越谷等で見られました。



爬虫類 カメ目 イシガメ科

クサガメ

Chinemys reevesii

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT2)

分布 本州から九州 体の大きさ 12~25cm

特徴 流れのゆるやかな河川や池で見られるカメです。甲の周縁はなめらかで、背甲には3本の発達した隆条をもちます。足の付け根や腋の下から臭いを出しますのでこの名がつけました。魚・カエル・水生昆虫・水草等を食べます。6~7月頃に一度に10個程度の卵を産みます。産卵回数は年に1~3回です。

07いきもの調査では、平方・大吉調節池周辺等で見られました。



爬虫類 カメ目 ヌマガメ科

ミシシッピーアカミガメ

Trachemys scripta elegans

原産 ミシシッピー川流域 体の大きさ 12~20cm

特徴 川や池・湖などに生息しています。背甲には不規則な模様が入り、側頭部にあざやかな赤色の斑紋があります。主に肉食性ですが、植物質のものも食べます。4~7月に5~22個の卵を産みます。子どもはきれいな緑色で、「ミドリガメ」という名で大量に流通していますが、外来生物で他の動物に影響を与えています。

07いきもの調査では、向畑・大吉調節池・西方等で見られました。



爬虫類 トカゲ目 ヤモリ科

ニホンヤモリ

Gekko japonicus

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT1,2)

分布 本州から九州 体の大きさ 10~14cm

特徴 古い市街地に多く、主に民家などの建築物に生息しています。体色は灰褐色で、背に不規則な黒褐色の斑紋をもち、周囲の明るさにより濃淡が変化します。指の裏の先が吸盤ようになっていて壁をはうことができます。夜行性で灯火に群がる昆虫などを食べ、ガやカなどの害虫を餌として捕えます。

07いきもの調査では、袋山・弥栄町・南荻島・増森等で見られました。



爬虫類 トカゲ目 トカゲ科

ニホントカゲ

Plestiodon japonicus

埼玉県レッドデータ地帯別危惧 (RT)

分布 北海道から九州 体の大きさ 20~25cm

特徴 幼体は黒とクリ・ム色の縦じまが入り、尾は青色で、金属光沢があって非常に美しい体をしてしています。成体は黄褐色に濃い褐色の縦じまが入り、ずんぐりした体型でなかなか迫力があります。石垣の隙間などに見られ、昆虫やミズミズなどを食べます。外敵に捕まりそうになるとしっぽを切って逃げます。

07いきもの調査では、平方で見られました。



爬虫類 トカゲ目 カナヘビ科

カナヘビ

Tokydomus tachydromoides

分布 北海道から九州 体の大きさ 18~25cm
 特徴 私たちにとって最も身近に見られる爬虫類の一つです。体は茶色で光沢がなく、足と尾で体を支えて腹を地面につけない点がトカゲと区別できます。乾燥した草地や水田のまわりなどで見られ、木に登ることもあります。昆虫やクモを食べ、外敵に押さえられるとしっぽを切り落として逃げますが、やがて復元します。

07いきもの調査では、袋山・総合体育館周辺・七左町等で見られました。



爬虫類 トカゲ目 ナミヘビ科

アオダイショウ

Elaphe climacophora

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧(NT2)

分布 北海道から九州 体の大きさ 1~2.5m
 特徴 日本では最も大きくなるヘビで、平地の耕地や、人家の近くに多くいます。ネズミ類を好んで食べ、人家の天井や倉庫にすみついてネズミを退治してくれるので、特に農家では大切にされています。幼蛇のうちは黒褐色の帯模様をしています。成長すると褐色をおびたオリーブ色になります。

07いきもの調査では、平方・大吉調節池等で見られました。



爬虫類 トカゲ目 ナミヘビ科

シマヘビ

Elaphe quadrivirgata

分布 北海道から九州 体の大きさ 1~1.5m
 特徴 平地や山地の草原・森林・水辺などに広くすみ、よく見かけます。背中には4本の縦じまがありますが、若い間は横じまもあります。6~8月に6~22個ほどの卵を産み、40~50日ほどでかえります。カエルを好んで食べるほか、ネズミ・小鳥とその卵・トカゲや小ヘビも食べます。体の色が黒いものはカラスヘビと呼ばれます。

07いきもの調査では、平方公園周辺・大間野町・健康福祉村等で見られました。



爬虫類 トカゲ目 ナミヘビ科

ヤマカガシ

Rhabdophis tigrinus

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧(NT2)

分布 本州から九州 体の大きさ 1~1.2m
 特徴 日本で最も普通に見られるヘビです。平地の水田や流れの近くにすみ、カエルや小魚などを食べます。首の背中側の皮膚の中には毒液を出す袋があります。また、奥歯の付け根に毒を出す腺があるので、かまれると危険です。

07いきもの調査では、新方川(念仏橋付近)で見られました。



両生類 カエル目 アマガエル科

ニホンアマガエル

Hyla japonica

分布 北海道から九州 体の大きさ 3~4cm
 特徴 小型で可愛らしい姿をしているカエルです。指先に吸盤をもつ樹上性のカエルで、低木や草の上で、ハエ・カ・クモなどを食べます。湿度が上がると鳴くので、昔から雨を知らせる天気予報になると言われています。のどの下を膨らませて鳴く姿は愛きょうがあります。環境に合わせて、体色を黄緑色・灰色・茶色に変化させます。

07いきもの調査では、北川崎・総合体育館周辺・七左町等で見られました。



両生類 カエル目 アマガエル科

トウキョウダルマガエル

Rana porosa porosa

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧 (NT2)

分布 関東・仙台地方・新潟県・長野県
 体の大きさ 6~9cm

特徴 溜池や水田地帯を中心に分布しています。後肢が短く、腹部周辺に小さな黒斑点があります。体色は茶褐色から緑色まで様々で、トノサマガエルに良く似ていて、間違えられます。昆虫やカニ・クモなどを食べます。5~6月頃水田に卵の固まりを産みます。

07いきもの調査では、平方・七左町で見られました。



両生類 カエル目 アマガエル科

ウシガエル

Rana catesbeiana

分布 北海道から九州・沖縄 体の大きさ 10~20cm
 特徴 食用ガエルとも呼ばれるように、大正年間に北アメリカから食用に移入されたものが逃げ出して、各地に帰化してしまった外来種です。ゴミが浮いて他のカエルがすまないような汚い場所にもすみすみます。夜行性で夕方から夜にかけて牛に似た声で鳴きます。アメリカザリガニや昆虫、水中で小魚なども食べます。

07いきもの調査では、葛西用水(登戸橋付近)・健康福祉村周辺で見られました。



魚類 ウナギ目 ウナギ科

ウナギ

Anguilla japonica

体の大きさ 1m
 特徴 北海道南部以南の日本全国に分布し、河川の中流域・下流域や河口・湖に生息しています。背側は暗色で、腹側は白色をしています。春先に、ツマヨウジほどのほとんど透明な稚魚(シラスウナギ)が川をさかのぼります。河川でシラスウナギはクロコと呼ばれる幼魚に成長し、川の上流へさらにさかのぼります。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・新方川(増森)中島等で見られました。



魚類 サケ目 アユ科

アユ

Plecoglossus altivelis altivelis

体の大きさ 10~25cm

特徴 体形は細長く、腹側は銀白色です。唇には藻をこすり取るためのへらが櫛のように並んだ櫛状歯をもちます。産卵は8~12月に主として川の中流と下流の境目にある浅瀬の小石の底で行われます。稚魚はその年の内に成熟し、産卵します。したがってほとんどのが1年の寿命です。

07いきもの調査では、元荒川・古利根川で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

ハクレン

Hypophthalmichthys molitrix

体の大きさ 100cm

特徴 アジア大陸東部原産で、現在は利根川・江戸川水系でも繁殖しています。目は小さく、頭部の腹側にあります。主に植物プランクトンを食べます。産卵期は6~7月で、雨の後、水が減りはじめるときに産卵します。コクレンと一緒にレンギョと呼ぶこともあります。

07いきもの調査では、市役所周辺で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

タモロコ

Gnathopogon elongatus elongatus

体の大きさ 12cm

特徴 河川の中流域・下流域や湖沼・池などのよどんだ水域に生息しています。動物食にかたよった雑食性で側線の上方に金色の帯があります。4~7月に産卵します。本州の中部地方・近畿地方・山陽地方・四国の瀬戸内側に分布していますが、現在では移殖により、東北地方・関東地方・九州の一部にも定着しています。

07いきもの調査では、平方・三野宮・越谷市役所周辺・新川(飛翔橋周辺)等で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

モツゴ(クチボソ)

Pseudorasbora parva

体の大きさ 8cm

特徴 日本全国に分布します。側線は完全で体側の中央を縦走し、これに沿うように黒色縦条がみられます。雑食性で、汚水や環境の変化にかなりの抵抗力があります。産卵期は4~8月です。関東地方ではクチボソの名で親しまれており、これは受け口の口があまり大きく開かないことからつけられました。

07いきもの調査では、西新井・市役所周辺・新方川(増森)等で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

ニゴイ

Hemibarbus barbus

体の大きさ 50cm

特徴 大規模な河川の中流域・下流域・湖沼などに生息します。体は細長く、口の端が下方に開き、一對の短いひげがあり、コイに似ているのでこの名があります。繁殖期のオスは全身が黒味を帯びます。水生小動物や付着藻類を食べる雑食性です。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・綾瀬川(愛宕橋付近)で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

コイ

Cyprinus carpio

体の大きさ 60cm

特徴 川の中流域・下流域・湖沼・池沼などに生息する、最もポピュラーな淡水魚の一種です。放流されている飼育型をマゴイ、野生型をノゴイと呼び分けることがあります。動物食主体の雑食性です。口は吻端ひんたんの下方に向き、口ひげは上あごに2対あります。

07いきもの調査では、大沢・健康福祉村周辺・綾瀬川(蒲生大橋付近)等で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

ゲンゴロブナ

Carassius cuvieri

体の大きさ 40cm

特徴 琵琶湖淀川水系に分布しますが、各地に移殖され、河川の中流域・下流域でも流れのゆるやかな入江になった「わんど(湾処)」やジャリ穴などに見られます。飼育型とされるヘラブナ(別名)が釣り魚として全国各地に放流されています。植物食性で主に植物プランクトンを食べます。

07いきもの調査では、平方公園周辺・三野宮・大吉調節池周辺等で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

ギンブナ

Carassius sp.

体の大きさ 25cm

特徴 河川の中流域・下流域のよどみや水路・平野部の池沼などに生息します。体の色はオリーブ色がかった銀色を基調とします。雑食性で底生動物・藻類などを食べます。理由はよく分かりませんが、オスはほとんどいません。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・西方・相模町等で見られました。



魚類 コイ目 コイ科

タイリクバラタナゴ

Rhodeus ocellatus ocellatus

体の大きさ 8cm

特徴 アジア大陸東部、台湾島原産の外来淡水魚で、現在は日本全土の池沼や河川などのよどんだ場所に生息しています。さまざまなサイズの淡水二枚貝に産卵します。日本在来のニッポンバラタナゴと違って、タナゴ類の生息地では優占種になりやすい種です。名前の「バラ」は、婚姻色の美しい「バラ色」に由来します。

07いきもの調査では、新川(飛翔橋周辺)・健康福祉村で見られました。



魚類 コイ目 ドジョウ科

ドジョウ

Misgurnus anguillicaudatus

体の大きさ 15cm

特徴 水田地帯・平野部の水路など、水質の良好な泥底地に生息しています。雑食性で、冬は泥にもぐって冬眠します。腸呼吸ができるため、水中酸素の欠乏には強いですが、腸呼吸ができないと死んでしまいます。ひげは5対で10本。6~7月の産卵期には水田内に侵入し、一時的な水たまりで産卵します。一年で成熟します。

07いきもの調査では、平方・三野宮・新方川(増森)等で見られました。



魚類 ナマズ目 ナマズ科

ナマズ

Silurus asotus

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧(NT2)

体の大きさ 50cm

特徴 湖沼や河川の中流から下流域にかけて生息し、夜間に活動します。うるこはなく、体に斑紋のあるものとないものがあります。完全な肉食性で、きわめて貪欲です。口に入るものなら何でも食べようとします。産卵期は5~8月です。地中を流れる電流の変化に敏感で、弱い地震でもさわぐといわれています。

07いきもの調査では、三野宮・北越谷・健康福祉村周辺等で見られました。



魚類 ダツ目 メダカ科

メダカ

Oryzias latipes latipes

埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類(VU)

体の大きさ 4cm

特徴 平野部の池沼・水田地帯の水路・河川のジャリ穴など、流れのゆるやかな水域に生息します。オスは背びれに大きな切れ込みがあり、尻びれが大きくなっています。産卵期は4~8月で、卵はしばらくメスの腹にかたまりになって付着していますが、やがて水草などに産み付けられます。

07いきもの調査では、平方公園周辺・荻島小学校周辺・葛西用水・東町等で見られました。



魚類 カダヤシ目 カダヤシ科

カダヤシ

Gambusia affinis

体の大きさ メス4cm オス3cm

特徴 北米原産で、大正2年に関東平野に移植されました。日本在来のメダカに似ていますが、卵ではなく直接子どもを産みます。メダカよりも水の汚染に強く、目の下に暗色の斜めの帯が1本あります。名は「蚊絶やし」で、カの幼虫ボウフラをよく捕食することによります。

07いきもの調査では、葛西用水(流通団地橋付近)で見られました。



魚類 スズキ目 ボラ科

ボラ

Mugil cephalus cephalus

体の大きさ 60cm

特徴 内湾や沿岸域・河川下流域に生息します。全長2~3cmのものをハク、3~18cmのものをオボコ、18~30cmのものをイナダと呼ぶ出世魚で、すべてのサイズが河川に侵入します。全国各地に分布し、雑食性です。

07いきもの調査では、平方公園周辺・大吉調節池周辺・増森等で見られました。



魚類 スズキ目 タイワンドジョウ科

カマルチー(ライギョ)

Channa argus

体の大きさ 80cm

特徴 湖沼・河川・水田地帯の水路に生息します。ほぼ完全な肉食です。空気呼吸を行うので、酸素の欠乏した水の中でも生きていますが、逆に空気呼吸ができないと窒息死してしまいます。産卵期は6~8月で、水草でつくった浮き巣をつくり、産卵します。日本に生息するようになったタイワンドジョウ科では最大の種類です。

07いきもの調査では、大吉調節池・西方・新方川(増森)等で見られました。



魚類 スズキ目 サンフィッシュ科

オオクチバス(ブラックバス)

Micropterus salmoides

体の大きさ 40~60cm

特徴 北アメリカ原産の外来淡水魚で、名前にあるように口は大きく、完全な肉食性です。上あご、下あごの歯はやすり状で、獲物を逃さないような構造になっています。日本には1925年に神奈川県芦ノ湖で放流されました。近年には相模湖などにも繁殖しています。

07いきもの調査では、出羽公園周辺・西方で見られました。



魚類 スズキ目 サンフィッシュ科

ブルーギル

Lepomis macrochirus

体の大きさ 15cm

特徴 北アメリカ原産の淡水魚で、現在は日本の各地の湖や河川で繁殖しています。水草の生えているよどみにすみ、プランクトンや水生昆虫を食べます。春から夏にかけて、オスは水底に穴を掘ってメスに産卵させます。

07いきもの調査では、出羽公園周辺・流通団地・綾瀬川(一ノ橋付近)等で見られました。



魚類 スズキ目 ハゼ科

トウヨシノボリ

*Rhinocheilichthys sp.*OR

体の大きさ 7cm

特徴 平野の湖沼や河川にすんでいます。体側には、6~7個の暗色の横斑が相互に並び、腹部中央は暗い青色です。成魚は主にカゲロウなどの水生昆虫の幼虫を食べます。地域や環境により、体の色斑などの形質や生態はさまざまです。

07いきもの調査では、平方公園・大吉調節池周辺・中島・出羽公園周辺で見られました。



魚類 スズキ目 ハゼ科

マハゼ

Acanthogobius flavimanus

体の大きさ 8cm

特徴 北海道南部から九州に分布し、内湾や河口・湖の砂泥底に生息します。体は淡褐色で体側の中央に暗色の斑紋が並びます。雑食性で水生小動物から藻類まで食べます。ハゼ釣りの対象で人気があり、古くから食用に魚獲されています。

07いきもの調査では、綾瀬川(一ノ橋付近)・蒲生愛宕町で見られました。



クモ類 クモ目 コガネグモ科

ナガコガネグモ

Argiope bruennichii

体の大きさ オス10mm メス20~25mm

特徴 日本全土に分布し、草原や林縁の草の間・水田の稲の間で見られます。20~50cmの垂直円網を張り、直線状または円形のかくれ帯をつけ、その中央にとまります。幼生のかくれ帯はジグザグ模様です。腹部が長く、ジョロウグモと混同されることがあります。

07いきもの調査では、平方・船渡で見られました。



クモ類 クモ目 コガネグモ科

ジョロウグモ

Nephila clavate

体の大きさ オス6~8mm メス17~25mm

特徴 本州から沖縄に分布し、夏から秋にかけて人家周辺から山地までのいたるところに見られる大型のクモです。円筒型の体に黄色と灰青色の横じまがあり、腹側の赤色がよく目立ちます。秋に成熟し、複雑な三重網を張ります。

07いきもの調査では、向畑・大吉調節池・増林等で見られました。



甲殻類 十脚目 スマエビ科

ヌカエビ

Paratya compressa improvisa

埼玉県レッドデータ絶滅危惧 類(VU)

分布 東北地方から本州中部

体の大きさ 3cm

特徴 川や池沼・水田・用水路などの流れのゆるやかなところに生息します。水草の陰や石の下に隠れていて、主に藻などを食べます。体の色は緑褐色や褐色のものまでさまざまで、成熟したメスは黒色のものもあります。



甲殻類 十脚目 テナガエビ科

テナガエビ

Macrobrachium nipponense

埼玉県レッドデータ地帯別危惧(RT)

分布 本州から九州

体の大きさ 9~10cm

特徴 比較的低位の河川・湖沼にすみ、流れのゆるやかな泥底を好みます。オスの第2胸脚は非常に長く、体長の2倍近くにもなります。日本の淡水エビ類中最もポピュラーなエビです。食用にもなります。

07いきもの調査では、大吉調節池周辺・増森・中島・出羽公園周辺で見られました。



甲殻類 十脚目 ザリガニ科

アメリカザリガニ

Procambarus clarki

分布 日本全国

体の大きさ 10cm

特徴 各地でエビガニと呼ばれて親しまれています。昭和5年頃アメリカから食用ガエルの餌として移入されたものが、河川・湖沼・水田などで自然繁殖するようになったと言われています。頭角は三角形で、先端近くに小さな歯があります。日本在来のザリガニに似ていますが、はるかに生活力が強く、雑食性です。

07いきもの調査では、平方公園・市役所周辺・宮本町等で見られました。



甲殻類 十脚目 イワガニ科

クロベンケイガニ

Holometopus dehaani

分布 房総半島以南から沖縄

体の大きさ 3.5cm

特徴 河口域や干潟のヨシ原にすみ、近くの水田のあぜや堤に穴を掘ります。体は赤紫色を帯びた褐色をしています。甲羅には隆起があり、脚には硬くて長い毛があります。雑食性で小魚や海藻類を食べます。

07いきもの調査では、綾瀬川(愛宕橋付近)で見られました。



甲殻類 背甲目 カブトエビ科

カブトエビ(アメリカカブトエビ)

Triops longicaudatus

分布 本州から九州 体の大きさ 5cm

見られる時期 寿命は1ヵ月で5月頃

特徴 水田などにごく普通に生息しています。日本には3種類のカブトエビが生息し、埼玉にはアメリカカブトエビが多く入っています。ほとんどがメスで腹部に赤い卵をつけています(無性生殖)。肉食で共食いをします。孵化は一度にせずに、種の保全の為に1年目に孵化するものから数十年先に孵化するものもいます。

07いきもの調査では、平方公園周辺・宮本町・七左町等で見られました。



甲殻類 無甲目 ホウネンエビ科

ホウネンエビ

Branchinella kugenumaensis

分布 関東地方から九州 体の大きさ 2cm

見られる時期 寿命は1ヵ月で5月頃

特徴 水田などにごく普通に生息しています。原始的なエビ(堅い外殻をもたない)で、いつも仰向けになって泳ぐ習性があります。江戸時代の頃、金魚の餌として重宝がられました。メスは腹部に卵嚢(白い袋状)を持ち、オスは頭部が大きいのが特徴です。環境特性の著しい種で、生息場所の水田以外の場所に放流しても育ちません。

07いきもの調査では、平方・宮本町で見られました。



貝類 ニナ目 タニシ科

マルタニシ

Cipangopaludina chinensis malleata

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧(N₂)

分布 北海道南部から沖縄諸島

体の大きさ 殻高6cm 殻径4.5cm

特徴 タニシ科の巻貝で、殻質は薄く表面は平滑で、殻口外唇がやや外側に反っています。かつては水田によく見られましたが、近年は水田・小川の改修工事や農薬の使用によって大幅に減少しています。池や沼・河川・水田などに生息しています。食用として、殻から出して酢味噌和えなどにして食べます。

07いきもの調査では、平方で見られました。



貝類 ニナ目 タニシ科

ヒメタニシ

Sinotaia quadrata histrica

分布 本州から九州

体の大きさ 殻高3.5cm 殻径2.3cm

特徴 水の汚い池や沼にすむ小型のタニシです。殻の表面のすじがないものや、ときには短い毛の生えた個体もとれます。他のタニシと同様に卵胎性で、30~40個の子貝を産みます。食用にするほか、ニワトリやアヒルの餌などにします。

07いきもの調査では、平方・大相模中学校周辺で見られました。



貝類 ニナ目 カワニナ科

カワニナ

Semisulcospira libertina

分布 北海道から沖縄諸島

体の大きさ 殻高3cm 殻径1.2cmくらい

特徴 川や池・湖などに最も普通に見られる淡水貝です。成長したものは、先端部分が折れていることが多いです。藻類や底泥の中の有機物などを食べています。ホタルの幼虫が好んで食べます。

07いきもの調査では、平方で見られました。



貝類 モノアラガイ目 モノアラガイ科

モノアラガイ

Limnaea auricularia

埼玉県レッドデータ準絶滅危惧(NT2)

分布 北海道から九州

体の大きさ 殻高2.5cm 殻径2cm

特徴 殻は左巻のサカマキガイに似ていますが、やや大きくて丸味が強く、殻が右巻なので区別ができます。また、触角が太くて短く三角形をしています。金魚鉢などに入れておくと、ガラスや石についた藻をきれいに食べてしまうので、「物洗貝」と名づけられました。

07いきもの調査では、平方で見られました。



貝類 モノアラガイ目 モノアラガイ科

ヒメモノアラガイ

Austropeplea ollulus

分布 日本全土

体の大きさ 殻高1cm 殻径0.7~0.9cm

特徴 各地の田や人家近くの汚れた溝などにすむ巻貝で、殻は右巻です。モノアラガイより小さくてやや濃い色をしています。ウシやウマに寄生するカンテツの中間宿主になっています。

07いきもの調査では、平方で見られました。



平方公園

平方自然観察林



せんげん台

千間台第四公園

埼玉県立大学

・浄山寺



児童館コスモス

くすのき荘



北部市民会館

大袋

大吉調整池

キャンベルタウン
野鳥の森

しらこぼと
水上公園



保健センター

宮内庁
埼玉鴨場

北越谷第五公園

文教大学

キャンベルタウン
公園

能楽堂

総合体育館

大落古利根川

しらこぼと
運動公園



久伊豆神社

アリタキ植物園

花田苑

市民球場

463

桜並木

市立図書館

市立病院

市民球場

市民球場

市民球場

東埼玉資源環境組合
第一工場(リユース)

大聖寺

元荒川

県民健康
福祉村

福祉村

けやき荘

越谷

中央市民会館

しらこぼと橋

大相模調整池

防災基地

見田方遺跡公園

中川

西体育館

科学技術体験センター
ミラクル

南越谷

新越谷

越谷
コミュニティセンター

越谷レイクタウン

蒲生

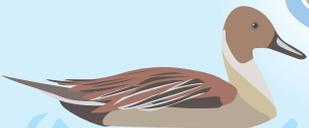
児童館ヒマワリ

南体育館

綾瀬川

越谷浄化施設

東武伊勢崎線



索引

植物・鳥・昆虫・その他

50音順に並べてあります

植 物

50音順に並べてあります

ア行

アオカモジグサ	67
アカザ	35
アカメガシワ	44
アキノノゲシ	59
アケビ	36
アサザ(希少)	15
アズマネザサ	68
アゼナルコ	69
アメリカイヌホウズキ	50
アメリカオニアザミ	58
アメリカセンダングサ	54
アメリカフウロ	43
アレチウリ	46
アレチギシギシ	28
イ(イグサ)	62
イシミカワ	30
イタドリ	32
イチョウ	26
イヌガラシ	38
イヌタデ	31
イヌビエ	64
イヌビユ	35
イヌホウズキ	50
イヌムギ	67
イノコズチ (ヒカゲイノコズチ)	35
イモカタバミ	43
ウキクサ	69
ウシハコベ	34
ウラジロチチコグサ	57
エノコログサ	65

オオアレチノギク	55
オオイヌタデ	32
オオイヌノフグリ	51
オオオナモミ	52
オオケタデ(オオベニタデ)	31
オオジシバリ	59
オオバコ	52
オオマツヨイグサ	46
オギ	64
オニタビラコ	58
オニノゲシ	58
オヒシバ	66
オモダカ	60
オランダミミナグサ	34

カ行

カキドオシ	49
カゼクサ	66
カタバミ	43
カナムグラ	28
カモジグサ	67
カヤツリグサ	70
カラシナ (セイヨウカラシナ)	39
カラスウリ	46
カラスノエンドウ (ヤハズエンドウ)	42
カラスムギ	68
カントウタンポポ	60
カントウヨメナ	55
ククイモ	54
ギシギシ	29

キタミソウ(希少).....	16	スギナ.....	70
キツネノボタン.....	36	ススキ.....	64
キュウリグサ.....	48	スズメノエンドウ.....	42
キンエノコロ.....	65	スズメノカタビラ.....	67
キンミズヒキ.....	41	スズメノテッポウ.....	68
クコ.....	50	スズメノヒエ.....	65
クサイ.....	63	スダジイ.....	27
クサヨシ.....	68	スベリヒユ.....	33
クズ.....	42	スミレ.....	45
クスノキ.....	35	セイタカアワダチソウ.....	56
クヌギ.....	27	セイヨウタンポポ.....	59
ケキツネノボタン.....	36	セリ.....	47
ケヤキ.....	27	センダングサ.....	54
ゲンゲ(レンゲソウ).....	41		
コイヌガラシ.....	38	タ行	
コオニタビラコ.....	60	タカサブロウ.....	53
コガネギシギシ.....	29	タガラシ.....	36
コガマ.....	69	タチイヌノフグリ.....	51
コセンダングサ.....	54	タチツボスミレ.....	45
コニシキソウ.....	44	タネツケバナ.....	38
コバナキジムシロ.....	40	チガヤ(ツバナ).....	63
コヒルガオ.....	48	チカラシバ.....	66
コモチマンネングサ.....	39	チチコグサ.....	57
		チヂミザサ.....	64
サ行		チドメグサ.....	47
ジュウニヒトエ.....	49	ツボスミレ.....	45
ジュズダマ.....	63	ツメクサ.....	34
シロザ.....	34	ツユクサ.....	63
シロツメクサ.....	41	トキワハゼ.....	51
シロバナタンポポ.....	60	ドクダミ.....	37
スイカズラ.....	52		
スイバ(スカンポ).....	28	ナ行	
スカシタゴボウ.....	38	ナガバギシギシ.....	29
スギ.....	26	ナガボノシロワレモコウ.....	40

ナガミヒナゲシ	37
ナズナ	37
ニガナ	59
ニシキソウ	44
ニワゼキショウ	62
ヌスビトハギ	42
ネジバナ	70
ノアザミ	57
ノイバラ	40
ノウルシ (希少)	16
ノカンゾウ	61
ノゲシ (ハルノノゲシ)	58
ノビル	61
ノブドウ	44
ノボロギク	55
ノミノフスマ	33

 八行

ハキダメギク	53
ハコベ (コハコベ)	33
ハハコグサ	56
ハルジオン	55
ハンノキ	26
ヒガンバナ	62
ヒメオドリコソウ	49
ヒメガマ	69
ヒメクグ	70
ヒメジョオン	56
ヒメムカシヨモギ	56
ヒヨドリジョウゴ	50
ヒルガオ	48
フジバカマ	57
ブタクサ	53
ヘクソカズラ (ヤイトバナ)	47

ヘビイチゴ	39
ヘラオオバコ	52
ホトケノザ	49

 マ行

ママコノシリヌグイ	30
ミズアオイ (希少)	17
ミズヒキ	30
ミゾコウジュ (希少)	15
ミゾソバ	31
ムラサキカタバミ	43
ムラサキケマン	37
ムラサキサギゴケ (サギゴケ)	51
ムラサキツメクサ (アカツメクサ)	41
メヒシバ	65

 ヤ行

ヤエムグラ	48
ヤブガラシ	45
ヤブカンゾウ	61
ヤブジラミ	47
ヤブラン	61
ヤマノイモ	62
ユウゲショウ	46
ユキノシタ	39
ヨウシュヤマゴボウ	32
ヨシ (アシ)	66
ヨモギ	53

 ワ行

ワレモコウ	40
-------	----

鳥

50音順に並べてあります

ア行

アオサギ	75
アオジ	87
アオバズク	82
アカハラ	84
アマサギ	74
イソシギ	80
ウグイス	85
オオバン(希少)	19
オオヨシキリ	85
オナガ	88
オナガガモ	76

カ行

カイツブリ	73
カシラダカ	86
カッコウ	81
カリガネ(希少)	18
カルガモ	75
カワウ	73
カワセミ	82
カワラヒワ	87
キジ	78
キジバト	81
キンクロハジロ	77
クイナ(希少)	19
コアジサシ(希少)	20
ゴイサギ	73
コガモ	76
コゲラ	82

コサギ	74
コチドリ	79

サ行

シジュウカラ	86
シメ	87
ジョウビタキ	84
シラコバト(希少)	20
スズメ	87
セグロカモメ	81
セグロセキレイ	83
セッカ	85

タ行

ダイサギ	74
タシギ	80
タヒバリ	83
チュウサギ(希少)	18
チュウシャクシギ	80
チョウゲンボウ	78
ツグミ	85
ツバメ	83
ツミ	78

ハ行

ハクセキレイ	83
ハシビロガモ	77
ハシブトガラス	88
ハシボソガラス	88
バン	79

ヒドリガモ	76
ヒバリ	82
ヒヨドリ	84
ホオジロ	86
ホシハジロ	77

マ行

マガモ	75
ムクドリ	88
ムナグロ	79
メジロ	86
モズ	84

ヤ行

ユリカモメ	81
ヨシゴイ (希少)	17

昆虫

50音順に並べてあります

ア行

アオイトトンボ	91
アオスジアゲハ	102
アオマツムシ	96
アキアカネ	92
アゲハ(ナミアゲハ)	103
アブラゼミ	98
アメンボ	98
イチモンジセセリ	107
ウマオイ	95
エンマコオロギ	95
オオカマキリ	94
オオスカシバ	107
オオスズメバチ	102
オニヤンマ	91
オンブバッタ	97

カ行

カナブン	100
カブトムシ	100
キアゲハ	103
キタテハ	106
ギンヤンマ	92
クビキリギス	95
クマゼミ	99
クロアゲハ	103
ケラ	96
コカマキリ	94
コクワガタ	100
コシアキトンボ	93

コバネイナゴ	96
ゴマダラカミキリ	101
ゴマダラチョウ	107
コムラサキ	106

サ行

シオカラトンボ	92
ショウリョウバッタ	97
スジグロシロチョウ	104
セイヨウオオマルハナバチ	102

タ行

タマムシ	101
チャドクガ	107
ツクツクボウシ	99
ツマキチョウ	104
ツマグロヒョウモン	106

ナ行

ナガサキアゲハ	103
ナツアカネ	93
ナナホシテントウ	101
ナミテントウ (テントウムシ)	101
ニイニイゼミ	98
ノコギリクワガタ	100
ノシメトンボ	93

ハ行

ハグロトンボ	91
ハサミムシ	97

ハラヒロカマキリ	94
ヒグラシ	99
ヒメアカタテハ	106
ベニシジミ	105

マ行

ミツバチ	102
ミドリシジミ	105
ミンミンゼミ	99
モンキチョウ	104
モンシロチョウ	104

ヤ行

ヤマトシジミ	105
ヨコヅナサシガメ	98

ラ行

ルリシジミ	105
-------------	-----

その他

50音順に並べてあります

ア行

- アオダイショウ(爬虫類)..... 111
 アズマモグラ(哺乳類)..... 109
 アブラコウモリ(哺乳類)..... 109
 アメリカザリガニ(甲殻類)..... 118
 アユ(魚類)..... 113
 ウシガエル(両生類)..... 112
 ウナギ(魚類)..... 112
 オオクチバス(ブラックバス)
 (魚類)..... 116

カ行

- カダヤシ(魚類)..... 116
 カナヘビ(爬虫類)..... 111
 カブトエビ(アメリカカブトエビ)
 (甲殻類)..... 119
 カムルチー(ライギョ)(魚類)..... 116
 カワニナ(貝類)..... 120
 ギンブナ(魚類)..... 114
 クサガメ(爬虫類)..... 110
 クロベンケイガニ(甲殻類)..... 119
 ゲンゴロウブナ(魚類)..... 114
 コイ(魚類)..... 114

サ行

- シマヘビ(爬虫類)..... 111
 ジョロウグモ(クモ類)..... 118

タ行

- タイリクバラタナゴ(魚類)..... 115
 タモロコ(魚類)..... 113
 テナガエビ(甲殻類)..... 118
 トウキョウダルマガエル
 (両生類)..... 112

トウヨシノボリ(魚類)..... 117

ドジョウ(魚類)..... 115

ナ行

- ナガコガネグモ(クモ類)..... 117
 ナマズ(魚類)..... 115
 ニゴイ(魚類)..... 114
 ニホンアマガエル(両生類)..... 112
 ニホントカゲ(爬虫類)..... 110
 ニホンヤモリ(爬虫類)..... 110
 ヌカエビ(甲殻類)..... 118

ハ行

- ハクビシン(哺乳類)..... 109
 ハクレン(魚類)..... 113
 ヒメタニシ(貝類)..... 120
 ヒメモノアラガイ(貝類)..... 120
 ブルーギル(魚類)..... 117
 ホウネンエビ(甲殻類)..... 119
 ボラ(魚類)..... 116
 ホンドタヌキ(哺乳類)..... 109

マ行

- マハゼ(魚類)..... 117
 マルタニシ(貝類)..... 119
 ミシシッピーアカミミガメ
 (爬虫類)..... 110
 メダカ(魚類)..... 115
 モツゴ(クチボソ)(魚類)..... 113
 モノアラガイ(貝類)..... 120

ヤ行

- ヤマカガシ(爬虫類)..... 111

自然観察ノート

私たちが住んでいる地球は、昆虫や鳥をはじめとしたさまざまな生物が暮らしています。四季の移り変わりを告げる植物にもたくさん出会うことができます。野外へ出かける時間を増やし、さまざまな生物たちの暮らしをのぞいてみましょう。

「自然」とひとくちにいっても、いろいろなものから成り立っています。大地の土や石、水や空気、植物の木や草やコケ、昆虫に鳥たち、そしてケモノ。自然観察で大切なことは、これらの「自然」と私たち人間とのかかわりを、まず知ることです。

自然観察というと、遠くの山などにいろいろな道具を持って出かける、専門家のすることと思いがちですが、自分たちの街や自転車ですぐの郊外で、気軽にできるのです。

自然観察の第一歩は、まず、出かけることです。街の中でピラカンサの生け垣の実を食べるヒヨドリを観察したり、郊外で植物から季節の移り変わりを感じることから始まります。植物、野鳥、昆虫など生き物をなんでもウォッチングしてみましょう。

【植物観察ノート】

STEP1 - よく見ること -

まず、植物を“よく見ること”です。同じように見えるタンポポもよく観察するとセイヨウタンポポとカントウタンポポなどの違いがあります。開発された市街地に咲くのは、西洋種のセイヨウタンポポばかりです。外来種か日本種かを見てその土地の自然度が分かります。

STEP2 - 名前を知る -

次に、この本や「植物図鑑」などで名前を調べましょう。植物と仲良しになるには“名前を知ること”が大切です。最初は、「図鑑」の写真やイラストで、絵合わせして名前を調べてください。植物観察会などに参加して、詳しい人から教わるのもよい方法です。

STEP3 - 生育環境を調べる -

植物の名前が分かったら、林の中や水辺などそれぞれ違った生育環境の中でどんな種類が多いのかを調べてみましょう。植物の生育環境は、特に人間とのかかわりによって、大きな影響をうけていることも理解してください。ここまでできたら、植物とつき合うことがどんどん楽しくなります。

【野鳥観察ノート】

STEP1 - 鳥のいる場所を知る -

鳥のいる場所もさまざまです。ヒヨドリのように、都会への適応力も強く、人間と密着した生活をしている鳥もいれば、農地や雑木林の減少で、少なくなったヒバリのような鳥もいます。鳥も人間との関わりで、ずいぶん影響を受けています。

バードウォッチングの第一歩は、このような鳥の種類によって異なる、鳥たちのいる場所をよく知っておくことです。いそうな場所に行ったら、鳥たちに見つかる前に見つけるのが、コツ。

STEP2 - じっくり観察する -

鳥は用心深いので、見つけたら逃げないように、木の幹などに身を隠し、そっと動かないこと。やさしい気持ちをもって、鳥を安心させ、じっくり観察しましょう。

STEP3 - しぐさを覚える -

名前を知るには、まず鳥の特徴を覚えておくのがコツ。ノコノコ歩くハト、尾を振るくせのあるセキレイ、波状に飛ぶヒヨドリ。鳥のしぐさを覚えておくと、見分けるときに便利です。鳴き方や色の特徴を「図鑑」で親しんでおくと目が肥えてきます。

【昆虫観察ノート】

STEP1 - いつ・どこにいるかを知る -

キリギリスは草地に、セミは林の中、クワガタは雑木林にいます。これは、昆虫が地形や食性に対応してそれぞれ「すみわけ」しているからです。昆虫観察をするときは、自然環境の全体を考えてください。

“いつ”(季節・月日・時刻)、“どこで”(草地・林・水辺など)昆虫を見たかを、注意して観察することが、昆虫観察の第一歩です。

STEP2 - 名前を調べる -

「図鑑」などで、昆虫の名前を調べる。分からないときは、専門家に聞くことも大切です。昆虫は、決まった植物の葉などしか食べないことが多いので、昆虫がいる植物の名前が分かれば、名前を調べるときに便利です。

STEP3

名前が分かったら、昆虫の行動のようすをメモしたり、スケッチや写真で記録します。昆虫の行動は分かれば分かるほど、興味がつきません。また、植物と昆虫は、深い関わりがあるので、この両方を一緒に観察することは、もっと大きな自然を知るために大切です。

自然観察のマナー

自然とおつき合いするためには、マナーが必要です。

ゴミは捨てないで持ち帰る。

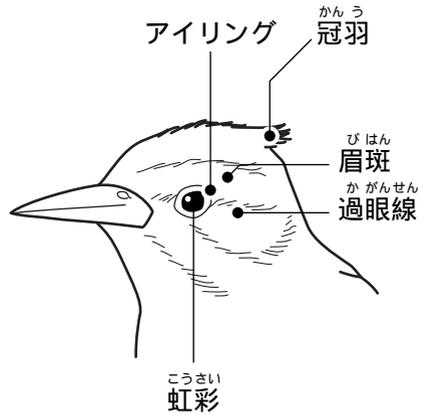
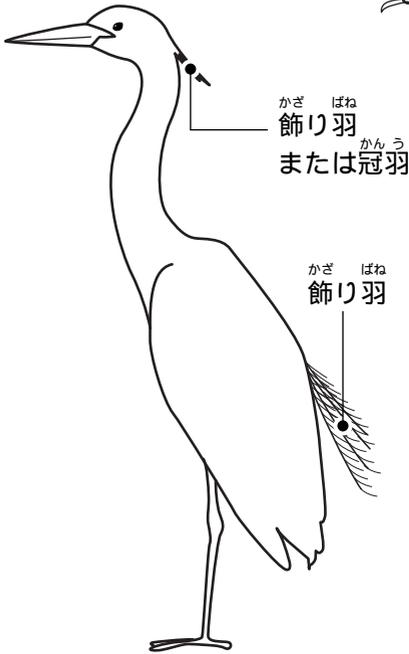
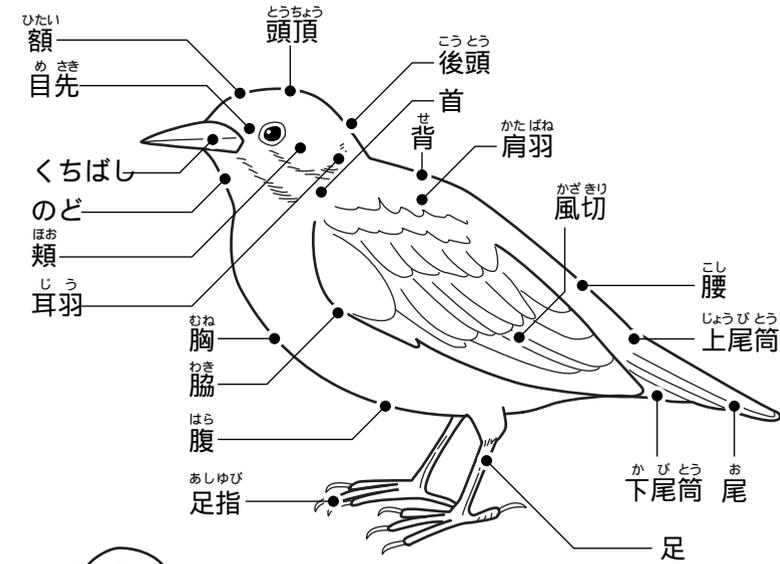
むやみに植物や昆虫を採集しない。

野鳥の巣に近づかない、探さない。

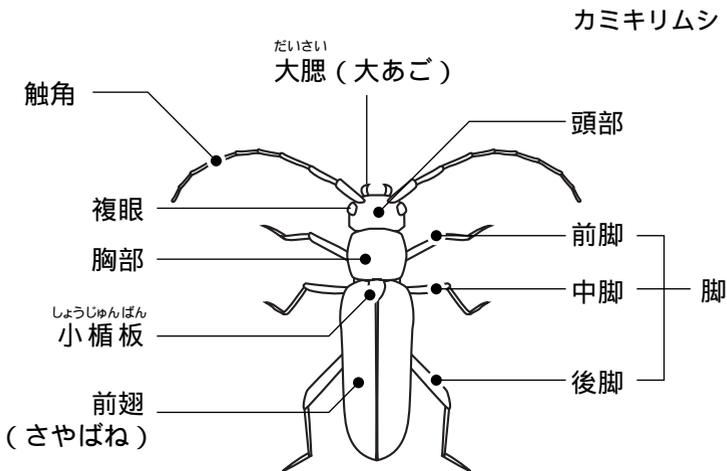
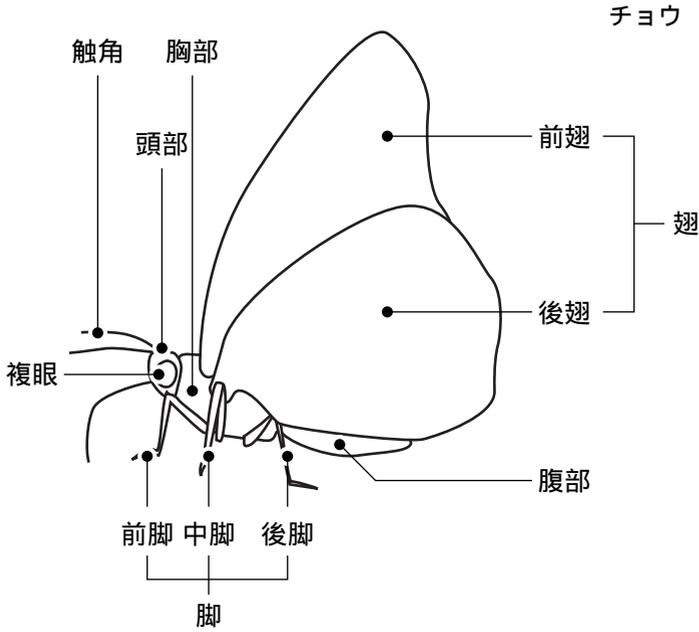
静かに観察する。自然の音を聞く。

危険な場所にはいかない。黙って入ってはいけない所には、断ってから入る。

鳥のからだと各部の名称

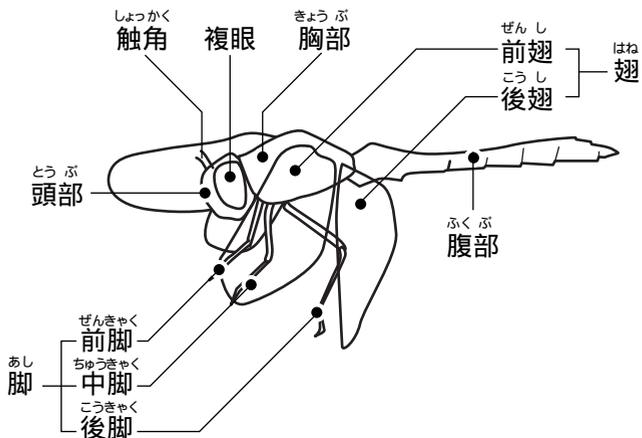


昆虫のからだと各部の名称

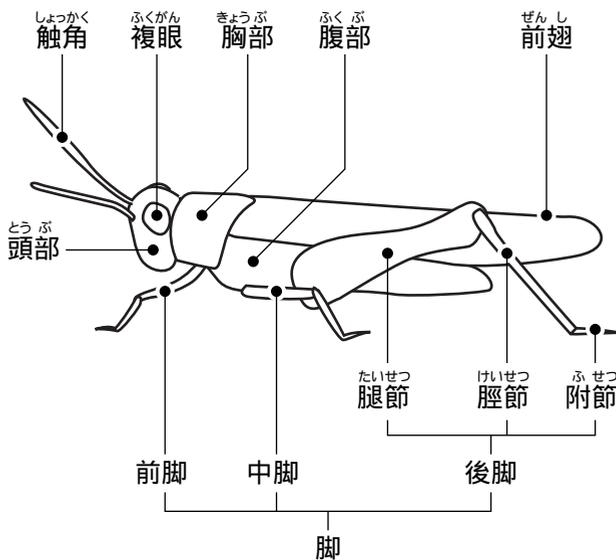


昆虫のからだと各部の名称

トンボ



バッタ



本誌作成に際しての参考文献と御協力いただいた方々

【参考文献】

- 改訂増補 牧野新日本植物図鑑 1989年 北隆館
形とくらしの雑草図鑑 2007年 全国農村教育協会
原色甲殻類検索図鑑 武田正倫著 1982年 北隆館
原色世界貝類図鑑() 渡部忠重・伊藤潔共著 1977年 保育社
原色日本貝類図鑑 吉良哲明著 1979年 保育社
原色日本クモ類図鑑 1986年 保育社
原色日本昆虫図鑑(上)・甲虫編 増補改訂版 1995年 保育社
原色日本昆虫図鑑(下) 1982年 保育社
埼玉県昆虫誌 1998年 埼玉昆虫談話会
埼玉県レッドデータブック2005 植物編 埼玉県
埼玉県レッドデータブック2008 動物編 埼玉県
世界文化生物大図鑑 貝類 2004年 世界文化社
世界文化生物大図鑑 動物 哺乳類・爬虫類・両生類 2004年 世界文化社
日本帰化植物写真図鑑 2005年 全国農村教育協会
日本の樹木 1994年 山と溪谷社
日本の野草 1998年 山と溪谷社
日本鳥類保護連盟 鳥630図鑑 1988年 (財)日本鳥類保護連盟
日本鳥類目録 改訂第6版 2000年 日本鳥学会
日本動物大百科 哺乳類 1996年 平凡社
日本動物大百科 両生類・爬虫類・軟骨魚類 1996年 平凡社
フィールドガイド 日本の野鳥 高野伸二著 1982年 (財)日本野鳥の会
フィールド版 日本の野生植物 草本 2007年 平凡社
フィールド版 日本の野生植物 木本 2007年 平凡社
山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 2001年 山と溪谷社

【編さん協力】

- ・内山裕司 ・田中実 ・矢島民夫
・第3次越谷市ふるさといきもの調査 市民調査員
・第3次越谷市ふるさといきもの調査 運営委員会
緑川淑子 鋪野英雄 飯島眞 山部直喜 池ノ谷龍市 中村千代子 岡田香子
佐藤宏 小菅靖 松原茂樹 高野和夫 田中千恵子

【写真提供】

- ・石井秀夫 ・植平徹 ・小谷俊介 ・大隅巖 ・兼武盟 ・木戸美幸 ・久保田鮎美
・小林伸廣 ・小林正樹 ・小林正康 ・小早川隆夫 ・佐久間辰夫 ・酒井宏明
・島尻譲 ・白鳥正之 ・中村澄恵 ・永野吉一 ・三上忠仁 ・矢島民夫 ・若山優輝
・埼玉県立さいたま水族館

本冊子を作成するにあたり、調査員の方から多くの報告をいただいたにもかかわらず、紙面の都合で掲載できなかったこと多くありますことをお詫び申し上げますとともに、写真提供や編集等にご協力いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年12月

【企画・発行】

- ・越谷市環境経済部環境保全課

〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号 ☎048-963-9183